

佐倉、多村、石井、山岸  
高野、青木

### 八幡史学館名所百選チーム

#### 第56回定例打ち合わせ

日時=平成25年6月4日  
会場=八幡公民館

#### 1) 先月の活動記録

- ①5月7日 第55回定例会
- ②5月21日 八幡宮池回り清掃、大蔵延命寺拓本調査(記録書原紙完成)
- ③市川本店文書調査

#### 2) 当面のスケジュール

- ①6月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃、拓本調査活動(内容未定)  
八幡史学館受付
- 7月2日(火曜日) 13時30分 次回定例会
- ②6、7月の八幡歳時記 7-17 案内紙

#### 3) 「八幡史学館」について

- ①6月18日(火曜) 申し込み受付。ポスター掲示=八幡宿駅、飯香岡八幡宮ほか  
バスなく募集数増のため苦戦予想。知人に参加を呼びかけてください。
- ②第1回で当チームの活動状況などを紹介し、新メンバー募集

#### 4) 市川本店文書調査

- ①戸長文書、醤油製造関係文書、酒仕入れ販売関係文書など 合計数万点  
天明7年八幡村「村鑑明細帳、付船数明細」 超第一級資料  
壬申戸籍、土地台帳関係資料  
五大力船関係資料  
八幡小学校創立関係資料  
醤油原料、酒など仕入れ関係資料  
明治維新期の情報収集関係資料  
取引関係資料
- ②文書整理と「文書目録」(リスト)、基本資料と五大力船など主要文書解説中
- ③一部を「八幡史学館」、「市原の古文書研究」などで発表

#### 5) 八幡名所100選関係

- ①八幡公民館掲示、持ち帰りオープン。これまで100セットほどはける。
- ②評価はまだまだ。じっくりと取り組む

#### 6) 市制50周年企画写真集「昭和の市原」協力について

- ①昭和の写真募集中。一応6月末
- ②八幡地区中心に編集作業に協力中

③DVD付き

紙田さん

#### 7) 「八幡史学館文庫」の開設

- ①寄付のつもりで郷土資料を1階トイレ前の倉庫に集めていき。
- ②図書室閉庫図書を申し入れたい。寄付のお願い。

- ①郷土文庫
- ②郷土内行写入
- ③郷土内行文庫コーナー

#### 8) 市制50周年、八幡公民館65周年「文化祭」と「市民ギャラリー」

- ①館長から(八幡公民館の名前で出展=予算はほぼゼロ)  
10月5、6日記念文化祭。(12月21日~1月10日市民ギャラリー)
- ②実施案を出すことになった。企画、準備、運営などの実務は本会でやりたい。

#### 文化祭(検討案)

##### 1階ロビー

- ①DVD上映 昭和10年代の八幡町歳時記(市川得三)
- ②八幡上映 昭和30年代の八幡(魚惣=八幡、整備中)

##### 2階見喜舟書

- ①八幡建設の歌、座右の銘 717

##### 3階山口達画の世界

- ①八幡公民館を作った菅野儀作と初代市長鈴木貞一

##### 4階八幡むかし写真館①、八幡名所100選

- ①記念講演6日13時~15時 上総国府について 田所真さん

##### 和室

- お茶会(大野さん)

##### 2階廊下

- ①飯香岡八幡宮祭礼年次ポスター展

##### 体育館

- ①昭和の八幡、八幡公民館写真展

- ②八幡公民館の65年を見続けた八幡の歴史資料展 → 2階ロビー

育んた

B文化、絵画、五大カヌー

以上

寛永7年(1630)、宝曆9年(1689)飯香岡八幡宮所蔵  
室町中期三の宮みこし鳳凰銘

奉寄進鳳凰之事  
上総国市原庄於

八幡郷八幡三之宮御宝殿  
為二世悉地成就也菊間郷  
市河玄蕃如件

別当覚源上人  
神主式部

寛永七曆  
五月十五日

敬白

宝曆九己卯歳  
九月朔日  
修復之節口雀  
新造畢

寄進奉る鳳凰のこと

上総国市原庄

八幡郷八幡において三の宮御宝殿  
二世のため悉地成就なり。菊間郷  
市河玄蕃、くだんのごとし。

別当(靈応寺)覚源上人  
神主(飯香岡八幡宮)式部

寛永七年  
五月十五日

敬白

宝曆九己卯年  
九月一日  
修復の節口雀  
新造おわる。

広辞苑の大意  
二世のあの世とこの世  
悉地成就の意。三密相応して成就した妙果

上総惣社飯香岡八幡宮由緒本記(元禄10年)

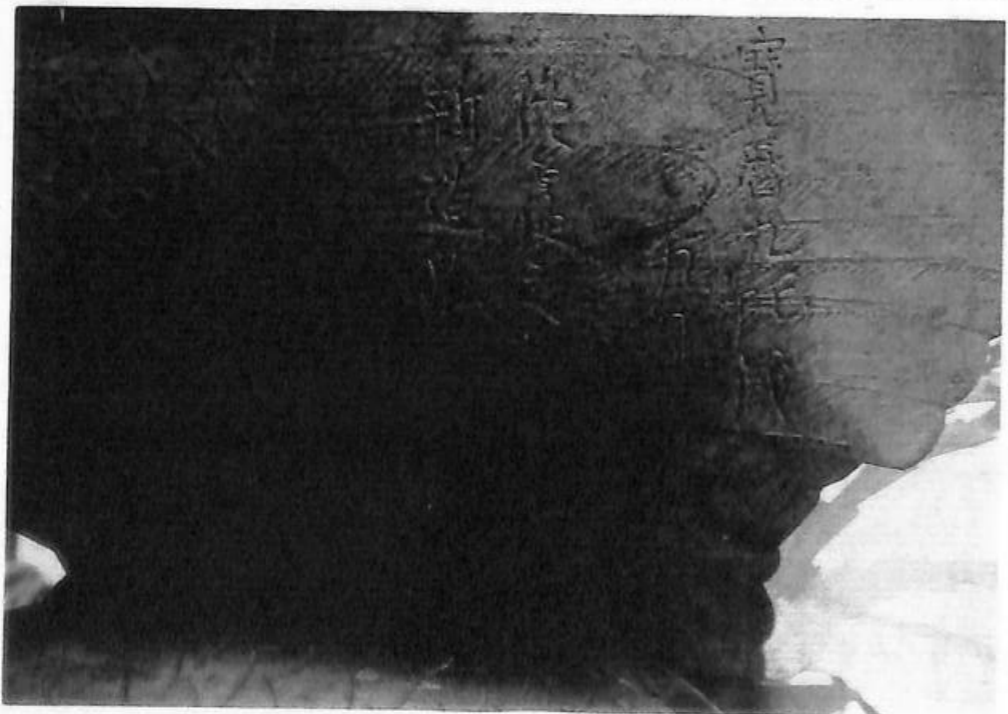
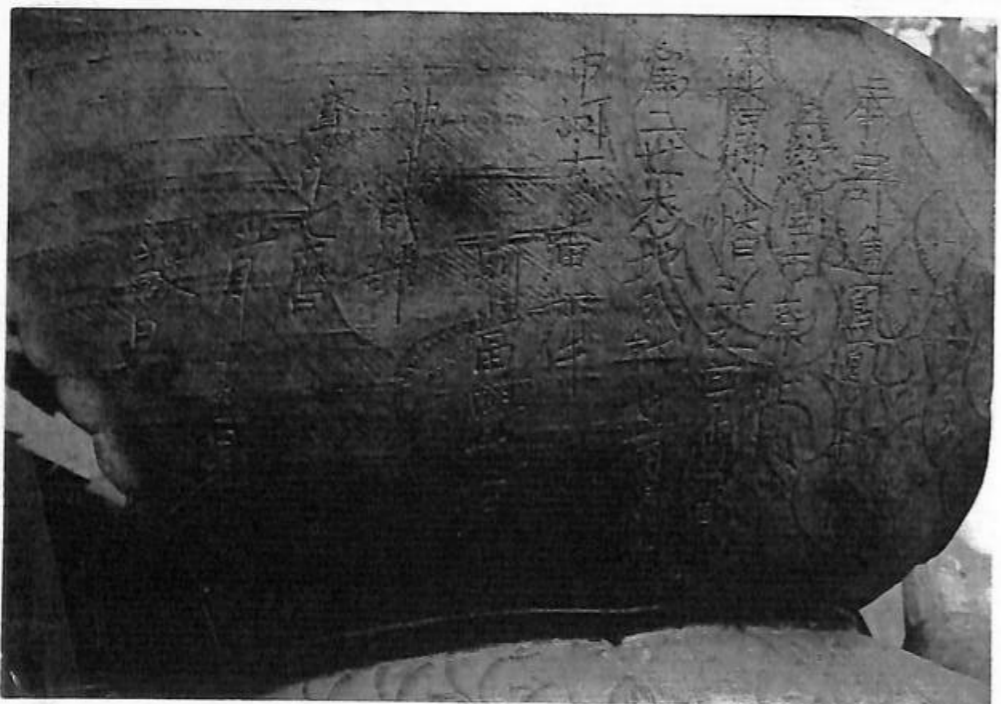
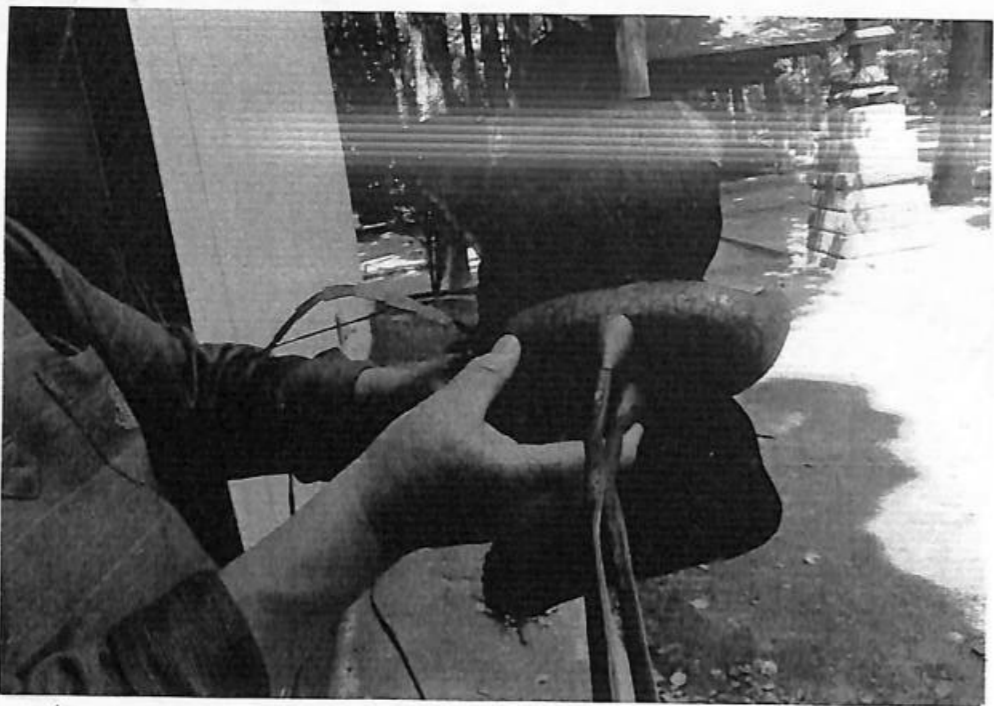
寛永七庚午年五月

当宮御神興四社御修復、ならびに烏帽子、白張等、これは新たに仕  
立て替え、氏子ならびに八郷その村々寄進これあり。  
三の宮鳳凰の寄進、菊間若宮社家玄蕃寄進奉るものなり。

飯香岡八幡宮御伝記(宝曆12年まで)

寛永7年、宝曆9年ともに記載されていない

みこしは室町期作  
寛永7年修復、3の宮も鳳凰と、宝曆9年修復





# 八幡公民館平成25年度主催事業



多量の新発見資料で八幡宿の  
「五大力船」を解明

第5回11月7日(木曜日) 全日=国分寺地区現地巡見

9時30分~11時30分。ただし第2回は14時まで、第5回は16時30分まで

主会場=八幡公民館視聴覚室

講師=山岸弘明、客員講師=佐倉東雄、石井 勇

協力=飯香岡八幡宮、八幡史学館名所100選チーム、市原の古文書研究会  
市川本店

6月18日受付開始=一般成人対象、先着順、定員50名

申し込み、問い合わせ **八幡公民館** 41-1984 (清水、徳永)

## 「八幡さまと五大力船の郷」八幡の歴史を楽しもう

佐倉 石本 多村 持江 山岸  
写中 青本

## 八幡史学館名所百選チーム

### 第55回定例打ち合わせ

日時=平成25年5月7日  
会場=八幡公民館

#### 1) 先月の活動記録

- ① 4月1日 第54回定例会=お花見、千葉青葉の森公園ほか
- ② 4月16日 八幡宮池回り清掃、大厩延命寺拓本調査
- ③ 市川本店文書調査

#### 2) 当面のスケジュール

- ① 5月21日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃、大厩延命寺拓本
- 6月4日(火曜日) 13時30分 第56回定例打ち合わせ会
- 6月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃、調査活動(内容未定)
- " " 八幡史学館受付
- ② 5、6月の八幡歳時記

#### 3) 「八幡史学館」について

- ① 申し込み受付、一般50人、バスなし
- ② 人員確保したい。声かけの御願い
- ③ ポスター作成、張り出し

#### 4) 市川本店文書調査

- ① 戸長文書、醤油製造関係文書、酒仕入れ販売関係文書など 合計数万点  
江戸後期から幕末期当主大造の長男甚太郎が継ぎ明治はじめに戸長に、弟甚松は吉田屋を名乗り醤油製造や酒販売で家勢を広げた
- \* 明治維新前後の八幡名主、戸長の変遷  
江戸後期 8領+飯香岡八幡宮領 それぞれに名主  
明治2年~3年ころ 菊間藩=八幡村肝入り名主 新左衛門(名字未確認)  
" 3年~5年 菊間藩、菊間県、木更津県第33大区4画=八幡宿戸長 川上新一郎  
" 5年~6年 木更津県=戸長 松田嘉一郎  
" 6年~7年 木更津県、千葉県第5大区2小区=戸長 市川甚太郎  
以下未詳
- ② 天明7年八幡村「村鑑明細帳、付船数明細」 超第一級資料  
文久2年、3年、慶応3年など八幡村旗本水野国之助領年貢「皆済目録」  
慶応3年永井領ほか「皆済目録」など  
明治元年、2年、3年菊間藩年貢「皆済目録写し」「割付写し」  
明治4年菊間県「貢割付写し」、明治5年木更津県「租税割賦写し」
- ③ 壬申戸籍、土地台帳関係資料多数
- ④ 五大力船関係資料多数=超一級資料。これだけの資料は今後もでてこない。博物館的資料も

多く含まれている。

明治6年木更津県「船印鑑連名帳」「口下(はしけ?)船所持の者書上げ」

明治6、7年「出奔届け」「#台帳」「帰船届け」「船客名簿」

「船類諸願届け(新造、売買、事故)」など

江戸時代の関係資料も②に多数含まれる

大正15年知事あて南町みお修繕工事の御願書(業務不振のため修繕行き届きかね)

- ⑤ 八幡小学校創立関係資料多数  
明治7年知事あて円頓寺での創立願いなど多数
- ⑥ 醤油原料、酒など仕入れ関係資料多数  
文久3年、慶応4年、明治5年など「送り状」年間完全セット
- ⑦ 明治維新期の情報収集関係資料
- ⑧ 取引き関係資料
- ⑨ 文書整理と「文書目録」(リスト)、主要文書解説中
- ⑩ 一部を「八幡史学館」で紹介、「古文書研究」などで発表予定

#### 5) 八幡名所100選関係

- ① 八幡公民館掲示、持ち帰り自由。毎日1、2枚程度はけ、時々問い合わせもある。  
補充のため多少増刷した。当面継続する。
- ② 数店舗に置いてもらっているがめだつた動きはない
- ③ 前回のアイデア。  
看板、学校、町会、ネット、シティライフ、出前講座、いきいきサロンの活用など
- ④ 八幡史学館で解説
- ⑤ 当面の活動について

以上



# 八幡史学館名所百選チーム

## 第53回定例打ち合わせ

日時=平成25年3月5日  
会場=八幡公民館

### 1) 当面のスケジュール

- ① 3月19日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃、大蔵延命寺拓本
- 4月 2日(火曜日) 第54回「お花見」 どこ? 集合=9時八幡公民館  
雨天中止。定例打ち合わせに切り替え
- 4月16日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃、調査
- ② 100選関係作業
- ③ 3、4月の八幡歳時記
- 3月15日 飯香岡八幡宮春季祭礼、宝蔵庫一般公開、無量寺御開帳
- 4月 8日 無量寺花まつり
- ④ 3月 9日(土曜日) 13時30分 八幡公民館講座「発掘にみる房総の歴史」白井久美子  
18時30分 テレビ東京「房総の町を歩く」
- 3月13日(水曜日) 城を歩く会「春季研修会」
- 4月 7日(日曜日) 古代道研究会バス研
- 4月 日 市原市制50周年記念行事

### 2) 事業報告

- ① 大蔵十二天神社調査とまとめ 2月終了
- ② やわたむかし写真館リニューアル 3月1日オープン
- ③ 市川本店文書整理(解説は古文書研究会) 2月開始

### 3) 八幡史学館、辰巳歴史散歩計画

- ① 八幡公民館「八幡史学館」 別紙参照
- ② 辰巳公民館「歴史散歩」 別紙参照

### 4) 「やわた名所100選」について

- ① ちらし100セット作成
- ② 「やわたむかし写真館」サブ展示場に掲示、希望者に供用開始  
ぼちぼち持参ある程度、関心が高い人は少ない
- ③ 市制50周年に提案  
具体的な推進の考え方について(ディスカッション)
- ① 八幡版(前回作成を修正)  
飯香岡八幡宮版(八幡史学館現地研修と共用)
- ② 看板設置
- ③ 案内の会
- ④ 後援、支援、広告

### 5) 市川本店調査関係

- ① 昭和30年代写真帳
- ② 市川教生氏作成市川家系図 7日に入手  
市川元神主家  
市川現神主家  
市川本店家
- ③ 古文書  
明治はじめ戸長関係文書など大量文書発見 リスト作成中
- ④ 明治維新時の超A級文書  
\* 慶応4年4月、徳川義軍府八幡宿宿割り  
\* 慶応4年、江戸町年寄町ぶれなど政情連絡
- ⑤ 貴重資料多数含まれている模様

### 6) その他八幡地区の情報について

- ① 第2栄豊丸子孫中西照宗(八幡公民館勤務)  
古写真、せび

飯倉、石井多味、高木、山崎、  
河野、青木

香取、  
学校  
町会  
ネット  
アソシエーション  
5/13/17  
出崎健彦  
いっしょにやろう

以上

佐倉、石米、多村、山岸  
等

八幡史学館名所百選チーム

第52回定例打ち合わせ

日時=平成25年2月5日  
会場=八幡公民館

1) 当面のスケジュール

- ① 2月19日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃、十二天神社追加調査
- 3月 5日(火曜日) 13時30分 定例打ち合わせ
- 3月19日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池回り清掃
- 4月 2日はお花見会としたい

- ② 市川本店写真複製  
むかし写真館リニューアル  
100選関係作業

- ③ 2、3月の八幡歳時記 2月3日 碩名町分祭、2月3日(才1日) 南内弘治 あり
- ④ 2月12日(日曜日) 城を歩く会 「練馬城、石神井城、豊島一族滅亡の城を歩く」
- 2月24日(日曜日) 9時30分 八幡公民館講座「正岡子規の房総の旅」宮本敬一
- 3月 9日(土曜日) 13時30分 " 「発掘にみる房総の歴史」白井久美子

2) 事業報告

- ① 元若宮八幡宮神官根本家文書整理 12月完了
- ② 南総郷土史研究会所蔵村絵図複写 1月完了
- ③ 大蔵地蔵御堂石造物調査 2月完了=十二天神社追加調査あり

3) 「八幡の石造物研究」の出版、追加報告

- ① 評価 おおむね好評
- ② 完売、在庫ゼロ  
寄贈配布完了=辰巳公民館を取りやめ寺嶋さんに変更、八幡小学校は校長名ミス保留
- ③ 寺嶋医院から寄付1万円=一般会計に編入
- ④ 八幡図書館で閲覧、貸し出しを開始、国会図書館でリストに載る、県立は不明
- ⑤ 4月以降40部程度増刷の方向で検討

4) 郷土資料調査と情報

5) 「やわた名所100選」について

- ① 前回打ち合わせで決まったコピー版100部完成。  
前回隠金3,000円+一般会計1,000円  
\* 「やわたむかし写真館」サブ展示場に掲示、希望者に差し上げて反響をみる  
\* 今後の展開のためのPR用に各自若干部所持  
参考=印刷の場合の見積もり500部43000円
- ② 八幡版(前回作成を修正)  
飯香岡八幡宮版(八幡史学館現地研修と共用)

具体的な推進の考え方について(ディスカッション)

お宝発見プロジェクト

- ① 看板設置
- ② 案内の会
- ③ 後援、支援、広告

5) その他について

以上

4	3/9 (土) 13:30~ 15:00	白井久美子 氏	歴史	「発掘に見る房総の歴史」 古代の市原に生きた人々の足跡 一ちはら台の発掘成果を中心に
---	-------------------------------	---------	----	--

★参加費 無料

★会場 八幡公民館 視聴覚室(1/11のみ 視聴覚室と研修室)



市川本店関連資料

代々「市川三太夫」を名乗る元飯香岡八幡宮社家で八幡地区屈指の旧家。「三太夫」の初見は八幡宮文書の享保3年「五所村浦札改め帳」だが、八幡無量寺の墓誌は元禄11年以降を刻んで、八幡宮社家は代々相伝であり、その起源は少なくとも江戸初期に遡るといえる。

藤原氏

江戸後期以降の系図

①市川三太夫

宝暦13年生まれ  
没年不詳(弘化3年(安政2年)、満徳寺葬)

市川松太郎

①三太夫嫡男、天明ころ生まれ、父に先立ち死去  
没年不詳(弘化2年以前)、満徳寺葬  
妻やす

②市川大造 大和、大和正常忠

①三太夫嫡孫、文化8年生まれ  
明治14年没、71歳、無量寺葬  
妻ちよ  
妹しの、たけ

③市川甚太郎 三太夫常正

大造長男、天保7年生まれ  
明治19年没、51歳、無量寺葬  
妻多喜子  
弟松太郎(養子?)

④市川栄太郎 三太夫

万延元年生まれ  
明治29年没、37歳、無量寺葬

⑤市川卯三郎、準三

明治37年没

この間1、2代ありそう

市川石三 昭和33年没

市川得三 平成6年没

資料① 飯香岡八幡宮文書

①明治3年「神社由緒など取り調べ差し出し帳」  
\*神勸料分配(石六斗七升市川大造)  
右のほか安元、治承度のころ奉仕、分配の者あまたと伝  
のころ前出減石以来、右少数奉仕相成り候趣、古伝に  
さ候

\*社中職名位階、社家市川大造、藤原常忠  
右神主、社家、幡役家筋世代の儀、往昔より銘々歴代

②弘化5年「末社守護人議定書」藤野神社、滝澤神社守護市川大和

③享保3年「五所村浦札改め帳」社家市川三太夫

④文政2年「別当方新状」社家市川三太夫

⑤文政8年「御免許御助成帳」社家市川三太夫

⑥天保9年、10年「若宮八幡宮との訴訟関係資料」市川大和

資料② 飯香岡八幡宮領宗門人別帳

①弘化2年、②3年、③安政2年

資料③ 戸籍

資料④ 戸籍

資料⑤ 戸籍

資料⑥ 戸籍

資料⑦ 戸籍

資料⑧ 戸籍

資料⑨ 戸籍

資料⑩ 戸籍

資料⑪ 戸籍

資料⑫ 戸籍

資料⑬ 戸籍

資料⑭ 戸籍

資料⑮ 戸籍

資料⑯ 戸籍

資料⑰ 戸籍

資料⑱ 戸籍

資料⑲ 戸籍

資料⑳ 戸籍

資料㉑ 戸籍

資料㉒ 戸籍

資料㉓ 戸籍

資料㉔ 戸籍

資料㉕ 戸籍

資料㉖ 戸籍

資料㉗ 戸籍

資料㉘ 戸籍

資料㉙ 戸籍

資料㉚ 戸籍

資料㉛ 戸籍

資料㉜ 戸籍

資料㉝ 戸籍

資料㉞ 戸籍

資料㉟ 戸籍

資料㊱ 戸籍

資料㊲ 戸籍

資料㊳ 戸籍

資料㊴ 戸籍

資料㊵ 戸籍

資料㊶ 戸籍

資料㊷ 戸籍

資料㊸ 戸籍

資料㊹ 戸籍

資料㊺ 戸籍

資料㊻ 戸籍

資料㊼ 戸籍

資料㊽ 戸籍

資料㊾ 戸籍

資料㊿ 戸籍

資料1 戸籍

資料2 戸籍

資料3 戸籍

資料4 戸籍

資料5 戸籍

資料6 戸籍

資料7 戸籍

資料8 戸籍

資料9 戸籍

資料10 戸籍

資料11 戸籍

資料12 戸籍

資料13 戸籍

資料14 戸籍

資料15 戸籍

資料16 戸籍

資料17 戸籍

資料18 戸籍

資料19 戸籍

資料20 戸籍

資料21 戸籍

資料22 戸籍

資料23 戸籍

資料24 戸籍

資料25 戸籍

資料26 戸籍

資料27 戸籍

資料28 戸籍

資料29 戸籍

資料30 戸籍

資料31 戸籍

資料32 戸籍

資料33 戸籍

資料34 戸籍

資料35 戸籍

資料36 戸籍

資料37 戸籍

資料38 戸籍

資料39 戸籍

資料40 戸籍

資料41 戸籍

資料42 戸籍

資料43 戸籍

資料44 戸籍

資料45 戸籍

資料46 戸籍

資料47 戸籍

資料48 戸籍

資料49 戸籍

資料50 戸籍

資料51 戸籍

資料52 戸籍

資料53 戸籍

資料54 戸籍

資料55 戸籍

資料56 戸籍

資料57 戸籍

資料58 戸籍

資料59 戸籍

資料60 戸籍

資料61 戸籍

資料62 戸籍

資料63 戸籍

資料64 戸籍

資料65 戸籍

資料66 戸籍

資料67 戸籍

資料68 戸籍

資料69 戸籍

資料70 戸籍

資料71 戸籍

資料72 戸籍

資料73 戸籍

資料74 戸籍

資料75 戸籍

資料76 戸籍

資料77 戸籍

資料78 戸籍

資料79 戸籍

資料80 戸籍

資料81 戸籍

資料82 戸籍

資料83 戸籍

資料84 戸籍

資料85 戸籍

資料86 戸籍

資料87 戸籍

資料88 戸籍

資料89 戸籍

資料90 戸籍

資料91 戸籍

資料92 戸籍

資料93 戸籍

資料94 戸籍

資料95 戸籍

資料96 戸籍

資料97 戸籍

資料98 戸籍

資料99 戸籍

資料100 戸籍

資料101 戸籍

資料102 戸籍

資料103 戸籍

資料104 戸籍

資料105 戸籍

資料106 戸籍

資料107 戸籍

資料108 戸籍

資料109 戸籍

資料110 戸籍

資料111 戸籍

資料112 戸籍

資料113 戸籍

資料114 戸籍

資料115 戸籍

資料116 戸籍

資料117 戸籍

資料118 戸籍

資料119 戸籍

資料120 戸籍

資料121 戸籍

資料122 戸籍

資料123 戸籍

資料124 戸籍

資料125 戸籍

資料126 戸籍

資料127 戸籍

資料128 戸籍

資料129 戸籍

資料130 戸籍

資料131 戸籍

資料132 戸籍

資料133 戸籍

資料134 戸籍

資料135 戸籍

資料136 戸籍

資料137 戸籍

資料138 戸籍

資料139 戸籍

資料140 戸籍

資料141 戸籍

資料142 戸籍

資料143 戸籍

資料144 戸籍

資料145 戸籍

資料146 戸籍

資料147 戸籍

資料148 戸籍

資料149 戸籍

資料150 戸籍

資料151 戸籍

資料152 戸籍

資料153 戸籍

資料154 戸籍

資料155 戸籍

資料156 戸籍

資料157 戸籍

資料158 戸籍

資料159 戸籍

資料160 戸籍

資料161 戸籍

資料162 戸籍

資料163 戸籍

資料164 戸籍

資料165 戸籍

資料166 戸籍

資料167 戸籍

資料168 戸籍

資料169 戸籍

資料170 戸籍

資料171 戸籍

資料172 戸籍

資料173 戸籍

資料174 戸籍

資料175 戸籍

資料176 戸籍

資料177 戸籍

資料178 戸籍

資料179 戸籍

資料180 戸籍

資料181 戸籍

資料182 戸籍

資料183 戸籍

資料184 戸籍

資料185 戸籍

資料186 戸籍</



お見積書

貴社名 菊間コミュニティ 御中

見積年月日 平成 25年 1月 15日

見積有効期限 平成 25年 月 日

納入年月日 平成 25年 月 日

受渡場所

見積担当者 望月 秀次

合計金額 43,050円

下記のとおりお見積申しあげます。よろしくご検討くださるようお願いいたします。

株式会社 弘報社印刷  
 代表取締役 齋藤 重信  
 本社 〒266-0026 千葉県緑区古市場町474-268  
 TEL.043(268)2371(代) FAX.043(265)5788  
 東京営業所 〒104-0042 東京都中央区入船町2-2-3 サンエビル  
 TEL.03(3553)0306(代) FAX.03(3553)0308

品名	規格	数量	単位	単価	金額	備考
やわた名所百選 冊子 B4二つ折り 1/1 差込	B5	500	部	82	41,000	
摘要				計	41,000	
				消費税(5%)	2,050	
				合計	43,050	

\*消費税に金額の記入がない場合は、ご請求時に消費税(5%)を加算させていただきます。

〒290-0069  
 千葉県市原市八幡北町 2-12-12-501

山岸弘明 様

A-MX-091140

平成 24年 12月 28日  
 国立国会図書館

受領書

このたびは、下記の資料を御寄贈いただき厚くお礼申し上げます。  
 御寄贈いただきました刊行物は、広く公共の利用に供するとともに、国民共有の文化的資産として永く保存してまいりたいと存じますので、今後ともよろしくお願ひいたします。  
 なお、下記にある資料も含め、御寄贈いただいた資料については受領書発送後1週間程度で蔵書検索システム(NDL-OPAC)にて検索することが可能になっております。

URL : <http://ndlopac.ndl.go.jp/>

資料を御寄贈いただいた際に当館が取得した情報は、当館の収集業務のみに利用し、他の目的のために利用することはありません。

今後も国立国会図書館の活動に対し、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

市原市八幡の石造物研究	1冊
計	1冊

御不明な点につきましては、以下の係までお問い合わせください。

〒100-8924  
 東京都千代田区永田町 1-10-1  
 国立国会図書館 収集書誌部  
 国内資料課 収集第二係  
 Tel. 03(3581)2331 内線 24622  
 Fax. 03 (3504) 1569  
 E-mail : kizo@ndl.go.jp





2013-1-1 八幡宮 初日9出



2013-1-3 円頓寺





2013-1-3 阿奴寺



1) 8月、9月のスケジュール

- ① 8月 7日(火曜日) 無量寺お閻魔さま  
 8月 21日(火曜日) 9時00分 八幡宮池回り清掃  
 8月 28日(火曜日) 9時30分 八幡史学館②=清水「海の町と魚惣の思い出」  
 佐倉「八幡四十七国立銀行について」  
 「八幡の石造物」第1刷発行、打ち上げ昼食会  
 8月 日(曜日) 辰巳公民館「徳川将軍家と上野寛永寺」バスあり  
 9月 4日(火曜日) 定例打ち合わせは中止  
 飯香岡八幡宮秋季大祭  
 9月 30日(日曜日) 参考  
 9月 18日(火曜日) 9時00分 八幡宮池回り清掃  
 9月 25日(火曜日) 9時30分 八幡史学館③=城歩きの楽しみ(城郭基礎講座)  
 ② 辰巳公民館のバス研修申し込みされていない方  
 10月14日(案) 城を歩く会=寛永寺徳川将軍家第2霊廟特別参拝を予定している  
 5代将軍綱吉霊廟(綱吉、吉宗、家定、同正室篤姫墓)非公開、当時のまま現存

2) 「八幡の石造物研究」

- ① 刷り上り見本  
 写真ページ用集合写真  
 ② 主要スケジュール  
 8月7日、8日 第1刷(40部)本文部分帳合い  
 8月 日 残り帳合い、製本所送り  
 8月下旬 完成、表紙カバー仕上げ、販売開始  
 \* +2刷(修正版=部数未定)=11月ころ  
 \* B5判およそ290ページ、売価2000円  
 \* 第1刷寄贈先=八幡宮、無量寺、満徳寺、称念寺、円頓寺、妙長寺、八幡小、石塚小、川上家、辻井 10部  
 \* 第2刷寄贈先=県立中央2、国会、市原中央、八幡 5部  
 ③ 駅ギャラリーで拓本展を開催できないか

3) 八幡史学館

- ① 岡田さんの写真  
 ② 清水あき子さん宅、魚惣間取り  
 ③ 佐倉さん  
 ④ 第3回城郭基礎講座=国宝と現存天守、石垣と堀濠  
 ⑤ 第4回バス研修=鶴舞城、大多喜城

4) 名所100選仕切りなおし

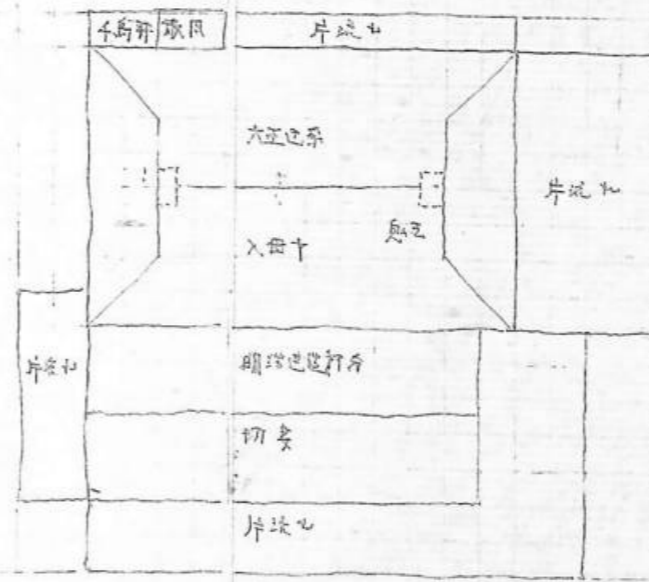
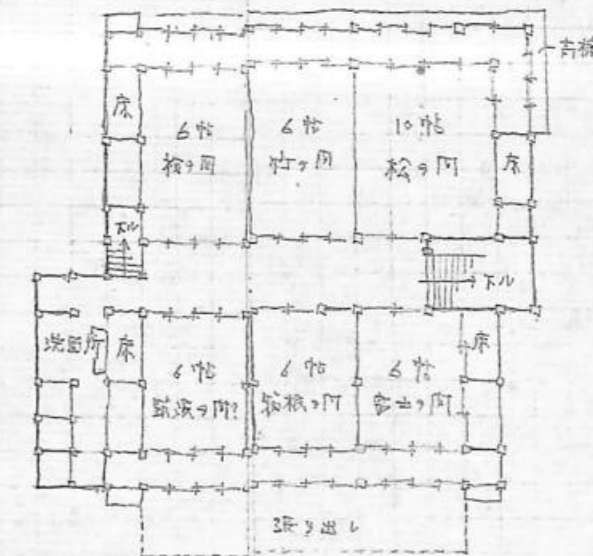
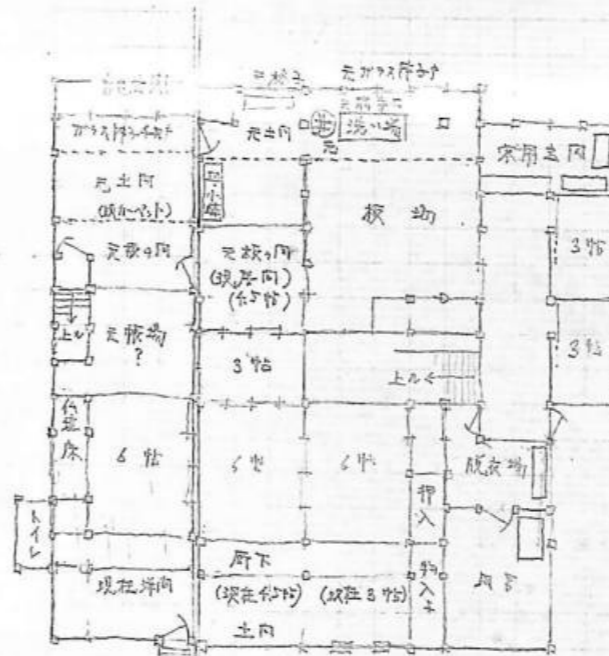
中断してご迷惑をかけたが次回から仕切り直ししたい

5) 郷土史情報

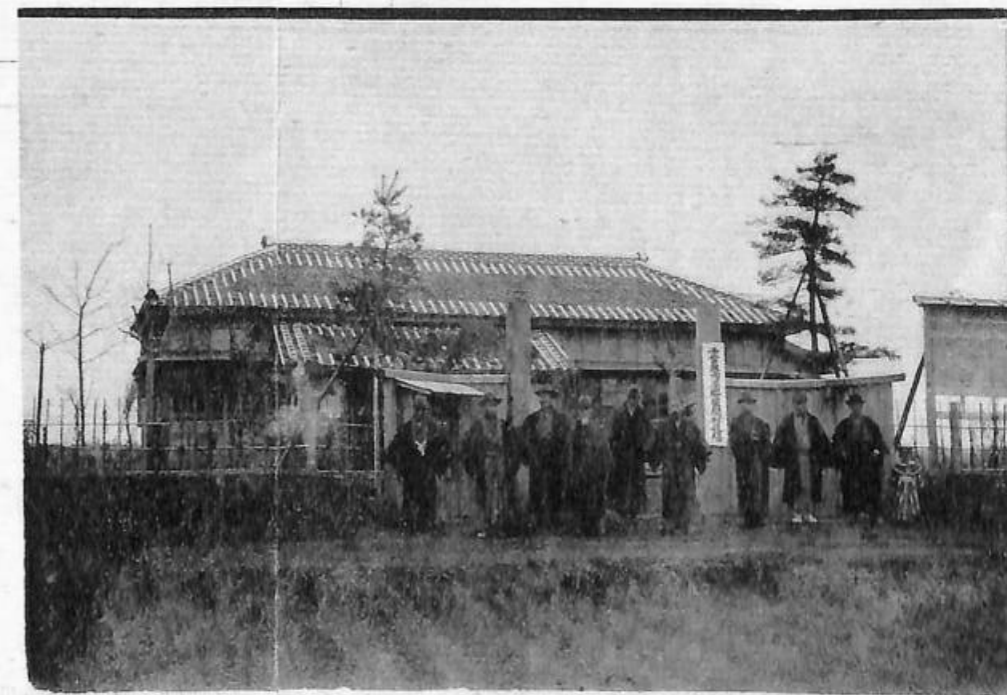
- ① 無量寺お閻魔様  
 ② 新刊紹介=  
 あなたの知らない千葉県の歴史(歴史新書=山本博文780円+消費税)  
 ③ その他

以上

小出、佐倉、多村、石井、山岸、高伏  
 鷲野、青木、内藤(北野)



屋敷代々図



1) 7、8月のスケジュール

- ① 7月17日(火曜日) 9時30分 八幡史学館①=菊間藩士「代々公私留め」  
池回り清掃は中止  
8月7日(火曜日) 13時30分 第47回打ち合わせ  
8月18日(土曜日) 辰巳公民館「江戸東京歴史散策」受付  
「徳川將軍家と上野寛永寺」バス「谷中と寛永寺」  
「八幡の石造物」第1刷発行  
8月中ごろ 八幡宮池回り清掃  
8月21日(火曜日) 9時00分 八幡史学館②=清水「海の町と魚惣の思い出」  
8月28日(火曜日) 9時30分 佐倉「八幡四十七国立銀行について」

- ② 拓本チーム=  
③ 石造物チーム=  
④ 青木さん=7月16日午後、水野忠実書持参いただきたく

2) 「八幡の石造物研究」発行スケジュール

- ① 本文ほぼ完成、前半印刷開始  
② 第1刷(40部)=8月中ごろ  
第2刷(20部程度)=11月ごろ  
③ B5判およそ300ページ、売価2000円  
④ 第1刷寄贈先=八幡宮、無量寺、満徳寺、称念寺、円頓寺、妙長寺、八幡小、石塚小、川上家、辻井10部  
第2刷寄贈先=県立中央2、国会、市原中央、八幡 5部

3) 「江戸火消し、江戸消防会 高橋さん特別講座

- ① 6月19日 参加6名+八幡宮平沢さん  
② 追加資料受領(別紙)

4) 妙長寺の調査結果

- ① 霊簿=過去帳+覚え書 所蔵  
享保6年から、②享和2年から明治初めまで  
② 江戸時代はじめに繁栄、明治維新後衰退  
山門、本堂、庫裏、鐘楼堂。後期は七面堂が置かれたこともある。  
伝承の三重塔は記載なさそう

5) 名所100選

6) 郷土史情報

以上



1 予備知識として

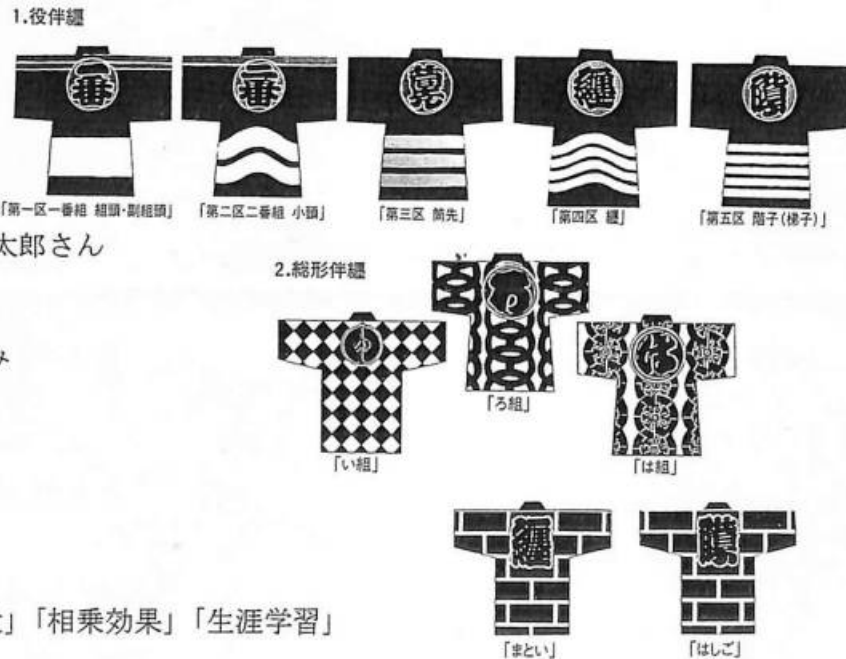
- ①自己紹介 小田原市出身、曾祖父が神田明神の宮大工、父・兄・義兄・甥が鳶職、リコー
- ②鳶職と大工さんの違い
- ③江戸町火消・鳶職の伝統文化
- ④各種団体について 一般社団法人江戸消防記念会・日本鳶工業連合会・神奈川県鳶工業連合会等
- ⑤江戸消防記念会の正装（伴纏）について

2 話題として

- ①「火事と喧嘩は江戸の華、そのまた華は町火消」⇒江戸の三男（与力・相撲に火消の頭）
- ②纏の保管場所
- ③「纏」と「纏」の文字
- ④大岡越前守・祐天上人などについて ⇒浄見寺（茅ヶ崎）と祐天寺
- ⑤江戸時代の受持ち区域（いろは四十八組+本所深川十六組）

3 学ぶこといろいろ

- ①「どんな仕事でも良いから、とにかく10年間辛抱しろ」
- ②「仕事は一生あるが、つきあいは一瞬だ。無理をしても行け」
- ③「火事で焼けても基礎は残る。基礎を大事に」
- ④「頭が悪けりゃ、鳶頭になれない」「利口ができず、馬鹿でできず」
- ⑤「道具を大事にしない人は、良い仕事ができない人だ」
- ⑥「良い仕事は段取り・準備」・基礎コンクリートの型枠作り・足場作りの例など
- ⑦「腹が減っては、戦はできず」「早寝早起き」
- ⑧「木遣が人を動かす」（「木遣」は鳶職の道具＝「武士は文武両道、大工は壺金、鳶には木遣」）
- ⑨「義理と人情とやせ我慢」の世界
- ⑩「人にされた以上に返す」「恩義に報いる」
- ⑪「知らないことは聞け」
- ⑫「龍吐水」
- ⑬「樋返し」
- ⑭「粋と野暮について」
- ⑮「一流とつきあえ」
- ⑯「各地の奉納物・寄進物が語ること」
- ⑰「鳶の教養人」ふ組平五郎・中村達太郎さん
- ⑱その他
  - ・「江戸しぐさ」
  - ・「手締め」について
  - ・一見・裏返し・馴染み



4 お勧め神社仏閣と各種行事

5 約22年続けてきて良かったこと

「元気澁刺」「社会貢献」「人脈拡大」「相乗効果」「生涯学習」

6 次の仕事（江戸消防記念会のお手伝いに専念）

江戸町火消・江戸消防記念会からの奉納物が多い神社仏閣とご縁

No.	寺社名（所在地）	奉納物とご縁	備考
1	成田山新勝寺（成田市） ⇒玉垣等多数・「せ組鰐口」	一番奥にある「霊光館」の方（会社の顧問の紹介）に、古文書を読んでいただいたことがきっかけ	
2	金龍山浅草寺（台東区） ⇒消防殉職者慰霊碑	仕事でお会いした方が、仕事より私の趣味に高い関心を持たれた	本の交換まで
3	本門寺（大田区） ⇒「も組」の青銅の灯籠	独身寮が近くで、何度も通い、特に「も組の灯籠」に強い関心を持ち続けている	
4	松戸神社（千葉県松戸市） ⇒「い組の出動図」など	「い組」の元組頭に教えて貰ったことから、氏子の方（関宿屋）が神社のHP作りに関係している	
5	祐天寺（目黒区） ⇒奉納物多数	「祐天上人」は元増上寺の高僧 地藏堂の格天井は昔のままの纏絵	
6	川崎大師（川崎市） ⇒記念碑・長提灯一对	明治20年8月に建立された「江戸町火消の石碑」 寛政9年当時の頭取の名前が刻まれている 「め組」お裾講も毎年参拝	渋沢の居酒屋のママさんの親戚の名前も
7	金刀比羅神社（琴平町） ⇒石灯籠・い組出動図	嘉永年間に寄進された石灯籠の史料を求めて神社図書館の方に面談し史料を見せて貰った。 また郷土史家との手紙のやりとりなど	河井継之助の『塵壺』にも記載あり
8	金刀比羅神社（港区） ⇒鳥居に二番組各組名	出初式の時に第二区は梯子乗りの選手が、ここでお祓いを受けてから、会場に向かいます。	第二区五番組金牧組頭とのご縁の始まり
9	北野天満宮（京都府） ⇒新門辰五郎奉納の灯籠	行きあった宮司さんが、辰五郎の記事が掲載されている古い社報を提供してくれた。	
10	大山阿夫利神社（伊勢原市） ⇒奉納物多数	金牧組頭に誘われ、高輪の「御太刀講」の方々とバス旅行に行ったが、全く知らないが一人で行った。 奉納物は無数というほどで、宿坊にも。	
11	神田明神（千代田区） ⇒額	曾祖父が神田明神の宮大工だった。 その古文書のコピーを神田明神に提供した。	神祇官宛の文書
12	清澄寺（千葉県） ⇒木遣関係者の額	山上で住職と偶然会う。お礼の手紙を出したら、丁寧な筆文字でお礼をいただいた。	
13	三井寺（滋賀県大津市） ⇒元禄時代の地形の絵馬	山上の寺務所で挨拶とお願いをし撮影許可を貰った。地形の絵としては珍しく、かなり古いもので、お祭りをしながら、のどかな地形風景である。	町火消ではないが
14	山倉大神（香取市） ⇒玉垣・額・石碑	年末に一人で行き、その時の写真を提供したら、め組の組頭から一緒に連れて行ってくださいと同行した	近くの観福寺へも
15	船橋大神宮（船橋市） ⇒玉垣	新勝寺・霊光館の小倉さんに教えられて訪問調査 詳細に調べた船橋の郷土史家（故人）を訪問	
16	芝大神宮（港区） ⇒め組狛犬 古い半鐘もある	め組と相撲の喧嘩で有名 ⇒め組のお墓がある正覚寺（高輪神社隣り）で貰った冊子が縁で、執筆した芝の鰻屋のご主人（古文書研究）と会話	近くの増上寺にも慰霊碑が
17	新井薬師（中野区）	江戸消防記念会の発足前（昭和23年）の額や第九区の額（昭和27年）、水屋の天井に纏の絵 記念塔の一部に珍しい纏や刺又が刻まれている	
18	妙法寺（杉並区）	地形など建築風景の絵馬（嘉永5年）・古い石燈籠（安永2年=1773年）・玉垣など	
19	中井御霊神社（新宿区）	昭和4年奉納（昭和46年第九区四番組修理）の額	消防組
20	長命寺（練馬区）	木遣地藏堂（第一区）、水盤、石碑など	
21	成田山札幌別院・新栄寺 「み組・井之上富之助」碑	貫首にお会いできて、石碑の資料を求めたが、全く無かった。（昭和39年に本堂焼失）	明治36年建
22	佐奈田霊社（小田原市） 江戸消防から奉納物多数	父の名前が刻まれている真棒、地元でもあり住職と懇意にしています	趣味から史跡調査員の原点

その他奉納物の多い寺社：大雄山最乗寺（南足柄市）・きやり地藏（御殿場市）・宗吾霊堂（成田市）  
三峰神社・高尾山薬王院・澤蔵司稻荷（文京区）・海雲寺（品川区）・目黒不動（目黒区）  
加須不動（加須市）・大山寺（伊勢原市）・誕生寺（千葉）・身延山久遠寺（山梨）・笠間稲荷（茨城）



# 生きつづける『古材』



## 明治39年建築の旧家を解体中！

市原市八幡には、戦前、最盛期には6軒を数える醤油醸造所がありました。小川屋は、チガミ小印・味噌醸造・酒類販売も手掛けた八幡屈指の大富豪でした。当時の敷地面積は700坪、明治39年新築費用は、居宅・土蔵・店舗をあわせて2601円91銭3厘材木は深川から取り寄せ、八幡在住の大工さんによって建築されました。赤レンガで作られた工場のえんとつは平成の初めまで建っていました。日本のセメント工業創成期のコンクリート製の土間や基礎・硝子戸や塗壁など、歴史を伝えてくれる建造物です。今回、縁あって弊社で解体させて頂くことになりました。110年の時を経て、建付けなどの狂いもなく、実に立派な建物です。

お気軽にご相談下さい

**大切な土地・家を有効利用！** 古民家鑑定士資格を有する弊社社長が、資産価値を査定致します。

### 古民家改修

既存の骨組みを残し、使いやすい間取りに変更したり、最新の設備に取替えます。

### Vintage Wood木と生きる 古民家再生住宅

状態の良い柱・梁などを丁寧に取り出して磨き新築住宅に利用する住宅版エコです！

### 市原市菊間モデルハウス



千葉県知事免許(7)第8235号 千葉市中央区浜野町194-1

近藤商事(株)高島ハウジング

TEL 043-268-1221 FAX 043-266-7877

HP <http://www.k-takasima.jp>  
info@k-takasima.jp

高島ハウジング 検索



## 納入通知書 兼 領収書

請求番号 41-24-001061

納入者 住所 千葉県市原市八幡北町2-12-12

氏名 八幡史学館名所100選チーム 様

年度  24	科目	1	一般会計
	款	50	使用料及び手数料
	項	10	使用料
	目	70	教育使用料
	節	20	社会教育使用料
	細節	5	公民館使用料

領収金額

¥450

納入期限

平成24年06月17日

上記の金額を納付してください。

平成24年06月19日

市原市立八幡公民館

金融機関

上記の金額を領収しました。



申請番号

0-41-24-000595 H24.06.19 10:00~13:00 八幡公民館 和室2

使用日

使用時間

使用施設

●組頭及小頭姓名録

消防第一分署一番組

組頭 市川安太郎	同副 藤森佐太郎	同 秋元清太郎
組頭 淺野大五郎	同副 小川幸吉	同 藤森善太郎
同 二番組		
組頭 高橋八右衛門	同副 原田紋吉	同 岩田吉五郎
組頭 小林谷五郎	同副 彦根文藏	同 日暮惣五郎
同 三番組		
組頭 福本五右衛門	同副 中田榮吉	同 松岡七郎兵衛
組頭 柴井三五郎	同副 今井龜吉	同 原竹次郎
同 四番組		
組頭 長尾柔太郎	同副 佐藤三右衛門	同 村田善八
組頭 倉田岩松	同副 藤村綱吉	同 吉田兼太郎
同 五番組		(亡死)
組頭 増田金次郎	同副 森初五郎	同 中村勝太郎
組頭 鈴木市五郎	同副 田中小太右衛門	同 若松八五郎
同 六番組		
組頭 大塚長次郎	同副 瀧口秀次郎	同 杉島二平次
組頭 宮本柳之助	同副 青柳民五郎	同 石津喜三郎
同 七番組		
組頭 吉川三八	同副 吉川長之助	同 扇其五郎
組頭 海老根八五郎	同副 鈴木菊太郎	同 高橋金太郎
同 八番組		
組頭 山崎平兵衛	同副 杉野五郎右衛門	同 村田躰次郎
組頭 村田勘右衛門	同副 畑源兵衛	同 小山金太郎
同 九番組		
組頭 宮松三之助	同副 石井安五郎	同 山本金太郎
組頭 吉田吉太郎	同副 永田音次郎	同 佐々木龜吉
同 十番組		
組頭 門倉勝五郎	同副 大堀豊吉	同 相生次郎
組頭 小林金次郎	同副 稻垣太郎吉	同 村田竹次郎

以下の出典 『警視庁市部消防組人名録』(平成十三年三月二十一日 山口政五郎監修発行)

消防第一分署  
乙拾壹号 一番組

柏	神田區西福田町壹番地	秋元清太郎
星	組頭 柳川初太郎	
二	全區上白登町五番地	藤森佐太郎
三	全區旭町七番地	市川安太郎
四	全區福田町壹番地	
五	全區千代田町廿五番地	秋元清太郎
六	全區美土代町四丁目五番地	大塚彦太郎
七	全區美土代町四丁目五番地	山本金太郎
八	全區美土代町四丁目五番地	岡田岩次郎

明治28年

第一消防署  
一番組

三	全區西松町五番地	大塚彦太郎
二	全區千代田町廿五番地	淺野源太郎
一	全區東紺屋町廿九番地	関口龜次郎
九	全區元柳原町十七番地	山本金太郎

明治40年

第一消防署  
一番組

三	全區東紺屋町廿九番地	関口龜次郎
二	全區千代田町廿五番地	淺野源太郎
一	全區西松町五番地	大塚彦太郎
九	全區元柳原町十七番地	山本金太郎

明治44年

第一消防署  
一番組

三	全區西松町五番地	大塚彦太郎
二	全區千代田町廿五番地	淺野源太郎
一	全區東紺屋町廿九番地	関口龜次郎
九	全區元柳原町十七番地	山本金太郎

大正3年

第一消防署  
一番組

三	全區西松町五番地	大塚彦太郎
二	全區千代田町廿五番地	淺野源太郎
一	全區東紺屋町廿九番地	関口龜次郎
九	全區元柳原町十七番地	山本金太郎

大正11年

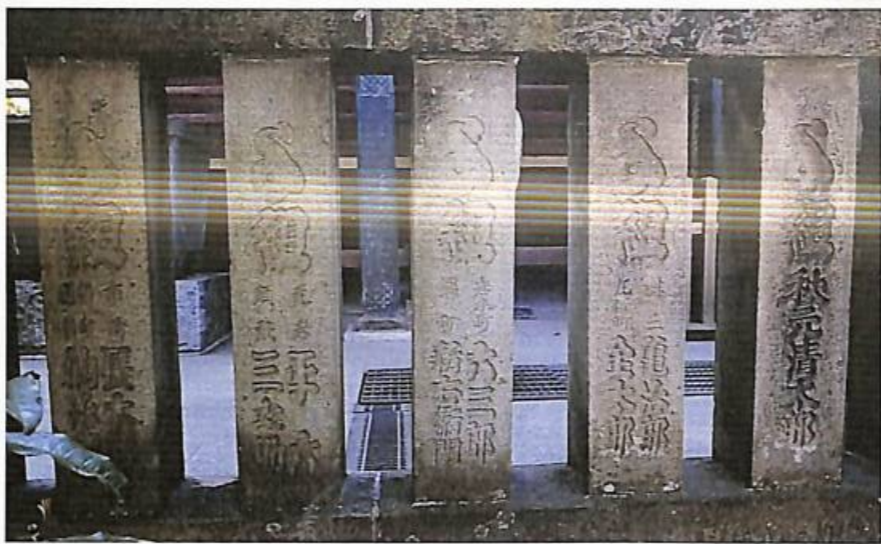


飯香岡八幡宮  
神田よ組発起の額(大正8年)

確認用







よ組 秋元清太郎  
 よ組 紺三亀治郎 九軒町金太郎  
 よ組 岩本町六三郎 鍋町新右衛門  
 よ組 元岩平次 須貳三之助  
 よ組 市橋長太郎 柳町通新 仙治郎



八番組 よし町 小山兼吉  
 第一區八番組 朝山惣七 小網仲町四  
 九番組 辻福太郎  
 ろ組 材二 小林善吉  
 は組 蛎一 留吉 山兼  
 い組 日本橋室町 濱松屋

← 神田纏屋



立原重次郎↓



● 飯香岡八幡宮 出所：千葉県立中央博物館デジタルミュージアム『日本博覧図』



「明治四十四年五月廿五日起工 同八月卅日竣  
 成を告 この石垣□□氏子惣代人寺島久次郎  
 市川石三 鈴木卓爾の三氏により 四十三年  
 十二月内務大臣新許可□□請け東京市内乃講員並  
 に信徒の篤きみこゝろになりたる□□社なり  
 □□□□寄附の募集□□□□工の事に□□□□其任に  
 あり□□□□板□□□石少勒し芳名を千載□□□□  
 社司 石原常春謹みて誌る須」  
 明治四十四年は西暦一九一一年であり、今か  
 らは百年近く前のことである。

飯香岡八幡宮  
 神田よ組発起の額(大正8年)  
 発行日：平成24年4月23日  
 撮影編集：一般社団法人江戸消防記念会  
 史跡調査員 高橋久雄  
 印刷：リコーククリエイティブサービス(株)  
 非売品 複製厳禁



右1段目



左1段目

右2段目

左2段目



左2段目



「二ノ二」 「乗物町内赤」 ↓  
「五ノ二」 「坂倉内亀次郎」 ↓



右2段目

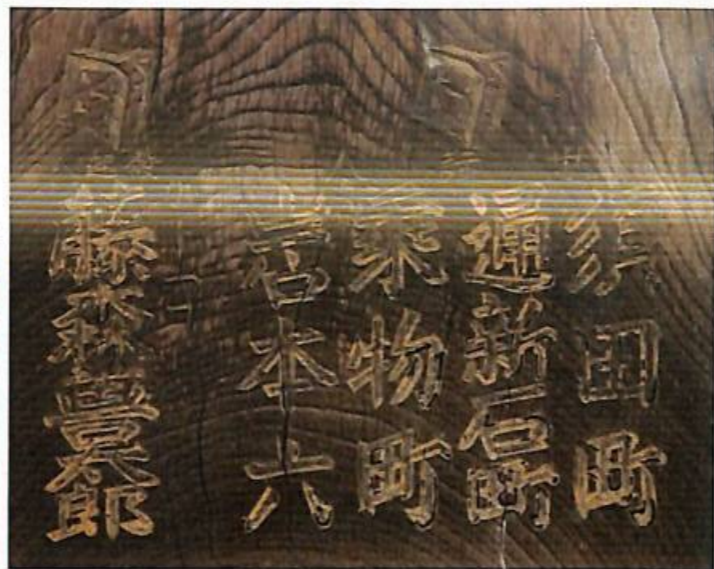


御防講

右3段目







右全体



左全体



重要文化財  
千歳県指定  
有形文化財

飯香岡八幡宮本殿 一棟  
昭和二十九年九月十七日指定

飯香岡八幡宮拝殿 一棟  
昭和四十一年五月二十日指定

社伝によれば白鳳四年に創立されたといわれ、上総国分寺附近に鎮守され國守の崇敬もあつたといわれています。また、菅原朝臣の御代、開東における八幡信仰の聖地として、千歳氏をはじめ一般庶民の崇敬を集めて今日に至つています。本殿は正面三間、側面二間の會に入母屋造りの屋根がのり、その正面三間に一間一階通りの向拝が付き、側面に廻廊がめぐらされています。構造的には和様を主体とする神社建築です。拜殿は正面五間、側面三間、屋根は本殿と同しく入母屋造りで、正面中央に千鳥破風をつけ、五花窓をとり、向拝中央は軒破風となつています。書院風には三花かぶら懸垂を付けています。建立年代は棟札や各部の構式手法から元禄四年（一六九七）頃であることが確認されています。このように神社建築を極限までよいいます。（注意事項）火災の使用はしないでください。内部の見学は所有者の承諾を得てください。昭和五十四年三月 千歳県教育委員会 市議会教育委員会

- |          |                      |
|----------|----------------------|
| 第一区一番組   | 柏屋 美土四 紺三 連雀町 九軒町    |
| 第一区二番組   | かじ二 新きじ 蠟関治 三河四 新連清  |
| 第一区三番組   | 瀬戸物町 十軒店 駿河町 長濱町     |
| 第一区四番組   | 釘店三 釘店保              |
| 第一区五番組   | 新右工門町 元大工町せい 材一金     |
| 第一区六番組   | 樽正町 下槇町 三            |
| 第一区七番組   | 五良兵衛町 南傳町 豊町宇太 有一梅   |
| 第一区八番組   | かゞ常 西町正 竹川惣 志婦清新香町   |
| 第一区九番組   | 十町目 新栄黒 月三市 つき四常 木五赤 |
| 第一区十番組   | 豊嶋町 政右工門 富松町 通塩町庄治   |
| 第一区十一番組  | 小舟町 富澤町 長谷川町 蛸一留     |
| 第一区十二番組  | 山兼 平徳 纏繁             |
| 第一区十三番組  | 龜嶋町 五丁目文 三代町 兜町和     |
| 第一区十四番組  | 三木屋 大川端 越前堀國 箱二 長二重  |
| 第一区十五番組  | 田村町春松                |
| 第一区十六番組  | 五丁目                  |
| 第一区十七番組  | 新〇勘二                 |
| 第一区十八番組  | 砂土原 永楽家 香町寅          |
| 第一区十九番組  | 榎町金 山吹町              |
| 第一区二十番組  | 下三組町                 |
| 第一区二十一番組 | 大塚甚                  |
| 第一区二十二番組 | 水道町 赤城下栄 江戸川常        |
| 第一区二十三番組 | 猿二八十 淡二亀 同朋金 三崎町     |
| 第一区二十四番組 | 坂倉                   |
| 第一区二十五番組 | 大門町                  |
| 第一区二十六番組 | 瓦町 田二〇 今戸 日乃家        |
| 第一区二十七番組 | 弁一為                  |
| 第一区二十八番組 | 東元竹                  |
| 第一区二十九番組 | 阿喜本                  |
| 第一区三十番組  | 下町政 小柳町 紺一国 元岩瀧 龍閑治  |
| 第一区三十一番組 | 富山町 新滝 代地金 美倉町       |
| 第一区三十二番組 | 九軒町内栄太郎 纏直 階子宗 階子玉   |
| 第一区三十三番組 | 朝次郎                  |
- 大正八年（一九一九）九月之納 榎朝書



八幡史学館名所百選チーム  
第45回打ち合わせ

1) 6、7月のスケジュール

- ① 6月18日(月曜日) 「八幡史学館」受付
- 6月19日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除
- " 10時00分 八幡公民館、江戸火消し額について
- 7月3日(火曜日) 13時30分 第46回打ち合わせ
- 7月17日(火曜日) 9時30分 八幡史学館①、池回り清掃は中止
- ② 拓本チーム =
- ③ 石造物チーム = 版下作成、校正、印刷など随時個別招集します

2) 江戸消防記念会史蹟調査員に聞く

- ① 高橋久雄さん = 元東京消防庁職員、消防博物館非常勤講師
- ② 調査報告書「飯香岡八幡宮神田よ組発起の額(大正8年)」について

3) 本年度八幡史学館スケジュール

- ① 7月17日(火曜日) = プロローグ  
菊間藩士「代々公私留」にみる水野藩の歴史
- ② 8月28日(火曜日) = 清水あい子さんに聞く「海の町と魚惣の思い出」  
八幡「第四十七国立銀行」について(佐倉東雄)
- ③ 9月25日(火曜日) = 城歩きの楽しみ(城郭基礎講座)  
次回バス研修の見どころ
- ④ 10月21日(日曜日) = 鶴舞藩庁舎と大多喜城を歩く  
参考 = 辰巳公民館「江戸、東京歴史散策」
- ① 9月4日(火曜日) = 徳川幕府と寛永寺、次回バス研修の見どころ
- ② 10月2日(火曜日) = 谷中と寛永寺を歩く

4) 八幡の石造物研究発行スケジュール

- ① 第1刷(40部) = 8月中ごろ
- 第2刷(20部) = 11月ごろ
- ② B5判およそ300ページ、売価2000円
- ③ 第1刷寄贈先 = 八幡宮、無量寺、満徳寺、称念寺、円頓寺、妙長寺、八幡小、石塚小、川上家、辻井 10部
- 第2刷寄贈先 = 県立中央2、国会、市原中央、八幡 5部

5) 名所100選

- ① 第1刷 7月定例会配布
- ② 飯香岡八幡宮編

6) 郷土史情報

以上

123-3383



佐倉、多村、高次、石井、山岸  
松尾、内務、青木

八幡史学館名所百選チーム  
第44回打ち合わせ

平成24-5-1  
八幡公民館

1) 5、6月スケジュール

- ① 5月12日(火曜日) 参考 八幡公民館「いざ鎌倉」①講座
  - 5月17日(木曜日) 参考 城を歩く会「新井城と三崎城を歩く」
  - 5月22日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本
  - 5月26日(土曜日) 参考 八幡公民館「いざ鎌倉」②現地研修
  - 6月1日(金曜日) 参考 八幡公民館「いざ鎌倉」③+1現地研修
  - 6月5日(火曜日) 13時30分 第45回定例打ち合わせ
  - 6月18日(月曜日) 「八幡史学館」受付
  - 6月19日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本
- ②拓本チーム = 取り直しあれば随時招実実施してください  
③石造物チーム = 版下作成、校正、印刷、本格化にともない随時個別招集します

2) 八幡の石造物研究

①辻井義輝さんの漢文解読

②本文関係進行状況(ほぼ300ページの見込み)

飯香岡八幡宮	版下完成。微調整仕上げ中	
満徳寺	"	校正回覧中
無量寺	"	"
称念寺	"	"
円頓寺	"	"
妙長寺	原稿、版下仮作成、補足取材必要	
支所町役場跡、公民館、青少年会館など	版下ほぼ完成	11ページ
八幡地区	版下ほぼ完成	35ページ
八幡北町、石塚地区	版下ほぼ完成	9ページ
中小学校	版下ほぼ完成	15ページ
表紙、前付け、後付けページ	未完	

③完成 夏ごろ

- 第1刷 50部
- 第2刷(正刷) 20部 図書館寄贈用ほか

④一括山岸立替え払い、販売価格2000円程度、残部は山岸引き取り  
販売計画は次回打ち合わせる

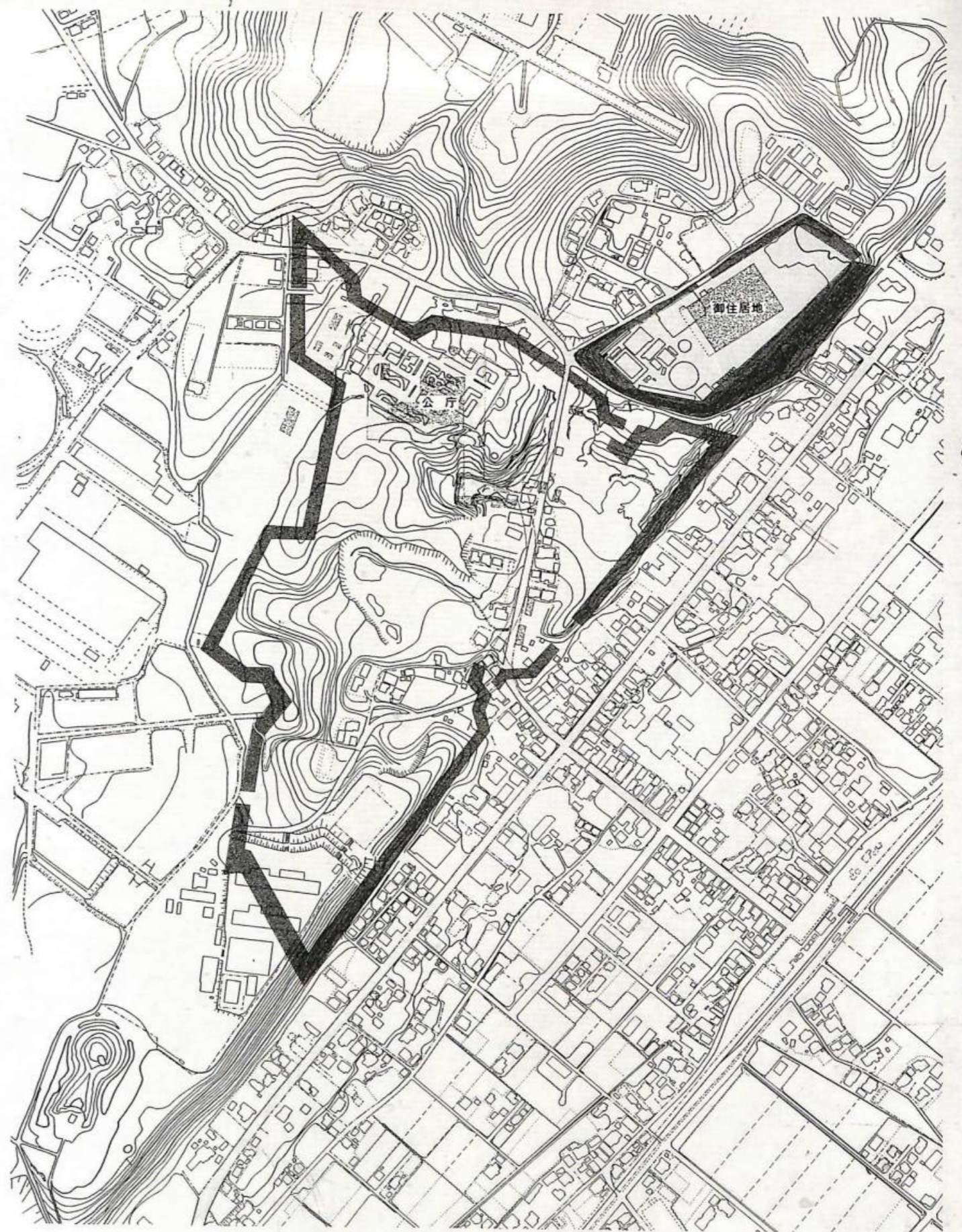
3) 前回花見会補足 4月10日

- ①松尾城(松尾藩庁舎)  
松尾町営自動車教習所工事にもなう発掘調査報告書  
山武市郷土史料集⑦掛川藩から松尾藩へ、近代編
- ②坂田城

4) 郷土史情報

こがし子入修リニューアル終了

以上



第3図 松尾城跡周辺地形図



佐倉多村石井山岸  
鷲坪内藤

平成24-3-6  
八幡公民館

八幡史学館名所百選チーム  
第42回打ち合わせ

1) 3、4月スケジュール

- ① 3月15日(木曜日) 参考
- 3月16日(土曜日) 参考
- 3月17日(土曜日) 参考
- 3月20日(火曜日) 9時00分
- 3月24日(土曜日) 参考
- 4月10日(火曜日) ~~10時30分~~
- 4月4、5日 参考
- 4月17日(火曜日) 9時00分
- 4月18日(水曜日)

八幡宮春季祭礼  
八幡公民館「いざ鎌倉」下見、少数同行可能  
房総古代道研究会講座  
八幡宮方丈池回り掃除、拓本  
中央図書館、歴史講座(佐倉)  
「戦前の八幡を老舗から探る」  
第42回定期打ち合わせ  
城を歩く会「信越の名城を訪ねる」  
八幡宮方丈池回り掃除、拓本  
「いざ鎌倉」受付

流見(城口城、築山城)

2) 八幡の石造物研究

- ① 前回以降の進行状況
- \* 円頓寺 拓本、取材、まとめ
- 妙長寺 次回
- ② 拓本チーム
- 前回の結果 円頓寺
- 今後の予定 八幡宮手水鉢・道標、無量寺、称念寺、

3月20日

円とわ寺福、商工会法所

3) 公民館講座日程

- ① 電車で行く「いざ鎌倉」(八幡公民館)
- \* 5月12日(土曜日) 13時30分~15時30分教室講座  
大河ドラマ「平清盛」から源頼朝の「鎌倉城」へ
- \* 5月26日(土曜日) 現地巡見、健脚向け、3000円  
稲村が崎、極楽寺坂切り通し、長谷寺(昼食)、大仏坂切り通し旧道
- \* 6月 日(プラス1)  
建長寺、亀ヶ谷坂切り通し、寿福寺、鶴岡八幡宮、大倉幕府跡、頼朝の墓、  
若宮大路
- ② 八幡公民館「八幡史学館」4回シリーズ=6月受付
- ③ 辰巳公民館「江戸東京歴史散歩」2回シリーズ=7月受付
- ④ 八幡公民館 石井

佐倉

8/28(火)

岡本47銀行に700

4) 郷土史情報

- ① 円頓寺

5) 「八幡名所100選」まとめ

6) やわたむかし写真館リニューアル

4月オープン 日程、

7) その他について

以上

青木改  
水野忠実掛軸「青松景色多し」横切  
鶴巻春代  
西丸若年身

佐倉、多村、高次、山岸  
野津、内藤、青木

八幡史学館名所百選チーム  
第41回打ち合わせ資料

平成24-2-7  
青少年会館

1) 2、3月カレンダー

①(1) 2月10-12日	参考	内房線100年SL運転
2月21日(火曜日)	9時00分	八幡宮方丈池回り掃除、拓本
3月6日(火曜日)	13時30分	第42回定例打ち合わせ
3月10日(土曜日)	参考	飯香岡八幡宮 春季祭礼
3月17日(土曜日)	参考	房総古代道研究会講座
3月20日(火曜日)	9時00分	八幡宮方丈池回り掃除、拓本

2) 八幡の石造物研究

① 全体構想と進行状況 (○印=ほぼ完了、\*=補足必要)

(1) 前付け	4ページ△
(2) 写真ページ	8ページ*
(3) 飯香岡八幡宮	103ページ○
(4) 満徳寺	20ページ○
(5) 無量寺	28ページ○
(6) 称念寺	21ページ○
(7) 円頓寺	19ページ△*
(8) 妙長寺	10ページ△*
(9) 胴埋塚	8ページ○
(10) 市関係(支所など)	9ページ○
(11) 八幡地区(浜本など4周辺)	28ページ○
(12) 八幡北町、八幡石塚地区	9ページ○
(13) 学校関係	15ページ○
(14) 八幡名所100選	12ページ
(15) あと付け	4ページ*
およそ300ページ	

- ② 拓本チーム  
前回の結果 満徳寺、倉本医院  
今後の予定
- ③ 辻井義輝氏による漢詩解説
- ④ 川上南洞碑

3) 講座日程

- ① 中央図書館講座 佐倉さん 3/24 13:30 池田池探八幡
- ② 八幡史学館(八幡公民館) ①7月17日、②8月28日、③9月25日、  
④10月21日(バス)
- ③ いざ鎌倉(八幡公民館) ①5月26日(JR)、②9月8日、③10月13日(JR)
- ④ 江戸東京歴史散歩(辰巳公民館) ①9月4日、10月2日(バス=谷中)

4) 郷土史情報

- ① 青柳台光明寺過去帳(佐野氏発見文書)

5) 「八幡名所100選」まとめ

6) やわたむかし写真館リニューアル

7) その他について

純教居士 七開月 俗名齋藤三郎  
純理居士 七開月 俗名土屋敷

純行居士 七開月 俗名園恒太郎  
純詮居士 七開月 俗名渡邊何某

右四人者慶應四年閏四月義士守官軍七日  
赤明自八幡驛互絶矢前至午時戰于井  
川境義士救勢逢而敗走兩軍戰死八十人  
當所海端四人皆其内也云爾

當院第十七世良友右四人 周忌詮居士等  
明治二十二年四月七日 周忌詮



市原で戦った戊辰戦争

人物点描

佐野 彪

明治維新の胎動、戊辰戦争は鳥羽伏見の戦いが発端となった。

慶応四年（一八六八）一月三日

徳川第十五代将軍、徳川慶喜が上洛するについて、その先発隊と薩摩藩とが、鳥羽伏見で衝突したこ

とから始まった。それ以後、箱根戦争、上野の彰義隊の戦い、市川

船橋の戦い、続いて八幡・五井から姉崎へと展開し、真里谷の真如寺で徳川軍（義軍）の敗北解散。

一方、東北地方へ展開した両軍は、会津から天童、秋田戦、仙台

そして北海道へと転戦し、五稜郭の戦いで官軍が勝利し、戊辰戦争

は終焉となる。この間、約一年半続いた戦いで、多くの農民たちは

軍資金の調達、兵糧米の提供、人足として動員等大変な苦勞を強い

られた。

さて、市原で戦った義軍兵のうち、記録に残る人物を取り上げて

みる事にする。

一、真板左一郎（義軍兵の生き残り、本名奥村七郎）

戦いで負傷し瀬井戸へ落ち延びた。官軍の厳しい残党狩りから逃

れ、飛籠精一郎宅へ身を寄せ傷を癒した。恩赦で白日の身となり真

板家の跡を継ぐ。明治二十二年十一月より大正二年十二月まで市東

第一小学校（当時の三成校）に勤務、訓導兼校長で月俸十二円（米

一俵二円）であった。児童及び地域住民の尊敬極めて篤く、先生が

退職の際は多くの住民が、学校から自宅の近くまで沿道に並び涙で

別れを惜しんだと語り伝えられている。漢文、漢詩等に造詣が深く

「頑石遺稿」が門弟により編まれている。

二、近澤若五郎と妻志柰子

義軍兵の近澤若五郎は、畑木で官軍と戦い負傷し海保の永津に逃

れた。名主家海上さん宅で養生に努めたが同家で亡くなった。永津

の共同墓地に埋葬された。海上さん方で供養されている。墓域の一隅に寂しく建つ墓石の裏面に、歌が読まれていた。

奈可良遍天

何遠便里仁

古里恵

心楚此尔

春美曾女能袖 志柰子

（永らえて何を便りに故郷へ心ぞ此に墨染めの袖）

妻の志柰子は、後に夫の墓地を探し当て、主人の冥福を願ひ懇ろに供養し、歌を捧げた。志柰子はしばらく海上さん方で厄介になっていたが、その後良縁に恵まれて

青柳の加藤徳八先生と再婚する。加藤氏は寺小屋の師匠から後に千種小学校の初代校長を勤めた人である。加藤先生宅は屋号を「し

よう様」と言う。師匠様と呼ばれていたが、いつの間にか訛って「しよう様」となったと教えられた。

墓石の調査により、志柰子は東京市巢鴨、佐脇新兵衛長女ひさと判明した。再婚後の志柰子（ひさ）は、豊かな教養を生かし地域の人々に溶け込み暮らしたと言つ。

三、四人の義軍兵士

北青柳の共同墓地に四人の義軍兵士が眠る。幸いにも氏名が判明している。斎藤庄之助、土屋勘次郎、吉岡常太郎、渡辺（名不詳）の四人。討ち死にした日は、すべて慶応四年閏四月七日である。

青柳台の光明寺（新義真言宗）の過去帳に、事実を裏付ける資料がある。以下同寺の過去帳より

「純教居士 辰閏四月七日 俗名 斎藤庄之助

純理居士 辰閏四月七日 俗名 土屋勘次郎

純行居士 辰閏四月七日 俗名 吉岡常太郎

純澄居士 辰閏四月七日 俗名 渡辺某

続いて、過去帳には「五井川境義士救勢遅而敗走而軍戦死八

十人」と記す。五井川境（出津）の両軍戦死者が八十人との記録も初見であった。また、別の資料名主日記（旧島野村落合家所有）には、「青柳村にて戦死の骸に金子これ有り、右金二十七両式分の由」と記す。どこで調達したものか日記は語らない。





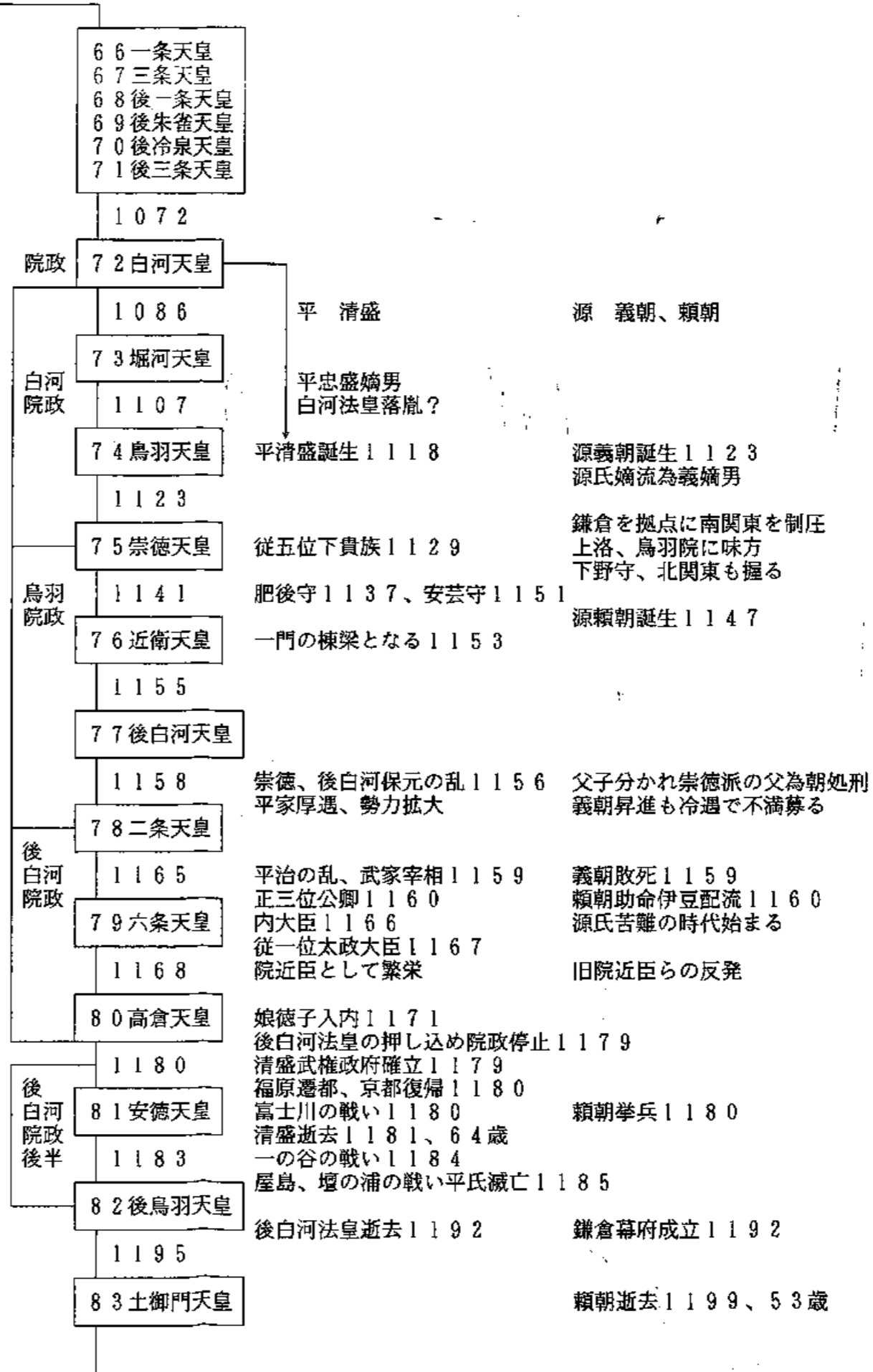


平安前期 (平安京=京都)  
貞観時代



参考図参照 ←

平安後期  
藤原時代





- 1) 今後のスケジュール
  - ①(1)12月20日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本チーム
  - (2)1月10日(火曜日) 10時00分 定例打ち合わせ、新年昼食会
  - (3)1月17日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除
- 2) 八幡史学館
  - ① 平成23年度全講座終了 ご協力ありがとうございました
  - ② 平成24年度計画立案中
    - (1)6月26日(火曜) = 大河ドラマ「平清盛」、八幡名所100選  
プラス1 = 午後自由参加、飯香岡八幡宮本殿と宝蔵庫見学 8月?
    - (2)7月17日(火曜) = 室町幕府と関東動乱、江戸時代の庶民の生活
    - (3)8月28日(火曜) = 菊間藩士文書に見る武士の系譜(60分)、佐倉さん(60分)
    - (4)9月25日(火曜) = バス研修、市原市埋蔵文化財センター、大多喜城とその城下
  - ③ 八幡公民館主催事業 = 電車で行く鎌倉切り通しと古刹(中健脚向け)
    - (1)5月26日(土曜、予備27日) = 新田義貞、北条氏古戦場と感動の切り通しを歩く  
稲村ヶ崎、極楽寺、極楽寺切り通し、長谷寺、鎌倉大仏、大仏坂切り通し旧道
    - (2)8月4日(土曜) = (教室講座) 鎌倉幕府と鎌倉城の守り
    - (3)10月13日(土曜) = 北鎌倉から鶴岡八幡宮へ  
東慶寺、建長寺、亀ヶ谷坂切り通し、鶴岡八幡宮(解散)、希望者で大蔵御所、  
頼朝の墓
  - ④ 辰巳公民館 未定
- 3) 八幡の石造物研究
  - ① 拓本チーム 前回の結果  
称念寺「六地藏」、観音町「道標」
  - ② 拓本チーム 今後の予定
    - (1)次回 = 村田川公園庚申塔
    - (2)飯香岡八幡宮 龍手水鉢
    - (3)円頓寺、妙長寺  
必要あれば追加  
全終了後、飯香岡社寄進用作成?
  - ③ 本文関係
    - (1)八幡小学校、石塚小学校、八幡中学校、八幡公園  
円頓寺、妙長寺
    - (2)全体進行と校正
    - (3)ページ余裕あれば100選を加える
- 4) 郷土史情報
  - ① 八幡小学校沿革誌コピー
  - ② 国府推定地の最近の見解
- 5) 「八幡名所100選」まとめ
  - ①(1)最終文字チェック
  - (2)会報第3号として発表、一般配付用別刷り再編成
- 6) その他について

以上



1) 今後のスケジュール

- ①(1)11月4日(金曜日) 9時00分 拓本チーム 称念寺
- (1)11月9日(水曜日) 8時40分 八幡史学館第4回バス研修
- (2)11月15日(火曜日) 12時20分 八幡史学館プラス1
- (3)11月22日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本チーム
- (4)12月6日(火曜日) 13時30分 第39回打ち合わせ
- (5)12月20日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本チーム

2) 八幡史学館

- ① 第4回(11月9日)=バス研修  
千葉市立郷土博物館、猪鼻城主郭部、外郭(千葉大学医学部=徒歩移動1時間)中央博物館、(昼食も)生実城(北小弓城、生実陣屋跡=巡検)生実重俊院(今井先生案内)
- ② +1 (11月15日=別紙参照)=第4回で参加名簿確定  
大覚山古墳、千葉市埋蔵文化財センター、小弓城跡  
13時00分千葉市埋蔵文化財センター前集合(12時20分八幡公民館出発)3時間  
雨天の時=大河ドラマは「お江」から「平清盛」へ(視聴覚室)  
車のお願い=石井車、内藤車、多村車(最大18台程度=相乗り)

3) 八幡の石造物研究

- ① 拓本チーム 前回の結果  
称念寺「地藏」、聖観音2、阿弥陀如来、住職墓祐天書
- ② 今後の予定
 

(1)称念寺	菊間藩士の墓、経塔、六地藏
(2)観音町入り口	庚申塔
(3)村田川公園	庚申塔
(4)飯香岡八幡宮	龍手水鉢
(5)円頓寺、妙長寺	
- ③ 全終了後、飯香岡社寄進用作成  
写真チーム

4) 郷土史情報

- ① 房総地方の出羽三山講信仰(対馬先生)

5) 「八幡名所100選」まとめ

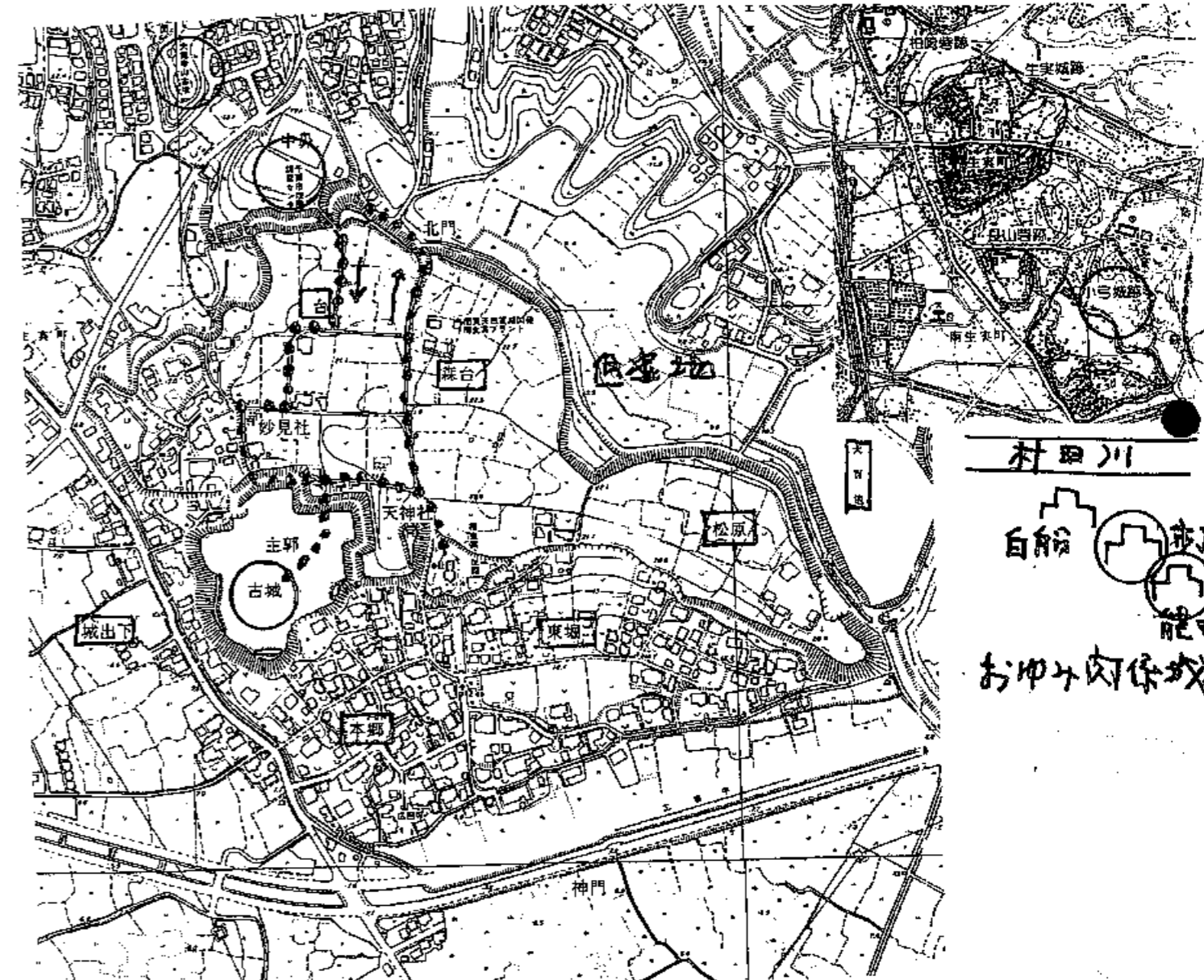
途中でも次回以降のチェックへ

6) その他について

以上

1) 少なくとも5回は落城した上総、下総争奪、境い目の城

- ① 生実原氏と生実(北小弓)城については「八幡史学館」第4回資料で紹介した。今回は続編。
- ② 小弓城は生実城の南東およそ1km、下総台地先端に立地する平山(丘)城で、創建は不詳だが享徳4年(1455)ころ生実原氏築城が考えられる。天文7年以降本拠を生実城に移して支城となり、天正18年または江戸時代はじめに廃城となった。戦国時代、上総、下総国境、境い目の城で、生実支城時代を含め少なくとも上総武田氏、小田原後北条氏、大多喜正木氏、小田原北条氏、豊臣秀吉軍によって落城または不戦開城した。  
\*全国の城は2万とも3万ともいわれる。うち実戦の経験のある城は30%以下、落城した城は一握りしかない。房総戦国の代表的な城といえる。
- ③ はじめ生実原氏の本拠で、永正14年上総武田氏が攻め取り、小弓公方足利義明が御座所とした。
- ④ 戦国中後期も両総の取り合いが続き、最後は北条氏の所領で原氏が復帰したが豊臣、徳川軍に敗れた。後期は生実(北小弓)城を本城に、小弓城、千葉猪鼻城、上総市原城、能満城を含めた房総往還沿い城郭群で本支城網を形成したと考えられる。  
\*本城公園教育委員会看板=千葉氏は上総方面の備えに小弓城を築き、重臣原氏に守らせていた。(中略)天文7年新たに北小弓城を築きここを本拠地とした(前報参照)  
\*近年の研究で義明当時の本城は生実城で、小弓城は後世の支城とする説がある。縄張りの比較、明和年間の重俊院僧語録(前報)などを根拠としている。しかし永正6年(1509)におゆみを訪れた宗長の紀行文「東路のつと」の記述が小弓城と合致するなどの問題点がある



小弓城と案内コース



達候事

但右紙幣ノ備ハ明治十年(十二月)第九十號明治十一年(七月)第拾六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

千葉縣下上總國市原郡

第四十七國立銀行

八幡濱本町三百十五番地

第九十四國立銀行

兵庫縣下播磨國揖西郡

第四十五國立銀行

東京府下日本橋區

第七十八國立銀行

濱町二丁目壹番地

第七十六國立銀行

以上

○甲第八號

金祿公債證書拾圓丙八貳〇六番壹枚右ハ秋田縣平民藤本富藏所持ノ處客年十二月十六日同縣下稻澤村高橋嘉一郎宅於テ紛失ノ旨届出候條以後右証書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノモノハ速ニ管轄廳ヘ可訴出管轄廳ヨリハ即當省ヘ可届出此旨布達候事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

○乙第五號

郡區長郡區書記ヘ他ノ官吏ヨリ轉任又ハ郡區長郡區書記ヨリ他ノ官吏ヘ轉任ノ節月俸ハ明治七年(五月)第六十一號公達月俸規則第四條ニ照準其月十七日在職ノ方ニ於テ支給シ滿年賜金ハ其際打切支給可致此旨相達候事

但適宜法已ニ篤行フト雖モ本文ニ背馳ノ向ヘ引直候備ト可相心得事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

22(水)

○甲第九號

金祿公債證書貳拾五圓丙五〇七五番一枚右ハ東京府士族大森春太郎所持ノ處客年十一月十八日關口菜町屋野作右衛門方於テ留守中焼失ノ趣ニ候得共現場見認候者モ無之旨届出紛失ノ程モ難計候條以後右証書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノモノハ速ニ管轄廳ヘ可訴出管轄廳ヨリハ即當省ヘ可届出此旨布達候事

明治十二年一月廿一日

大藏卿大隈重信

○乙第七號

今般國稅金領收ノ順序相定候ニ付テハ各郡區長ハ租稅局長ヨリ直ニ相達候儀モ可有之候條兼テ郡區長ハ相達置可中候此旨相達候事

明治十二年一月廿一日

大藏卿大隈重信

23(木)

○甲第拾號

金祿公債證書三百圓丙と參四〇七番壹枚右ハ靜岡縣士族栗原喜久治郎所持ノ處客年十二月十四日盜難ニ罹候旨届出候條以後右ノ証書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノモノハ速ニ管轄廳ヘ可訴出管轄廳ヨリハ即當省ヘ可届出此旨布達候事

明治十二年一月廿二日

大藏卿大隈重信

28(火)

○甲第拾壹號

今般國立銀行條付ヲ遵奉シ左ノ場所ニ設立シタル國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシテ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貸ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨相達候事(但右紙幣ノ備ハ明治十年十二月第九十號同十一年(七月)第十六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事)

明治十二年一月廿五日

大藏卿大隈重信

和歌山縣下紀伊國名草郡  
和歌山中ノ店中ノ丁十七番地

第四十三國立銀行



# 東京日日新聞

第貳千三百三十五號

日 曜 月

明治二十一年一月二十日

太政官記事

○一月十八日分

任外務權少書記官

外務一等屬 齋藤 榮

兼任二等警視補

陸軍中尉兼大警部 天野 眞倫

任二等警視補

大警部 山口 尙武

同

同 上島 明政

○十一年十二月廿七日分

任海軍中尉

海軍少尉 早崎 七郎

同

同 澤 眞漁

任海軍少尉

海軍少尉補 前田 淨一

## 大藏省錄事

○甲第七號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ左ノ場所ニ設立シタル國立銀行ニ於テ  
公債證書ヲ抵當トシテ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシ  
メ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅  
ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布  
達候事

但右紙幣ノ價ハ明治十年(十二月)第九十號明治十一年(七月)第  
拾六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

千葉縣下上總國市原郡  
八幡濱本町三百十五番地

第四十七國立銀行

兵庫縣下播磨國揖野郡  
龍野町九百三拾壹番地

第九十四國立銀行

東京府下日本橋區  
濱町二丁目壹番地

第四十五國立銀行

大分縣下豐前國下毛郡  
中津町千九百七十九番地

第七十八國立銀行

岐阜縣下美濃國石津郡  
高須村三番地

第七十六國立銀行

以上

○甲第八號

金祿公債證書拾圓丙八貳〇六番壹枚右ハ秋田縣平民藤本富藏所  
持ノ處客年十二月十六日同縣下稻澤村高橋嘉一郎宅於テ紛失ノ旨  
届出候條以後右証書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノモノ  
ハ速ニ管轄廳ヘ可訴出管轄廳ヨリハ即當省ヘ可届出此旨布達候事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

○乙第五號

郡區長郡區書記ニ他ノ官吏ヨリ轉任又ハ郡區長郡區書記ヨリ他ノ  
官吏ヘ轉任ノ節月俸ハ明治七年(五月)第六十一號公達月俸規則第  
四條ニ照準其月十七日在職ノ方ニ於テ支給シ滿年賜金ハ其際打切  
支給可致此旨相達候事

府 縣

但適宜法已ニ施行スト雖モ本文ニ背馳ノ向ヘ引直候儀ト可相心  
得事

明治十二年一月十八日

大藏卿大隈重信

○臨時

神奈

張山

稱ス

織緯

小サ

家ニ

ノ稱

ノ稱

月實

樹皮

ヨリ

越後

中ニ

スル

幣局

和宜

其質

カ其

ヲ得

依テ

ノ如

テ之

脂ノ

リ

公ガ

我ガ

往々

横濱

ラズ

ノ待

クセ

是マ

某論

ヘリ

ニ千

職ヲ

又リ

又リ

又リ

又リ

又リ

又リ

又リ

又リ

又リ

又リ



暮秋月

きーのゐ  
秋月

暮秋月

秋月

秋月

暮秋月

きーのゐ  
秋月

秋月

秋月



市原市発祥の地

# 市原の里

ようこそ市原の里に。市原地区はJR内房線八幡宿駅から南東約2kmの台地上にあります。当地区には、万葉集にも登場する阿須波神社、飯香岡八幡宮(八幡)の元宮といわれる市原八幡神社、境内最古の石灯ろう(市原市指定文化財)が建つ光善寺など古い歴史を誇る神社仏閣が多くあります。また、県史の謎のひとつになっている上総国府の有力推定地にも挙げられています。市原台地下の水田からは律令時代の奈良・平安期の条里制遺跡、10世紀以前に造られたと思われる側溝を持った古代道遺跡が確認。古代の荷札?と思われる県内3列目となる木簡も見つかっています。近くの五所四反田遺跡(現五所小)からは古墳時代の県内初の鳥形木製品など多数の木製品が出土しています。

阿須波神社は、古くから「旅の神様」として崇敬され、境内には「庭中の阿須波の神に木柴さし吾は齋はむ帰り来まで」の万葉歌碑が建つ。故湯川秀樹博士も来県の折に訪れています。境内に立つと西方に富士山が見え、中道(古代遺跡)が長く伸びる風景。その先には「いまたち」が…。この地が「上総国府」だったのだという実感がわきます。おそらく、「更級日記」の作者の菅原孝標の女も「市原の里」から旅立ったのでは。ますますロマンが広がります。

光善寺もお薦めスポット。国道297号から連なる参道わきに、「更級日記」の作者が願掛けしたと伝えられる「御手洗井戸」。境内には、室町時代前期の作と見られる石灯ろう、僧・行基の説法、源頼朝が腰かけたと伝えられる「麦飯石」、現世利益をかなえてくれるという薬師如来像を安置した薬師堂などが建っています。また、近くからは、尼寺よりも古い瓦が出土。古い歴史をうかがわせます。市原市内で字名が市原とつくのは当地区だけです。市原市発祥の地。わたしたちは「市原の里」と呼んでいます。

## 市原の柳楯神事

一方、古い歴史ゆえに伝統行事も代々と受け継がれています。「市原の柳楯神事」(千葉県無形民俗文化財)は、600年以上にわたる飯香岡八幡宮の秋季大祭にまつわる特殊神事。市原地区で調整された柳楯が同神宮に到着しないと大祭が始まらない。柳は神降臨の霊木、柳楯は古代のみこしの原型だといわれています。そのほかにも多くの神社があり、まさに古代に誘ってくれるパワースポット。「市原の里」は魅力がいっぱいです。

(市原里づくりの会・山越国臣)



市原里づくりの会、市原柳楯神事保存会は地域活性化を目的に古い歴史と文化を持ち、魅力あふれた市原地域を多くの人たちに知ってもらおうと歴史・伝統文化の継承、PRIに努めています。併せて「更級日記」の旅立ちをイメージした絵柄をキャラクターに市原の里ブランドにも取り組んでいます。

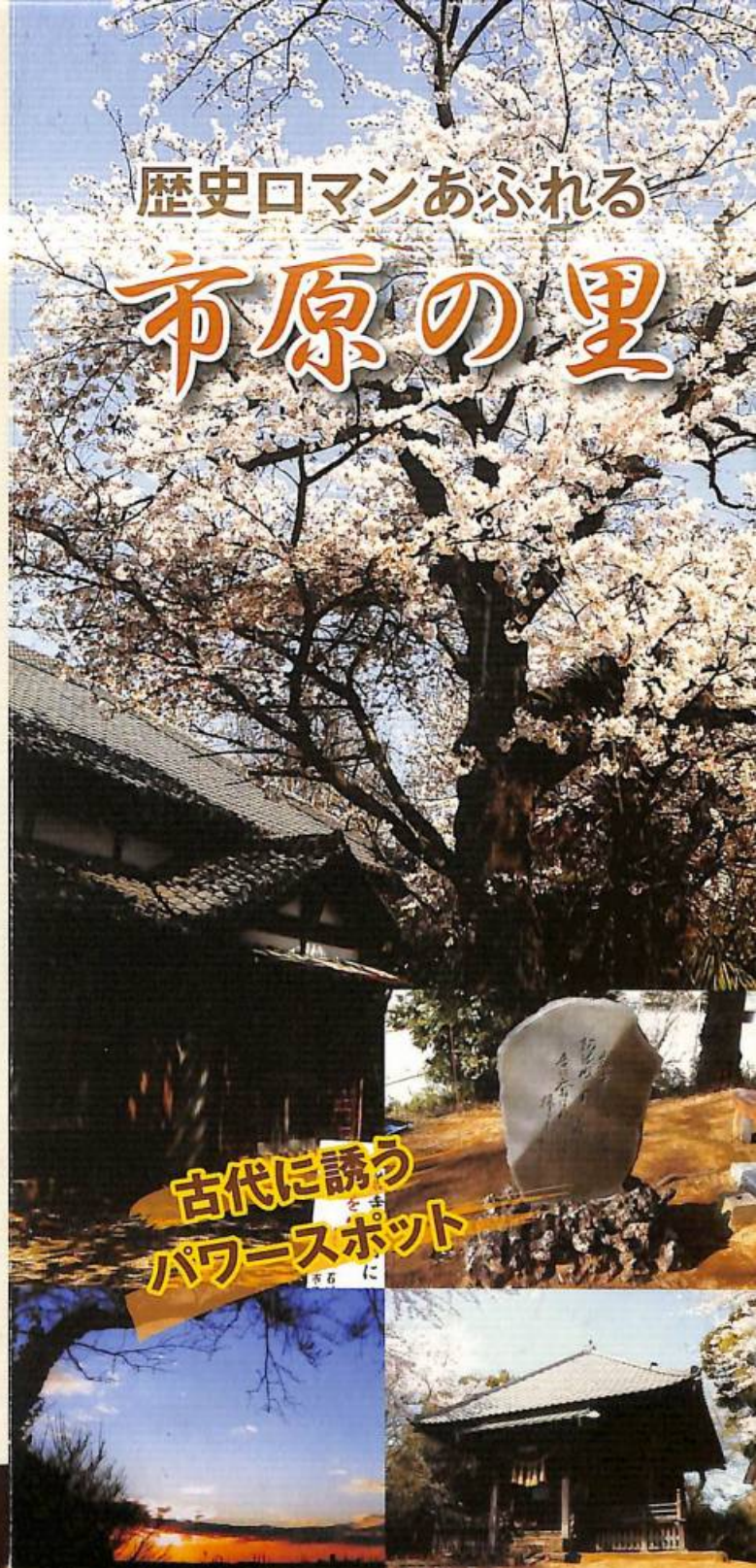
## 市原里づくりの会 市原柳楯神事保存会

お問い合わせ先 〒290-0015 市原市市原112 TEL/FAX.0436-41-0279

# 夢まるふぁんど委員会

歴史ロマンあふれる

# 市原の里



古代に誘う  
パワースポット





**①阿須波神社**  
古来から旅の神様として知られ、里人らに崇敬。春は境内が桜色に染まる。冬は富士山を望むことができる。



**②柳橋神事**  
飯香岡八幡宮の秋季大祭にまつわる神事。市原の里人らによって調整、五所地区まで巡行。翌日、柳橋は同宮に到着する。



**③柳橋の道**  
柳橋神事では調整された柳橋は市原台地から「中道」を通り送られる。その下には、古代道跡が確認されている。



**④万葉集歌碑**  
阿須波神社境内に建つ。同神社は万葉遺跡とされ、防人の歌(万葉集巻20・4350)が刻まれている。



**⑤市原八幡神社**  
飯香岡八幡宮の元宮と伝えられ、祭神は菅田別尊(ほんだわけのみこと・応神天皇)。柳橋神事の柳橋巡行の出発地。市原市市原1番地に建ち市原市はここから始まっている。市原市の1丁目1番地。発祥の地でもある。



**⑥光善寺石灯籠**  
市原市の指定文化財。室町時代前期の作と推定され、県内の石灯籠では最も古い。高さは約2メートルで安山岩製。簡素だが安定感のある姿形を示している。このような中世の石灯籠は、関東地方では希少な存在だ。



**⑦光善寺薬師堂**  
「お薬師さま」と呼ばれ、毎年8月第1日曜日に開帳される。堂内の厨子は室町時代の技法を残しており文化財。



**⑧麦飯石(ばくはんせき)**  
薬師堂境内にあり、影向(ようごう)石とも呼ばれている。僧・行基の説法、源頼朝が腰かけたなどの伝説が残る。



**⑨薬師堂御手洗井戸**  
光善寺へ通じる参道わきにある。昔は里人たちの貴重な水源だった。「更級日記」の作者が願かけた伝えがある。



**⑩光善寺参道**  
シイやケヤキの古木が繁り。早朝は朝日が差し込み神秘的な光景を見せる。パワースポット・光善寺への入り口。



佐倉、多村、山岸  
野井、青木、研谷、内藤

平成23-10-4  
青少年会館小会議室

八幡史学館名所百選チーム  
第37回打ち合わせ資料

1) 今後のスケジュール

- ①(1)10月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本チーム
- (2)11月1日(火曜日) 13時30分 第38回打ち合わせ
- (3)11月9日(水曜日) 8時40分 八幡史学館第4回バス研修
- (4)11月15日(火曜日) 13時00分 八幡史学館プラス1
- (5)11月22日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本チーム
- (6)12月6日(火曜日) 13時30分 第39回打ち合わせ
- (7)12月20日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本チーム

2) 八幡史学館

- ① 第4回(11月9日)=バス研修  
千葉市立郷土博物館、猪鼻城主郭部、外郭(千葉大学医学部=徒歩移動1時間)中央博物館、  
(昼食も)生実城(北小弓城、生実陣屋跡=巡検)生実重俊院(今井先生案内)
- ② +1(11月15日)=第4回で参加名簿確定  
大覚山古墳、千葉市埋蔵文化財センター、小弓城跡  
13時00分千葉市埋蔵文化財センター前集合(12時30分八幡公民館出発)3時間  
雨天の時=八幡公民館視聴覚室で「お江」(辰巳公民館と同じもの)  
車のお願い=石井車、佐倉車、多村車(15名くらい公民館乗車?)

3) 八幡の石造物研究

① 拓本チーム 前回の結果

(1)富貴神社「庚申塔」拓本

② 今後の予定

(1)称念寺 地蔵裏面、菊間藩士の墓、経塔、六地藏 → 10/18

(2)観音町入り口 庚申塔ほか

(3)飯香岡八幡宮 龍手水鉢

(4)円頓寺、妙長寺

全終了後、飯香岡社寄進用作成

③ 写真チーム

4) 郷土史情報

① 「歴史ロマンあふれる市原の里」(市原里づくりの会、市原柳橋神事保存会、夢まるファン

保存会=山越国臣)

② 浜野本行寺寺宝展(9月22日-25日、本行寺)

(1)永禄年間はじめ(1560ころ)「本行寺あて里見家臣・正木時忠制札」=

本行寺客殿建立にあたり乱暴狼藉の禁止

(2)元龜2年(1571)「浜村あて北条家禁制」=

当手軍勢乱暴狼藉の禁止

(3)「同禁制副え状」など中世文書6点

\*禁制=制札は領主が発行する。里見氏制札は一帯が里見領であったことを示している

\*当時本行寺は上総、下総国境地、現千葉市浜野=京葉道路入り口交差点館山自動車道引き込み

副道(山川工業先)にあった

③ 佐倉さん新資料=

4) 「八幡名所100選」まとめ

5) その他について

以上

八幡公民館主催事業「八幡史学館」④バス研修

平成23-11-9 山岸弘明

「千葉城」と八幡ゆかりの「生実城、生実陣屋」を歩く

本日の行程スケジュール(進行にご協力ください)

- 8時50分 八幡公民館出発、千葉市立郷土博物館着
- 9時20分 郷土博物館見学
- 9時50分 千葉猪鼻城跡主郭部巡見
- 10時30分 猪鼻城跡千葉大学医学部巡見(中央博物館へ徒歩移動)  
(自信のない方はバスで移動してください)
- 11時30分 県立中央博物館(昼食、自由見学)
- 13時00分 中央博物館出発、生実重俊院着
- 13時30分 生実城(北小弓城、生実陣屋)跡巡見  
(自信のない方は境内で待機してください)
- 14時30分 生実重俊院見学
- 15時50分 〃 出発
- 16時20分 八幡公民館着、解散

1) 史実に基づかない町のシンボル —— 千葉市立郷土博物館

①昭和42年、古代から中世にかけて活躍した千葉氏の居城跡に建設された郷土博物館。千葉氏に関する資料などを展示公開している。

②外観天守風。通称「千葉城」として地元民に親しまれているが史実に基づかない模擬城。

外観4重5階、鉄筋コンクリート造り、層塔型。石垣はコンクリート表面にやや厚めタイル状に切断した石材を張り付けて質感を強調している。

\*小田原城をモデルとしたと云われるがまったく似ていない

2) 鎌倉幕府創建に貢献 —— 千葉氏の興亡

①1階=江戸時代から現代の千葉。千葉市域の変貌をパネル紹介している(今回は見学しない)

2階=企画展・火縄銃展(今回は見学しない)

3階=千葉氏の興亡と妙見信仰

4階(プラネタリウム跡)

5階=展望台

②2階正面、千葉介常胤座像=鎌倉幕府創設に貢献した千葉氏中興の武将像

③3階・千葉氏の興亡と妙見信仰=千葉氏の勃興から滅亡まで、要点だけを解説します

Aゾーン=東国の混乱と千葉氏の勃興

(1)東国武士団の館、(6)両総平氏の成立、(7)千葉氏のおこり

Bゾーン=千葉氏の興隆

(9)源頼朝挙兵と千葉介常胤

Cゾーン=千葉氏の分立と南北朝の内乱

Dゾーン=関東の騒乱と千葉氏の分裂

(16)関東の動乱と千葉氏の分裂、(18)千葉氏と小弓の合戦

Eゾーン=戦国の動乱と千葉氏の滅亡

(24)小田原合戦と千葉氏の滅亡、後北条氏の勢力分布図、徳川家康朱印状

④エレベーターで展望台へ昇る

南側=蘇我、八幡方面。千葉港が垣間みれる

西側=本千葉駅、海岸埋め立て地方面。かつて500mほど先が本千葉海岸。海水浴や潮干狩り客で賑わった。その昔、海岸沿いの房総往還は軍用道路で源頼朝や里見、北条軍が往来した

北側=千葉駅、千葉市街方面。直下の都川は千葉城の外堀でもあった

東側=加曽利、千城台方面。直下の千葉大医学部、病院は外郭。徒歩移動の県立博物館ルートを確認

⑤下りは自由見学=博物館前に集合



佐倉、高木、多村、石井、山岸  
野村、青木、朝倉、内藤

平成23-9-6

八幡史学館名所百選チーム  
第36回打ち合わせ資料

1) 今後のスケジュール

- ① (1) 9月20日(火曜日) 9時30分 八幡史学館第3回  
 (2) 9月27日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本  
 (3) 10月4日(火曜日) 13時30分 第37回打ち合わせ  
 (4) 10月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本  
 (7) 11月1日(火曜日) 13時30分 第38回打ち合わせ  
 (8) 11月9日(水曜日) 八幡史学館第4回バス研修  
 (9) 11月 日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本

② 拓本チーム 今後の予定

- (1) 飯香岡八幡宮 歌碑土、龍手水鉢  
 (2) 庚申神社 庚申塔(芸術的に)  
 (3) 観音町入り口 庚申塔ほか  
 (4) 称念寺 地蔵裏面、菊間藩士の墓、入り口経塔、六地藏  
 (5) 円頓寺、妙長寺

全終了後、飯香岡社寄進用作成

③ 写真チーム

2) 八幡史学館

① 第3回(9月20日) =

(1) 次回バス研修のみどころ(30分)

(2) 八幡ののり養殖(ゲスト講師・佐倉さん、90分)

② 第4回(11月9日)バス研修=千葉城博物館、中央博物館、重俊院、生実城、生実陣屋跡

③ +1 (11月15日)原則現地集合=大覚山古墳、千葉市埋蔵文化財センター、小弓城跡

13時00分千葉市埋蔵文化財センター前集合(12時30分八幡公民館出発)3時間

雨天の時=八幡公民館視聴覚室で「お江」(辰巳公民館と同じもの)

車のお願い

3) 郷土史情報

① 飯香岡八幡宮秋期大祭 9月18日(日)みこし渡御 12月 9:00~

② 八幡小学校「八幡小学校沿革誌」碑 明治11年、教員直板左一郎

創立経緯を記す。原本はないか

② 新刊=小弓公方足利義明(千野原靖方、りん書房出版)2010年、1200円+外税  
小弓城に移座する以前に義明がしかるべき由緒の地にいったん座所を構えたとすれば、その地は上総の八幡御所がまず想起されよう。(中略)残念ながらも確認を得られず推測の域に留まる

「里見九代記」=社家様には下総の関宿ならびに生実八幡に御殿を有せられて御住居なり

③ 八幡公民館だより 第2号から「八幡公民館エリアものがたり」を連載、第1話は「やわたのあけぼの」15回、5年構想

5) 「八幡名所100選」まとめ

① みなおし、細部調整 6ヶ所、1ヶ所、1ヶ所、1ヶ所、1ヶ所

② 10月ころ完成予定 来月

③ その後の計画

6) その他について

以上

② 師道先訓に学ぶ碑=平成 年(200 )

サイズ

\* 表面碑文=師道先訓に学ぶ

\* 裏面=八幡小学校沿革誌

我が政府各地方小学設立の令あるや木更津県庁もまた速やかに管内に令して朝旨を尊奉せしむ、而(しこう)して山口海隅の民頑(こ)俗をなし朝旨の厚き学校の何

物たるを解せず往々(こ)格して行われず、わが八幡校区内またその尤(もつとも)なるものなり、明治六年

県(こ)を千葉に移すや県官もまた各地設学の容易ならざるをもつて学区取締若

干員を置き専ら地方学事を督せしむ、第二十二番中学は鴫矢信一郎東條喜

惣次をもつてこれに任ず、これより日夜(こ)々区内を巡行し至るところ村吏豪農を会して

上旨を懇諭し興学を勧め、しかるにわが八幡駅人(こ)較く海浜の一小都

会にして尚学を興す拳なし、何ぞ僻邑に在んやと乃て正副戸長及び富有

輩(やから)を会してこれを議す竟(ついに)要領を得るなし是(これ)において鴫矢以下親(したしく)自らから各家

に歴説し及覆(たが)数回にして議(こ)に集れり即ち第百九十三番、九十四番九十五番

小学区を連合して八幡小学校とし、駅内円頓寺を賃て仮校とし、本県士族照

島太郎八俵五円、本駅の人永野算平八俵三円、百瀬巳之吉八俵二円を授請して講書、算

術、習字教師となし、副戸長丸長次郎、権に校務を撰す。毎月金十八円を課

して諸費定額とす、その課法は学区三連区内貧富大小となくすべてこれを戸数に

賦す、こえて七年三月二十四日をもってこれを庁に請うて(こ)許の指令を得たり、教師三名

もまた試験及び授業法伝習を修へたり。

明治七年四月二十六日をもって開校す、その器械、書籍は村吏及び富民に募り

粗具を得たり、これより先き、小学の未だ開かざるに当たり駅内村費(そんこう)、私塾願(すこぶ)る

多し、この際皆廢業に属す、その旧生徒大約男女百五十名あり故に設立詳

細書中即ち認めて本校生徒の人員となす、然るに開校の際出校する僅々十名

にすぎず、またもつて村民旧貫に慣れて小学を信せざるを徴するに足れり、既に二、三月

を経て生徒稍進み百余名に至る、教場容る能わず校を同駅称念寺に転ず。

中略

右第二十二番中学区内八百九十四番、百九十五番、連区第百九十三番

八幡小学校沿革誌前書きの通り候なり。

明治十一年七月

中学二等唯訓導

教員 直板左一郎

事務掛 鈴木太一郎

同 川上親三郎



佐倉、高沢、多珂、石井、  
馬井、朝倉、山岸

八幡史学館名所百選チーム  
第35回打ち合わせ資料

平成23-8-2

1) 今後のスケジュール

- ①(1)8月10日(火曜日) 6時30分 飯香岡八幡宮拓本  
9時00分 八幡宮方丈池回り掃除
- (2)9月6日(火曜日) 13時30分 第36回打ち合わせ
- (3)9月20日(火曜日) 9時30分 八幡史学館第3回
- (4)9月27日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除
- (5)10月4日(火曜日) 13時30分 第37回打ち合わせ
- (6)10月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本
- (7)11月1日(火曜日) 13時30分 第38回打ち合わせ
- (8)11月9日(水曜日) 八幡史学館第4回バス研修
- (9)11月15日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、拓本

- ② 拓本チーム
- ③ 写真チーム

2) 八幡史学館

① 第3回(9月20日) =

(1)次回バス研修のみどころ(30分)

(2)八幡ののり養殖(ゲスト講師・佐倉さん、90分) → 不足説明

② 第4回(11月9日)バス研修=千葉城博物館、中央博物館、重俊院、生実城、生実陣屋跡

③ +1(11月15日)原則現地集合=大覚山古墳、千葉市埋蔵文化財センター、小弓城跡

3) 郷土史情報

① 飯香岡八幡宮秋期大祭ことしの予定

9/18 旅行

② 駅ギャラリー 民具と道具

4) 「八幡の石造物研究」

① 進行状況 確認

② 年内刊行 目標

5) 「八幡名所100選」まとめ 別紙 - 発行

① みなおし、細部調整

② 10月ころ完成予定

③ その後の計画

6) その他について

一段目(左から)

- 1 戦前、飯香岡八幡宮前の空き地で草競輪が行われた
- 2 戦前の飯香岡八幡宮の夫婦公孫樹の景観
- 3 五太力船の湊として栄えた浜本町の横濱。左の建物は「魚惣」
- 4 戦前の神輿渡御の様子
- 5 戦前の旧小学校校庭での女子生徒によるなぎなた訓練
- 6 八幡警察署道場前で剣道少年部員が記念写真を撮ったところ
- 7 海岸で憩う人ら、漁から戻ってきた船。かつての海を思い出す
- 8 飯香岡八幡宮前の海岸にあつた海の家付近の砂浜で遊ぶ生徒たち
- 9 台簀の前で海苔の簀を整理しているところ。資を入れる箱は馬
- 10 海の家の前に駐車している潮干狩用バス。多い時は50台も来た
- 11 埋め立て工事進行中の様子
- 12 埋め立ても終わり、送電線や電柱の線などが引かれ始めた

二段目(左から)

- 13 八幡小学校校庭での朝礼式。小学校は今の八幡宿駅前一带
- 14 八幡南町辺りの宿通り。子供たちが回しを締めて集まっている
- 15 八幡消防組第四部出初め式記念撮影
- 16 昭和五年度袖ヶ浦保育園第三回卒園児記念撮影
- 17 戦時下の飯香岡八幡宮は、出兵兵士の壮行会など日本の軍国化も  
も見守った
- 18 濡に繋がれた海苔採り舟
- 19 海岸には、潮干狩りなどの客を受け入れる海の家が数軒あった
- 20 潮干狩りを終えて、岸に戻ってくる大勢の生徒たち
- 21 潮干狩りに来た生徒に浅蜆を売る地元のおばさんたち
- 22 埋め立ての際の大きな潮溜まりにシャチが群れをなして入ってきた(君塚)
- 23 浚渫船と泥船に乗って遊ぶ少年
- 24 現在の八幡保育所から海岸の方を見た風景。海の家が垣間見える



八幡史学館名所百選チーム  
第34回打ち合わせ資料

1) 今後のスケジュール

- ①(1)7月12日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除、(拓本) 10:00
- (2)7月19日(火曜日) 9時30分 八幡史学館第2回
- (3)8月2日(火曜日) 13時30分 第35回打ち合わせ
- (4)8月29日(火曜日) 9時00分 八幡宮方丈池回り掃除 (拓本) 6:30
- (5)9月6日(火曜日) 13時30分 第36回打ち合わせ
- (6)9月20日(火曜日) 9時30分 八幡史学館第3回

- ② 拓本チーム
- ③ 写真チーム

2) ことしの八幡史学館

- ① 第2回(7月19日) = 幕府直轄領と旗本知行所 —— 名主文書にみる八幡の歴史 ;  
\* 村と領主、相給支配、助郷親村。江戸時代の農村経営とその展開を八幡地区の名主文書に見る  
五所ジョイフル本田今井家金杉浜新田名主文書、慶応大学五所村名主文書  
八幡寺嶋家八幡村名主文書、君塚齊藤家君塚村名主文書
- ② 第3回(9月20日) = (1)次回バス研修のみどころ(30分)  
(2)八幡ののり養殖(ゲスト講師・佐倉さん、90分)
- ③ 第4回(11月9日) バス研修 = 千葉城博物館、中央博物館、重俊院、生実城、生実陣屋跡
- ④ +1(11月中旬) 原則現地集合 = 大覚山古墳、千葉市埋蔵文化財センター、小弓城跡
- ⑤ 辰巳公民館主催事業「江戸・東京歴史散歩」7月18日申し込み受け付け  
テーマ = お江と江戸と大名庭園  
8月29日 教室講座  
9月15日 バス研修 = 芝増上寺、東京タワー、芝離宮庭園、竹芝栈橋

3) 郷土史情報

- ① 「慶応大学古文書目録」関係分発行と閲覧システムの変更  
(1)3月「農村編、南関東」を発行、同時にネットで検索できるようになった  
(2)故・野村兼太郎教授の収集文書  
(3)八幡宿「中島徳太郎家文書」 = 旗本250石佐野藤三郎領名主  
寛文7年-明治28年184点、当時織田自転車店所在か?  
主要文書目録を八幡史学館②資料に掲載。貴重資料多数
- (4)「飯香岡八幡宮文書」天明元年-明治16年51点
- (5)「五所村文書」 = 旗本5050石白須甲斐守領名主文書、旧所有者不詳  
文政3年-明治39年29点

4) 「八幡の石造物研究」

- ① 進行状況

- ② 年内刊行をめざす

5) 「八幡名所100選」まとめ(別紙参照)

- ① 文書関係はほぼ完了、全体を通じて微調整が必要

- ② 10月ころ完成予定

- ③ その後の計画

6) その他について



石井、野中、内藤、青木  
羽合、山岸

平成23-5-3

八幡史学館名所百選チーム  
第33回打ち合わせ資料

1) 今後のスケジュール

- ①(1)5月18日(水曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除 13.00 拓本  
17日が「城の歩く会」行事重複のため18日に変更したい
- (2)5月18日(水曜日) 8時30分 八幡史学館申し込み
- (3)6月7日(火曜日) 9時30分 八幡史学館第1回  
重複のため定例会は中止
- (4)6月21日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除 10.00 拓本
- (5)7月5日(火曜日) 13時30分 第34回打ち合わせ
- (6)7月19日(火曜日) 9時30分 八幡史学館第2回 7月12日 清掃、拓本  
重複のため清掃は中止または12日に変更したい
- ② 拓本チーム 板倉さんの逝去や地震で中断していたが再開したい  
5月18日 9時30分 10.00 場所? 称念寺、円頓寺、妙長寺
- ③ 写真チーム 北島、山岸 順次撮影中

2) ことしの八幡史学館

- ① 5月18日受け付け。抽選になるかもしれない
- ② 第1回の講座内容(資料)
- ③ パス研修 11月9日(水曜日=変更注意)  
\*千葉市遺跡センター、小弓城、大覚寺古墳  
\*生実院、生実陣屋、北小弓城  
\*千葉城博物館、千葉城

3) 「八幡の石造物研究」進行状況

	◎=完成	○=ほぼ	△=少し	×=未着手
①	本文作成	拓本見直し	写真	総合完成度(版下)
1-16ページ	△		△	△
16-108	◎	◎→△	○	○
109-128	◎	◎→×	△	○
129-156	◎	◎→◎	○	○
157-173	◎	○→×	○	○
174-196	○	○→×	△	△
7ページ	◎	◎→×	○	○
8	×		×	×
9	◎		○	○
5	◎		○	○
4	◎		○	○
	×		×	×
	×		×	×
	×		×	×
	×		×	×

4) 八幡公民館の指定管理者制度移行

- ① 東日本大地震混乱のなか予定通り4月1日から実施
- ② 4月は夜間7時まで、5月から通常開館

5) 郷土史情報

- ① 飯香岡八幡宮人事(3月から)  
ねぎ新任 平沢牧人さん夫妻常勤 自宅=八幡石塚2-14-1ベルファミリーユ  
神主の市川一男さんは祭礼、総代会などに出勤  
\*平沢さんはやさしく歴史に詳しい。郷土史研究上理想的な方が就任された
- (1)社殿内部撮影、「写真帳」整備
- (2)弊殿に南氏寄進、足利義明銘経文が保管されていた

(3)所蔵資料を調べて貰っている。由緒本記の撮影写真を発見とのこと、複写を希望

- ② 飯香岡文書について  
\*「松平家忠日記」調査=宝蔵庫の家康判物写し解説は、家忠日記に天正19年10月家康自筆書押領とするが、臨川書店活字本に記載はなかった  
\*伝足利義満寄進1の宮みこしの義満銘は市川教生神主の後筆(滝本先生の話)  
神社の伝承は作られていることが多い
- ③ 佐倉さん「シティライフ」、「地連協会報」
- ④ いちはらオープンガーデン2011(市景観室=5月21日-29日公開)  
伊藤邸(能満=庭内立ち入り可)、鈴木邸(若宮6丁目=一部立ち入り可)
- ⑤ 千葉市南部の郷土マップ(今井先生)

6) 「八幡名所100選」まとめ ②

飯香岡八幡宮境内(11選) 前回最終確認終了  
八幡宿北部地区(19選) "  
八幡宿南部地区(11選)  
五所地区(12選) 以上53選  
市原地区(17選)

- 第1番=光善寺と応永型石とうろう\*  
7世紀末ころの古代寺院・光善寺廃寺跡で布目などの古代瓦が出土している。現在の光善寺は室町時代の中興とみられる。薬師堂に安置されている本尊「薬師三尊像」は15世紀、厨子は室町時代の禅宗建築技法で石とうろうも応永期の古式を伝えている。
- 第2番=麦飯石と柳橋神事(光善寺)  
飯香岡社創建神話で八幡神が現れたとする瑞石。麦飯に柳の箸を添えて差し上げた故事から柳橋が飯香岡社祭礼で神前に奉尊されるようになった。600年の伝統を引き継ぎ、現在も司家で調整された柳橋が光善寺から出立する。
- 第3番=条里制遺跡と柳橋巡行の道  
「条里制」は土地を碁盤目に区画した古代の地割り制度をいう。市原台地、菊間台地から海岸部にかけての水田一帯の地下に条里制の古代水田が発掘され、縄文時代から中近世におよぶ広い年代の農耕機具や陶磁器などが出土した。遺跡を縦断する大道は古代官道で、柳橋の巡行は一直線に五所をめざす。
- 第4番=市原城跡\*  
戦国期の丘城。房総往還を見下ろす舌状台地先端に立地、上総、下総国境、境い目の城で最後は後北条、小弓千葉原氏支城、天正18年の小田原攻略で廃城となったとみられる。堀切、空堀、土塁、櫓台、井戸などがある。
- 第5番=能満城跡\*  
市原城と並立、互いに守りを補完した兄弟城か。主郭部は中央東域で、土塁、空堀、虎口などが旧態を残している。台地周辺から鎌倉時代や室町時代とみられる五輪塔多数が出土し、往昔から発展した地域であることを窺わせている。
- 第6番=白船城跡  
戦国後期、市原城の最前線外郭または砦、正面を切り岸、周囲を低湿地水田で囲む。細長い尾根部分を4つの郭に堀切りした連郭式縄張り、堀切、土橋、土塁、腰曲輪などの遺構が確認できる。
- 第7番=能満堰と灌漑水路  
市原中学校と遺跡センター間の窪地が能満堰跡で、ここを源川とした能満川は市原の高台を迂回して市原や五所、八幡の一部などの水田を潤した。山木入り口の「分水樋跡」が面影を伝える。
- 第8番=阿須波神社と万葉碑\*  
阿須波は旅立ちの神で、防人の歌「庭中の阿須波の神に小柴さし」の「万葉碑」を刻む。「更級日記」作者、菅原孝標の娘も当社に参詣して、京をめざしたと考えられている。
- 第9番=市原八幡宮  
創建は不詳。飯香岡社の旧地ともいわれ、「柳橋」の巡行で立ち寄る。
- 第10番=釈蔵院と石造物(市指定文化財=釈蔵院文書)

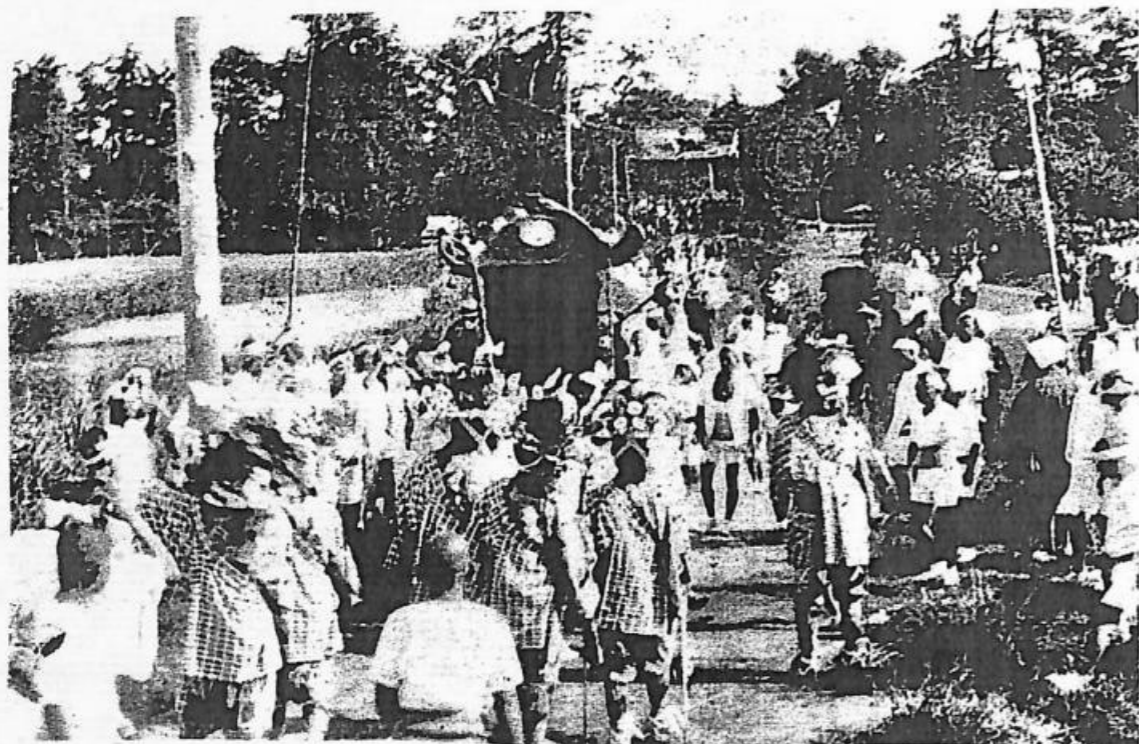
300ページ



# やわた名所百選

八幡史学館名所100選チーム \* パブリシティニュース

第2号=平成23年4月



やわたむかし写真館=昭和はじめころの飯香岡八幡宮秋期大祭



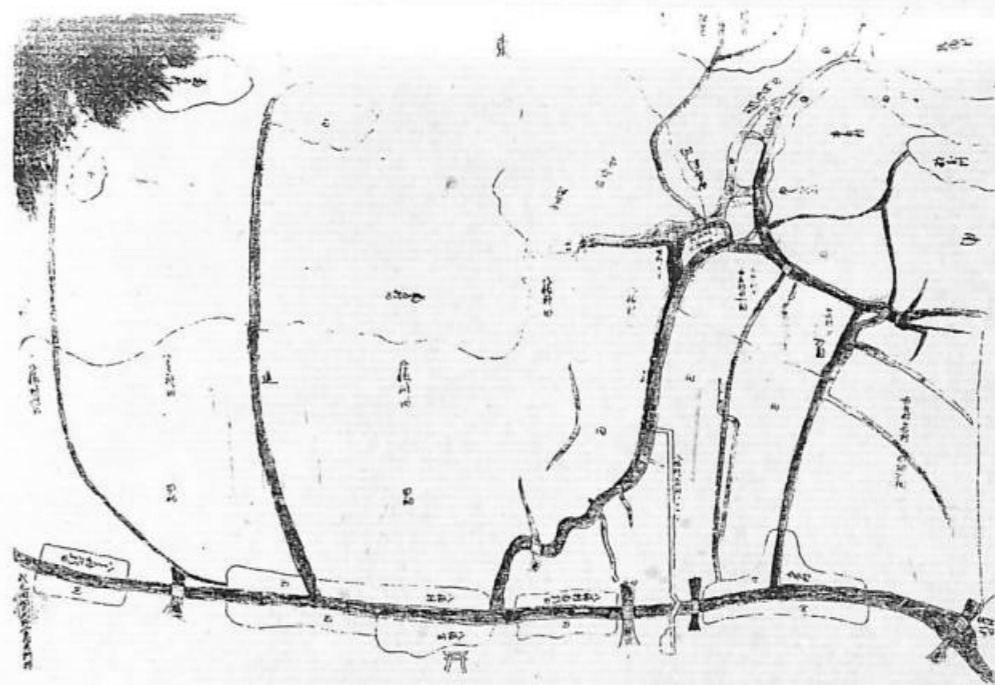
現在の様子

の前に供える「楯柳神事」で始まる。「宮出し」は「海中渡御」に移り、みこしは1kmほど先の2の鳥居を回る。写真はその後、カルサンが前後にしていたが、八幡の歴史文化を伝える貴重な1枚といえる。  
(提供・市川本店)

写真はいまの青少年会館の地。正面に八幡様の森と社殿、参道1の鳥居がみえる。手前、カメラマンの後ろは岸壁で満潮時は海水が広がった。旧暦8月15日の中秋名月の日に行われた八幡宮の祭りは、市原台地で作られた柳楯を1の宮みこし

写真に歴史あり —— 「やわたむかし写真館」は八幡公民館1階ロビーで展示しています

古絵図にみる八幡の歴史 ②寛文9年「水争い裁許状絵図」



飯香岡八幡宮文書136

八幡地区の市原村周辺を描いた江戸中期の絵図。能満水留め堰の水争い訴訟、幕府評定所裁許状の写しで、表書きは原告の市原村と五所村が勘定奉行に提出した訴状と被告である八幡村の申し分、検使役人の調査結果を記し、最後に裁許がある。「後鑑のため絵図いま裏書き、双方へ出し置くのあいだ、堅く相守るべきものなり」老中、南北江戸町奉行、勘定奉行が連印している。  
裏書き絵図がこの一枚。問題となったゆうがい山(市原台地の先端)下の分水路を中心に八幡や五所、山木などの周辺村々を取り込んでいる。村境は入会が複雑に交差し、用水をめくり村々が争った様子が絵図上からも伺える。出入りの地・能満川(新田川)はいまも悠々と台地下を流れ、旧トイの地で激しい水音を発しながら地下暗渠へと分水している。

あ・と・が・き

4月から市内8つの公民館の運営が指定管理者に移行した。より身近な地域文化の殿堂として発展できるのではないか。新制公民館への期待は大きい。  
本会は、①八幡地区の郷土史研究、②八幡名所百選の選定、③八幡公民館主催事業・八幡史学館の運営協力、④その他郷土の歴史文化の発展に資することの4点を事業方針としている。新制八幡公民館を本拠に先人たちの残した歴史文化を守り、育んでいきたい。  
100選チーム=青木くに、朝倉久江、石井 勇、北島勝代、小出惣治、佐倉東雄、高沢 毅、多村勝彦、内藤敏子、山岸弘明、鷺津寛子(あいうえお順)

八幡史学館名所100選チーム=代表・市原市八幡北町2-12-12-501 LL  
協力=八幡公民館、飯香岡八幡宮、市原の古文書研究会、八幡の石造物研究会





# 八幡公民館などが 指定管理者制度に移行

## 市内8公民館で4月から

4月から八幡公民館を含む市内の8公民館で指定管理者制度が導入され、八幡公民館の管理運営が「八幡公民館運営委員会（会長・安藤岩男氏）」に引き継がれた。

「指定管理者制度」は公民館の持つ社会教育施設としての機能を保ちながら、自主的な学習や地域づくり、生涯学習の拠点向上のため、施設の管理と運営を地域住民を中心に組織された指定管理者に移管するという、いわば「住民参加型」スタイル。国が提唱し、各地で市区民会館、文化体育施設などを中心に移行が進んでいる。

市原市ではすでにコミュニティセンターなどを指定管理者制度に移行済みであり、平成20年に3年後の23年4月市内全公民館への導入を決定していた。昨22年9月公民館の先陣を切って南総公民館が指定管理者制度としてスタート、今般残る八幡、五井、姉崎、辰巳、有秋、国分寺、市津、加茂の8公民館が新体制に移行された。

八幡公民館の実務を引き継いだ八幡公民館運営委員会は地元町会や公民館のサークル登録団体連協などで構成、一般公募で採用された新スタッフにより4月1日から業務を開始した。

今後、市内の9公民館は地域住民の自主的管理運営のもと、生涯学習社会において、時代の変化やニーズを的確に捉えた主催事業、地域づくりサポートなど、一層の積極的展開が期待される。

私たち利用者もよりよい「地域公民館」をめざし、協力しましょう。八幡公民館の新体制移行を機に、創立63周年の足跡を辿った。

## 八幡公民館63年の歩み

八幡公民館の歴史は終戦直後の昭和23年に遡る。人々は生活が苦しく気持ちもすさまじかった。町民の生活安定と町起こしを、公民館の提唱者は当時八幡町々長で初代館長となった菅野儀作氏であった。

町では前年昭和22年、戦後の教育改革で誕生した八幡中学校を現在八幡公民館の地に自分たちの手で完成させていた。町には建築ノウハウと町作りにつけた町民たちの情熱があった。幸いにも中学校建設で使った旧習志野騎兵連隊既舎の残材がある。工事は職工組合と町民がボランティアで、電気設備や緩帳、備品は町の人たちが寄付した。

3か月後の昭和23年6月26日竣工、2階建て木造延べ237坪、当時斬新デザイン洋風木造建築で収容人員は2千

平成22年度の「八幡史学館」は、4回にわたって八幡地区の郷土史を学習、11月9日最終回は「柳橋神事の道を歩く」、秋晴れの1日伝統神事の一端に触れた。当日の様相を参加者の1人多村勝彦さんのレポートで紹介しよう。

永遠に受け継がれてほしい  
「柳橋神事の道」を歩く

多村勝彦

午前中ビデオでの予備知識を蓄え、講師の案内で現地へ。路線バスでおおよそ5分、市原坂下バス停へ移動、降り立つと左右に白船城と市原城。いきなり戦国時代が歓迎してくれた。坂下の小さな祠を覗くと市原でも2番目に古いという庚申

塔。しかし「三猿」の顔が無残にも削りとられている。貴重な文化財への心ないいたずらに心が痛む。

坂道を進んで小さな石段を上がると光善寺薬師堂がある。県内最古といわれる応永型石とうろうや飯香岡社の創建神話ともかかわる「麦飯石」がさほど広くない境内に佇む。国分寺や尼寺より古い

「光善寺廃寺」跡との説明。町民会館を兼ねる本堂で地元山越国臣先生から伺う。光善寺は「国寺」で国府に関係したこと、飯香岡社と市原とのかかわりなど興味深い。普段非公開の薬師堂が開けられ室町時代のお厨子や仏像を拝観した。

ついで柳橋神事の道をすすむ。市原八幡宮から台地先端の阿須波神社へ。「万葉歌碑」では九州へと出兵する防人に思いをはせる。阿須波社は旅立ちの神様という。「更級日記」の著者、菅原孝標の



阿須波神社



柳橋の巡行

むすめもこの社に参拝して京を目指したことだろう。高台から五所、八幡から京葉工業地帯を一望。秋風が心地よい。ここで一応の解散、元氣組はたんぼの真ん中を一直線に走る「条里制遺跡、古代官道」を五所小学↓

## 訃報\*板倉 満さん

当会々員で拓本技術の第一人者であった、郷土史研究家の板倉 満さんが去年12月29日、急性心不全のため逝去されました。行年81才でした。

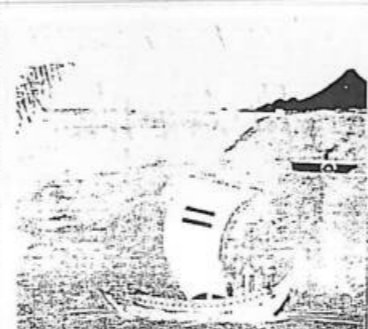
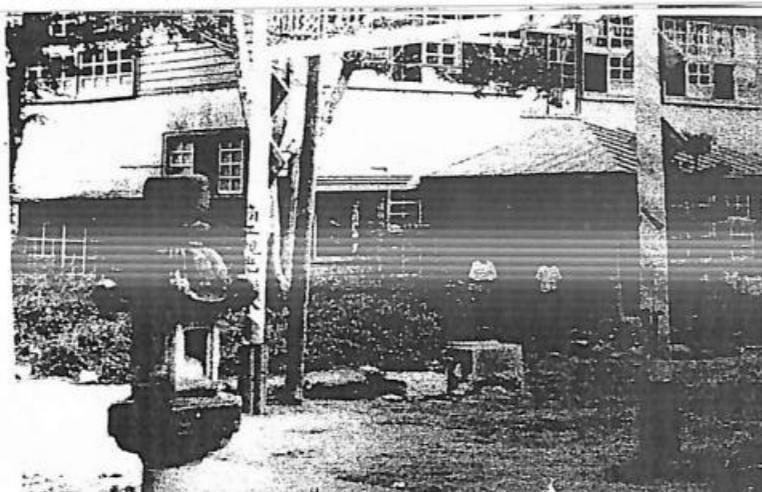
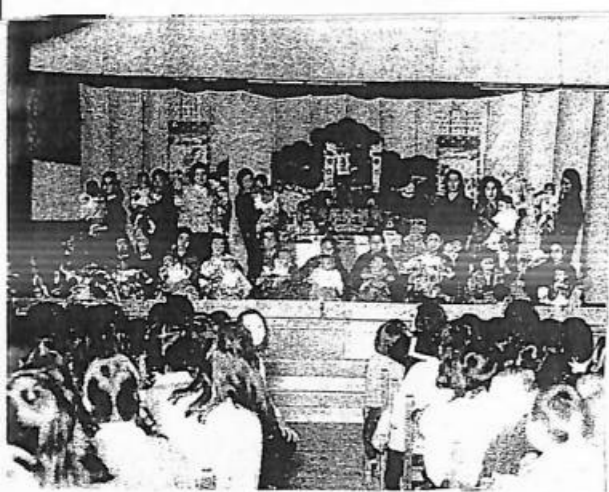
当会石造物グループのリーダー講師として主に八幡地区の石造物調査の拓本技術、解説などをご指導いただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、本会では板倉さんの集大成ともいえる「八幡の石造物研究」を編纂中で、年内刊行の予定です。



拓本を取る板倉さん

校まで。飯香岡社大祭の時、市原台地で調整された柳橋がこの道を通って五所に引き継がれ、当日朝八幡宮の神前に奉尊される。6百年引き継がれた巡行の道との説明に感動、ぜひ永遠に受け継がれてほしいものだ。市原、五所、八幡の歴史文化にふれた貴重な体験となった。

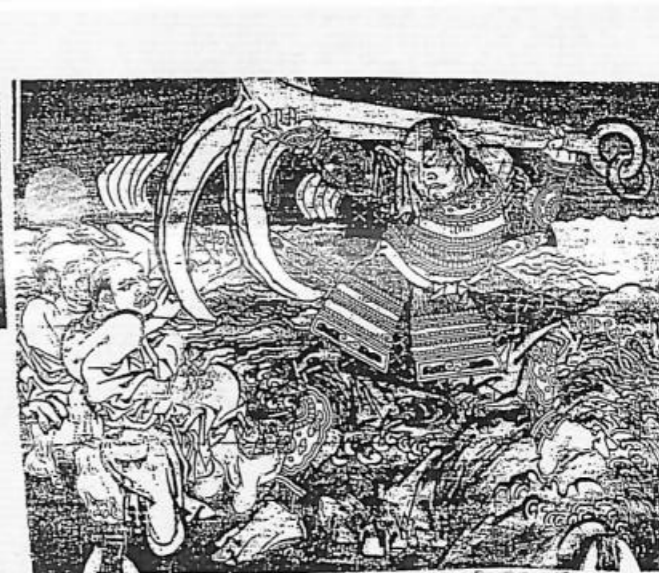




五大力船と蒸気船（部分）



常磐御前親子都落ち

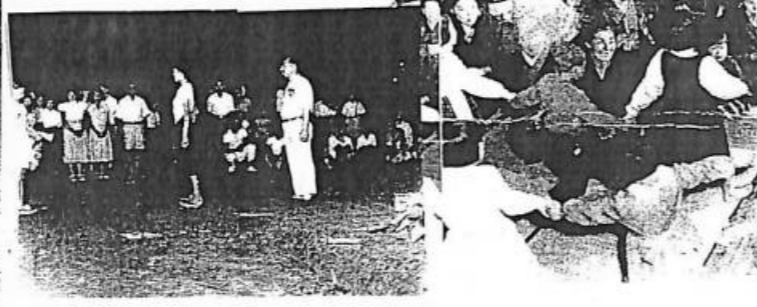


源為朝の鬼が島（3代堤等琳）

創館当時の八幡公民館 \*町の行事や文化体育活動の拠点となった



昭26.8.15 クラウドにて



### 飯香岡八幡宮の大絵馬

八幡公民館1階ロビー  
「やわたむかし写真館」で企画展示中

「絵馬」は祈願やお礼のため社寺に奉納する絵額のこと、その起源は古代、神の乗り物としての神馬献上にはじまるという。のち生馬が板絵馬に代わり、室町時代には専門絵師が誕生して、しだいに進歩、美術品化した。最盛期は江戸後期の文化、文政ころ、小絵馬が流行し、安産や病氣平癒などの画題が奉納された。現在でも入学試験シーズンに天神社などへの「合格祈願」小絵馬奉納がさかんで、春の風物詩として定着している。

「源為朝鬼が島」のあらあらしい筆力が見えがたがある。堤派は江戸深川を本拠に「絵馬やのぼり、ちようちん屋など、みなこの門人となる」（類考）とされる庶民浮世絵一派で知られる。また八幡宮や五大力船を描いた絵馬は郷土資料としても貴重といえる。

- 飯香岡八幡宮所蔵大絵馬
- 拜殿内部常設展示  
①源為朝鬼が島（文化4年=堤派3代等琳）
- 拜殿外壁常設展示  
①八幡宮文字絵馬（大正8年）
- 宝蔵庫常設展示  
①上総国八幡村五大力船（寛政6年）  
②曾我物語、朝比奈草すり引き（享和2年=堤等船）  
③牛若丸と弁慶（文化元年=堤秋泉）  
④近江八景、瀬田の唐橋（文政13年=堤栄川）  
⑤わし（天保2年=堤等栄）  
⑥常磐御前親子都落ち（安政4年=探秀守雄）
- 宝蔵庫2階倉庫収蔵  
Aグループ=八幡海岸や海を描いたもの  
①上総名所八幡神社（明治19年）  
②八幡海岸五大力船と蒸気船（明治24年）  
③〃（明治中期）  
④難風の中を突き進む五大力船（明治36年）  
Bグループ=参詣などを描いたもの  
①瀬田の唐橋（天保2年=堤栄川）  
②伊勢神宮と金比羅参詣（江戸後期カ）  
③紀州藤代峠（明治24年）  
④江ノ島参詣（明治中期）  
⑤江戸時代の江ノ島参詣（明治中期）  
⑥琵琶湖カ（明治）  
⑦隅田川と今戸（明治）  
Cグループ=武者や物語を描いたもの  
①源頼朝の富士牧刈り（文化11年）  
②三国志人物（文政2年）  
③すさのおの尊の大蛇退治（明治13年）  
④藤原秀郷のむかて退治（明治15年=堤等国）  
⑤神功皇后と竹内宿禰の凱旋（明治16年）  
⑥源義家と阿部貞任（明治17年）  
⑦佐藤忠信と覚範（不詳=昇亭北寿）  
Dグループ=信仰を描いたもの  
①八幡神礼拝（安政2年=堤等国）  
②女衆御幣礼拝（明治22年）  
③母子御幣礼拝（明治17年）  
④富士カ（大正4年）  
Eグループ=その他  
①元帥と捧げ筒（明治36年）  
②小絵馬合わせ額（7点を合額）  
（グループ年代順、作者名の無記は省略した）

専用公民館としては県下初で最大、歌舞伎界の重鎮中村吉右衛門を迎えてこけらおとし、新生「八幡町立八幡公民館」が華々しくスタートを切った。

その後の活動も活発だった。文字どおり町のシンボルとして、戦後の新生活運動、民主化運動の拠点となった。館の運営は総務、教養、社会、産業、集会、保健、体育の7部門で構成され、青年連盟、婦人会、ボイスカウト、文化体育の各種サークルが相次いで誕生した。また、県の公民館を連合会にまとめ、その会長館としてリーダーシップを發揮したりもした。昭和24年11月、八幡公民館のこうした活動が評価され、全国第1回の文部大臣表彰の栄誉に浴した。

昭和30年代の八幡海岸埋め立てと工場誘致は八幡を海の町から地方工業都市へと大きく変貌させた。五井町など近隣町村と合併、市制が布かれ、名前も「市原市立八幡公民館」と改まった。八幡中学校は生徒数の増加と設備老朽化のため駅反対側に移転、八幡公民館も駅周辺の道路整備計画に沿って親しまれた創設の地を譲って、昭和47年現在地に移転して今日に至っている。平成20年創立60周年を迎え、今般、その管理運営を指定管理者に移管することになった。八幡公民館の歴史はまさにわが国の「生涯学習そのものの歩み」といえる。





八幡公民館を階段で2階に上がった突き当たりの壁に、低いながら板に筆で書かれた多くの献句がある。取り壊した旧の公民館に掲げられていたのであるが、いきさつは次のようなことである。

現在、八幡幼稚園になっている所は、飯香岡八幡宮の境内で、赤松を中心に緑豊かな所であった。そこに戦後、新制中学校を建てた。(昭和45年、現在地へ移る) 当然、神木を伐採した。菅野儀作新町長の施策である。したがって献句は菅野町長が中心となって記念の吟行会か何かを催したのである。なお、旧公民館は飯香岡通りを敷



初代八幡中学校の建設

初代八幡中学校



現在は八幡幼稚園

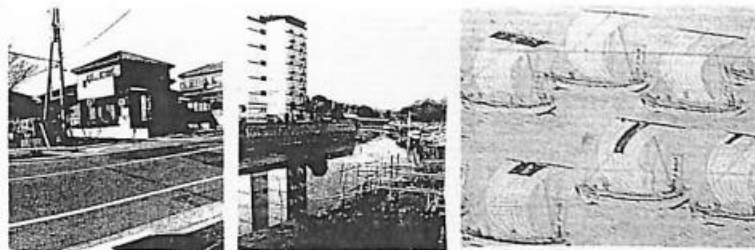
佐倉東雄

神木も氏子のために通じらん  
老い松の影を刻めり寒月光  
霜白し神木に斧入るる音  
飯香岡の冬富士遠く照る神木  
神木の注連の匂いも新しく  
神木の濡れ夕照りて不二晴るる  
神木を霜くだきつつ子ら運ぶ  
空高く神木の古命子に伝え  
初雪や木霊鎮まる宮静か  
もも年の年輪のぞかせ初雪積む  
淨材の積み上げられて初明り  
初詣で淨材の歳子と数え  
神木も打微小にて倒れゆく  
神木に斧ふり上げて拝むかな  
神木も淨材となり霜に積まれ  
神木の供養ころに年迎う  
注連の飾したるまま斧を打つ  
氏神の恵みゆたかに初木霊  
神木の句心こめて初詣で  
年立てり老幹の肌砥をふせる  
(お断り||一部現代文で表記しました)

五井や潤井戸、千葉等の人の句(省略)も交じることがこれで分かる。この時期は、最後に献句をしている濱田白舟が俳句の普及に熱心に努めてくれていた。今回の献句の纏め役は白舟であったであろう。

白舟は八幡役場に勤め八幡南町に住んでいた。俳人浜田石連子の実弟にあたり、五井の生まれである。

## 最大の海運基地だった八幡港



浜本みお跡

八幡港跡

五大力船

## 八幡地区(旧市原町)の名所を選ぼう

- ①むかしの八幡港跡(飯香岡橋北側)
  - ②南町みお跡(八幡幼稚園前)
  - ③浜本町みお跡(ベイシア南側住宅地)
  - ④八幡港みお筋(八幡運河)
  - ⑤倉町の町並み(八幡浜本町地区)
- 江戸時代の八幡は近郷や市原の中奥部から運ばれた「年貢米の津出し港」として発展した。八幡港から米や薪炭などを積み込んだ「五大力船」が江戸に向けて出帆、帰り船で衣料や酒、砂糖などの日用品雑貨を持ち帰った。現在の八幡保育園から看護専門学校一帯にあった南町みおは、慶長19年当時の八幡領主・本多正信らが年貢米津出しのため築港したもので浜本町は未詳。江戸中後期と見られる。八幡は4kmにおよぶ遠浅な干潟に囲まれ海の幸に恵まれたが、港としては不

- ①やわたむかし写真館  
八幡公民館ゆかりの山口達画伯展(八幡公民館1階ロビー、継続展示中)
  - ②八幡公民館の60年を見つづけた私たちの郷土やわた展(平成20年||駅ギヤラ)
  - ③八幡公民館創立60周年記念展
  - ④山口達画伯作品展(平成20年||称念寺)
  - ⑤「八幡称念寺の石造物と文化財」刊行引き続き現在は
- ①やわたむかし写真館リニューアル  
(平成23年3月) ←

「やわた名所百選」は八幡公民館のホームグラウンドである八幡地区(旧市原町)で名所100を選定し、その歴史文化を広げようというものです。

八幡公民館のある旧市原町地区は昭和30年八幡町と菊間村、翌31年市原町の大部分との合併で誕生した昔の行政名で、昭和38年に五井町と合併して市原市となりました。

市原の地名起源は「いちいの木」「広原」など諸説、往昔の市原郷、市原郡、

現在の市原市もこの地名に由来し、「上総国府」所在地とする考えが有力です。市原には古代官道が縦断、稲荷台1号墳からは「王賜銘鉄剣」が出土しました。菊間も古代「菊麻国造(くくまのくにのみやつこ)」の本拠で、菊間古墳群が現存、明治維新の時、沼津から転封した水野忠敬(ただのり)が5万石城下を築きました。また八幡の地名は飯香岡八幡宮に由来し、江戸時代、上総の玄関口、水陸交通の要衝として市原最大の盛り場

となりました。五大力船が浜本町(はもと)から江戸をめざし、参勤交代の「大名行列」が宿通りを進みました。

八幡(旧市原町)は歴史の町です。

「市原」発展の中心地として育まれた歴史文化を大切にしたい、百選の選定にはこんなメッセージを込めています。本会では現在、100選の選定作業を行っています。ガイドマップや散策モデルコース、案内表示などに結び付けたら、と考えています。

「やわたむかし写真館」をリニューアルオープン

100選チームではこれまで次のような活動を行ってきました。



思い出と夢いっぱいの家  
目の黒いうちはそのままにしたい

海の家では食堂も？

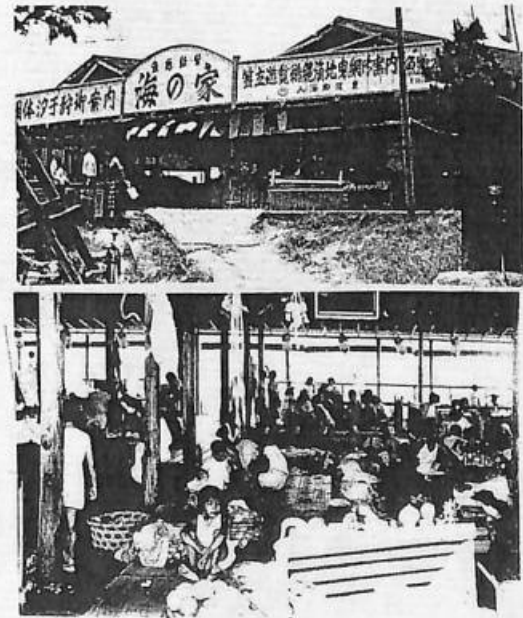
♡バスで東京からくる小学校や中学校の生徒は弁当持参で、一般の人たちは海の家を利用した。メニューは親子丼とかあさりめし、サンガメしが中心で、ラーメンやカレーはやらなかったね。はじめは注文があると魚惣の料理屋の方で作って運んでいたんだけど、大変だということで、そのうちに海の家に炭こんろを置いて調理するようになった。売り上げは天井からぶら下げたカゴがレジ変わり、まだ100円札もない時代だから10円札と1円札、あとはコインばかり、すぐ一杯になった。

——昭和32年に漁業権を放棄して海岸の埋め立てが始まるわけですが？

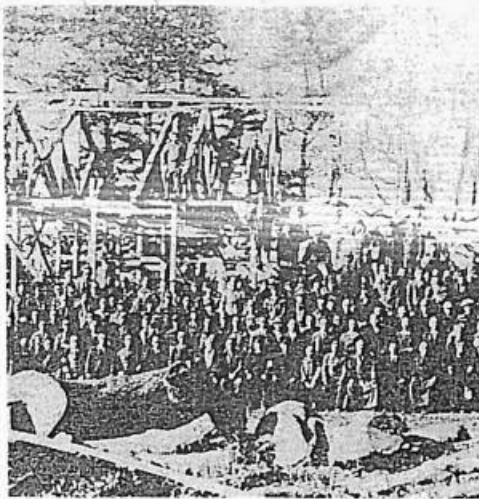
♡話が合った時、そりゃショックでしたね。八幡から海がなくなるなんて今まで考えたこともなかった。年寄りには絶対反対、海は先祖から受け継いだ大切な恵みだって。でも、当時の八幡はのりの養殖に頼って生活している。ところが海に油が流れ込んでだめになるなんてこともあって、若い人たちは将来の生活に不安を持っていったんですね。これも時代の流れかって、わずかばかりの保証金を貰って県の埋め立て計画を認めることになったんですよ。

——魚惣1世紀にわたるお店の歴史を閉じることになる

♡いまはむすこが築地で魚惣のノレンを守ってくれています。ここは私が生まれ育った大切な家、手を掛けるのも大変だし、思い出もいっぱいです。回りから「建て替えたら」って言われるんだけどどうもね。私の目の黒いうちはこのまま



魚惣海の家



許されよ

神木倒すも国のため

八幡と俳句文化②

八幡公民館の「神木供養献句」

♪くため取り壊され、現在地に鉄筋で立て替えられた。

神木供養献句  
昭和二十三年一月五日  
許されよ神木倒すも国のため 町長 菅野儀作  
うつ梁に神の木据えて斧始め 助役 岩田申弥  
神の森み国を建てる礎に 町会議員  
諸人よゆめせ神木時代かな “ 白鳥秋陽  
永島北峰

市原

八幡名所百選②



みお筋跡 倉町 南町みお跡

市原の中心地として育まれた歴史文化

便で、接岸のため3本のみお筋(運河)を堀り、船溜まりと荷揚げ場を築いた。江戸後期から明治、大正時代、浜本町の街区・倉町に船問屋が軒を連ねた。昔の八幡港は、八幡運河の飯香岡橋北側一帯で、いまも釣り用のレジヤーパートが係留、当時の湊風景をわずかに偲ばせている。明治30年代に堅みおを延ばして、白金通りの所に浜本みおを移築、引き続き港町として発達したが、大正以降は自動車の発達で次第に衰退、昭和30年代の海岸埋め立てですべてが消滅した。以来50年が経過、八幡運河やみお跡、船問屋が立ち並んだ倉町の町並みが華やかだった港町の面影を伝えている。



企画展① 指定管理制度移行記念八幡公民館63周年写真展  
企画展② 飯香岡八幡宮絵馬写真展  
② 「八幡の石造物」刊行(編集作業中)をすすめています。  
また、図書室には「八幡史学館」の関連資料コーナーを設けています。どうぞご利用ください。

ことしの「八幡史学館」などスケジュール

「八幡史学館」の受け付けは5月18日です。その他関係分日程は次のとおりです。お早めに申し込みください。

- ★「八幡史学館」4回シリーズ  
(一般成人40人)講師・山岸弘明)  
テーマⅡ八幡の郷土史を学ぶ
- ① 6月7日(火) 9時30分～11時30分 八幡のあけぼの
- ② 7月19日(火) 9時30分～11時30分 金杉浜名主文書にみる八幡の歴史

毎月第3火曜日に八幡宮「放生の池」周辺を清掃

当会では毎月第3火曜日の朝9時から飯香岡八幡宮「放生の池」周辺を清掃しています。放生の池は「名所百選」要地の1つで、戦前や戦後期は八幡の人たちのいこいの散策コースでした。きれいな池が復活できたらどんなにかすばらしいことでしょう。みなさんの参加をお待ちしています。





海が盛んだった戦前の魚惣とすだて



堀り」の井戸があった。大正3年に敷地いっぱい店を建てて現在の形になるのですが、その時井戸も建物の中に作り込んだので、いまでも2階の廊下に井戸溜りのための仕掛けが残っています。

——海に面した景勝の地ですね

♡昔は八幡港のみおが店のま裏まで入り込んでいた。開店のころは八幡が市原の中心地でね、鶴舞とか市原の内陸の方から米や薪とかが集まった。それを五大力船に積み込んで東京に運ぶのですが、この辺りは船乗りや運送関係の人たちで賑わったそうです。船は大正時代ころから自動車や鉄道の発達でだんだん寂れてくる。そのころはじめた潮干狩りやすだて、船遊びが東京のお客さんに評判となり、会社やお店の接待や従業員の慰安などに

利用されるようになったそうです。

——部屋からの景色は？

♡そりゃーすばらしかったですね。2階座敷から座りながら海が見えた。部屋ごとに「張出し」といって、簡単なベランダ風の展望台が作ってあって、お客さんは自由に出入りして海を眺めたり、夕涼みが楽しめた。目の前いっぱい海、大きく富士山のすそ野が広がり、左手から五井鼻が浦を作っている。遠く近く船が行き来して、いまの人たちにはとても想像出来ないでしょう。まるで絵のようなかような風景でした。

すだてでも楽しそうですね

♡すだては、コチやヒラメ、カレイ、スズキ、セイゴといったところでしょうか、たまに黒ダイなんかもあった。採れた魚は全部お客さんのもの。船の上で料理して宴会、飲んで食べて残りの魚はおみやげになった。人気料理はお造りとてんぷらだった。なにしろ新鮮。お客さんが「おいしい、おいしい」って喜んでくれましたね。

——海の家のかきつけは？

♡大正6年に大嵐がきて、このあたりも床上1mほど浸水、家の前の道に船が通

料理はお造りとてんぷらが人気

つたそうです。この時、八幡さま前の海岸で営業していた「八幡ホテル」が流され、廃業することになった。このころ海に大勢のお客さんと呼ぶことができなくなって考えていた2代目がその権利を譲ってもらって「納涼台」を始めたんです。それが戦後になって「海の家」になりました。

——海の家最盛期は20年代でしょうか

♡戦前からですね。何回か皇族のお子さんたちも潮干狩りで八幡海岸にいらつしやって、「魚惣」の納涼台も着替えや休憩に利用された。宮様が使った足袋を洗って取ってあったが、いくら探しても出てこない。多分何かに混じって処分しちゃったんでしょうね。(笑い)

——戦後は？

♡私は昭和24年に結婚して、26年に駅前ですし屋を始めたんですがそのうちに、「店が忙しいからそっちはやめて夫婦で帰ってこい」ということになった。5月ごろからシーズンが始まり夏になると客が1日に1000人を超えることもある。何しろすごく忙しい。氷水とかサイダー、すいか、とうもろこしなんか飛ぶように売れましたね。朝の6時から準備がはじまり、夜も海の家で泊まる。ろくに眠れないなんて日も続いたけど、何しろ若かった、当時は少しも辛いなんて思わなかったね。

## 目の前に海、富士のすそ野が広がり 遠く近く船が行き来する まるで絵のような風景だった

「魚惣」の100年を清水あき子さんに聞く

インタビューした人＝青木くに、朝倉久江



八幡の浜本町(はもと)地区、ほぼ中央あたりに風流な高欄とガラス戸で往時のたたずまいを残す瀟洒な2階建てがある。元料亭だった「魚惣」、明治27年に創業、海側は築117年、陸側も大正3年の増築というからまもなく100年を迎える。かつて八幡が「海の町」だったころの磯料理料亭、八幡中学校グラウンド(現在運動公園)の岸壁から海に張り出すように浜1番の「海の家」を開設、最盛期は1日10000人を超える潮干狩りや海水浴客を迎えた。

昭和2年生まれ元女将・清水あき子さんの父・幸一さんはみんなが喜ぶのが大好きだった。村田英雄や二葉百合子、女剣劇の浅香光代を呼んで興行を張ったりもした。町に海があった時代を知る人たちにまさきき思い出す店を尋ねると「魚惣」と答える人も多い。かつて「海の町」の一時代を築いた「魚惣」の歴史をあき子さんに聞いた。

明治27年に竣工、  
117年の年輪を刻んだ「魚惣」

——ずいぶん丈夫な造りですが？

♡西側の半分が初代惣三郎が明治に建てた部分。いま勝手口に使ってる所に長屋門があって庭石伝いに玄関に入ったそうです。千葉側が別棟の調理場で、「上総



①

佐倉、高次、多村、山岸  
青木、羽倉、沼河

平成23-3-1

八幡史学館名所百選チーム  
第32回打ち合わせ資料

1) 今後のスケジュール

- ①(1)3月15日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除 → 実施 <sup>佐倉、高次、多村、沼河、山岸</sup>
- 春季大祭りにあたる。 ~~緑の土ぼけ? 緑の干ば?~~
- (2)4月5日(火曜日) 研修会兼お花見 → 中止
- どこ? 車? 用意するもの 雨天は
- (3)4月19日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除 → 実施
- (4)5月3日(火曜日) 13時30分 第33回打ち合わせ
- (5)5月17日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除
- ② 拓本チーム 3月19日 円頓寺、妙長寺から再開 称念寺 → 中止
- ③ 写真チーム 北島、山岸 順次撮影

2) 「やわたむかし写真館」のリニューアルと「会報」の発行

- ① やわたむかし写真館リニューアル 2月中旬ほぼ終了
- 写真説明、解説文など一部修正 4月1日までに微調整
- ② 会報第2号の発行試作判 3月1日試作版配付 → 別紙
- 正式配付 3月10日ころ

3) 「八幡の石造物研究」進行状況

◎=完成 ○=ほぼ △=少し

①	本文作成	拓本見直し	写真	総合完成度(版下)
1-16ページ 巻頭ページ	△			△
16-108 飯香岡八幡宮	◎	◎→	△	○
109-128 満徳寺	◎	◎→		○
129-156 無量寺	◎	◎→	○	○
157-173 称念寺	◎	◎→	○	○
胴埋塚7 猿田彦神社4	◎	◎→		○
円頓寺、妙長寺	○	○→		○
その他	△	○→		○

4) 八幡史学館その他関連講座予定変更

- ① 「いきいき八幡塾」スケジュール変更
- (1)8月24日(水) = 教室講座
- (2)9月24日(金) = バス研修
- ② 菊間コミュニティ 昔会長から「菊間の歴史」オファー

5) 郷土史情報

- ① 飯香岡八幡宮 3月15日(火曜) 春季例祭、宝蔵庫一般公開
- ② 八幡山中さん ちはら台公団開発担当、航空写真と開発写真2枚受領 展示中
- ③ 菊間名主家 文書多数所有とのこと、閲覧申し入れているが難航
- ④ 八幡魚惣 むかし写真追加発見
- ⑤ すだて 資料参照 → 別紙
- 漁業組合が権利を持ち、熟練の業者が「す」を立てる
- 市原では八幡、君塚、五井、今津朝山、姉崎、生浜、浜野
- 海の家では申し込みがあると空いているすと予約、船ですへ案内した
- 客はすの魚を取り、船の上で料理してもらって宴会を楽しんだ

②

6) やわた名所百選 内容確認最終回(残り6選)

- 市原地区
- ⑪ 府中日吉神社(市指定文化財)
- 府中は国府の別称で関係が想定される。本殿は室町中期の純和様式、古式神社建築で木造隨身立像は鎌倉時代、県下でも希少な古例という。境内に樹齢数百年の銀杏樹や三山碑があり、日吉大神の使いである猿のこま犬も珍しい。
- ⑫ 大多喜(鶴舞)往還
- 八幡の市原出途から山木坂下で右折、市原、山田橋、海土有木、牛久、鶴舞をへて大多喜に通じる。江戸中期図は市原台地の山下道の方が太く描かれ、中世の市原城を迂回したものとみられる。
- ⑬ 古甲遺跡
- 上総国府候補地の1つで地名は古国府、隣接する竹の内は館の内の転化と考えられる。発掘調査で平安後期以降の掘っ立て柱建物跡などが検出された。
- ⑭ 郡本八幡宮と石造物
- 8世紀天平宝字創建、元和7年井上筑後守社殿建立とする。現在の社殿建造は江戸後期で権現造り。境内に三山参拝塚などの碑がある。
- ⑮ 市原市埋蔵文化財センター
- 市原市の遺跡、遺物の調査研究、保存管理、公開活用を目的に平成2年に設置、エントランスホールには「王賜銘鉄剣」や人物埴輪などの出土品を展示している。
- ⑯ 稲荷台1号古墳記念公園\*
- 「王賜銘鉄剣」が発見された5世紀中後期円墳の記念公園。稲荷台古墳群は宅地造営で消滅したが鉄剣銘は大和王朝との強い結びつきを感じさせる。

7) やわた名所百選

まごめ ① 八幡地区 (1176と598)



1) 今後のスケジュール

- ①(1)2月15日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除
- (2)3月1日(火曜日) 13時30分 第32回定例会、会報第2号発行
- (3)3月15日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除
- (4)4月5日(または12日) 研修会兼お花見
- ② 会報第2号(2月8日インタビュー)  
むかしやわた写真館のリニューアル  
八幡の石造物研究(拓本作業、写真撮影)

2) 本会事業内容の変更(再確認)

- ① 本会事業内容の変更
  - (1)八幡地区の郷土史研究
  - (2)八幡名所百選の選定
  - (3)八幡史学館の運営に関する事
  - (4)その他郷土の歴史文化の発展に資すること

3) 八幡史学館その他関連講座予定

- ① 「八幡史学館講座」スケジュール変更
  - (1)6月7日(火)、(2)7月19日(火)、(3)9月27日(火)
  - (4)11月8日→11月9日(水)に変更=バス研修
- ② 八幡公民館「いきいき八幡塾」(佐倉)
  - 8/24(1)9月21日(水)=教室講座
  - 9/30(2)10月一日( )=バス研修
- ③ 辰巳公民館「江戸東京歴史散策」(お江と江戸と大名庭園)
  - (1)8月29日(月)=教室講座
  - (2)9月15日(木)=バス研修(お江の墓、芝離宮庭園ほか)

4) 郷土史情報

- ①飯香岡八幡宮 2月3日(木曜) 節分会  
3月15日(火曜) 春季例祭、宝蔵庫一般公開
- ②称念寺所蔵文書リスト(このほか檀家関係文書およそ100点を保管)
  - (1)明和6年(江戸後期1769-明治維新)=過去帳 月日、戒名、戸主続柄記載  
徳永喜兵衛父、北新田半四郎娘、新道孫兵衛娘、出戸五平次母、八軒町市平母など
  - (2)明治2年=過去帳  
水野出羽守内兵隊生国三州……小野田定四良、門前幸手矢京蔵孫、観音町足袋屋久平こと加藤金口の父、仲町豊屋軍治良、松葉屋文蔵祖父、水野羽後守内天野鉄治郎
  - (3)安政3年=称念寺一条につき検見川村善勝寺へ差し上げ候写し
  - (4)安政6年=寺送り一札のこと(五所村明照院→八幡村(末尾欠落、称念寺))
  - (5)明治2年=一札のこと(八幡宮社家→末尾欠落)
  - (6)永久保存ファイル
  - \*明治7、8年=墓地所有権争い関連申し上げ書(称念寺→千葉県令ほか=若干点)
  - 安政6年、万延元年=工事関連書類写し、関連図面
  - \*明治(念孝和尚代)=田畑図面、市原郡八幡宿、称念寺(巻頭部分をコピー)

- \*明治32年=焼失跡本堂再建願い(住職、檀家総代→あて先欠落)
- \*明治32年=本堂建築設計書(9間×5間45坪、1,400円)  
添書願い(図面付き=住職ほか→県知事)
- \*明治32年=本堂再建落成届け(住職ほか→あて先欠落)  
明治28年3月火災、32年5月着工、7月20日落成
- (7)明治15年=本堂縮造願い(図面付き=無住、檀家総代→千葉市原郡長、許可印)
- (8)明治17年=請負証書(菊間村大野佐市郎→称念寺檀家総代)  
本堂屋根新規かや7間3尺余×6間1尺余、48円余
- (9)明治30年=(建立打ち合わせ招集)(檀家総代→中島市太郎ほか13名)  
付、地ならし大工手伝い見積もり、古民家ほぼ同図3枚、寺院改造同図2枚
- (10)明治30年=古家一棟売り渡し証書(古市場杉田すみ→寺島久次郎ほか)
- (11)明治30年カ=本堂木割り記(明石熊太郎、大塚三吉→称念寺檀家総代カ)  
図面付き
- (12)明治32年=建築費計算書(収入、支出1,824円)
- (13)沼津藩の人材(1989=沼津市明治史料館)企画展示会解説冊子
- ③ 「市原の古文書研究会」で金杉浜新田名主文書解説開始  
金杉浜新田=天明4年成立、幕府直轄領、代官支配59石余
  - (1)天保9年、天保15年=村→幕府代官あて村差し出し明細帳
  - (2)安永2年=代官→村あて3か年定免許割り付け
  - (3)文久3年=代官→村あて年貢割り付け
  - (4)文政6年=村→代官あて塩浜反別名寄せ帳
  - (5)文政10年=御年貢永ならびに諸役銭小割り取り立て帳
  - (6)天保5年=村→代官あて宗門人別帳
  - (7)天保5年=塩浜堤普請割賦御請連印帳
  - (8)慶応3年=代官→村あて御用触留帳
  - (9)明治2年=菊間藩→村あて御用触留帳
  - (10)明治5年=村→木更津県あて塩浜反別一筆限り地代金取り調べ帳
  - (11)明治7年=畑方塩浜税金取り調べ帳

4) 「会報第2号」の主要内容と進行状況 ◎=完成 ○=ほぼ △=少し

- ①○1ページ(写真)=昭和はじめの八幡宮みこし渡御
- 2、3ページ=4月から八幡公民館が指定管理者制度に変わる。八幡公民館略史
- △4、5ページ=名所百選進行状況、百選②江戸時代の八幡湊跡
- 6、7、8ページ=八幡の歴史インタビュー(清水あき子)
- 9ページ=テーマおまかせ(佐倉)
- 10ページ=八幡宮の絵馬
- 11ページ=「柳橋神事の道」を歩く(多村)、計報(板倉さん)
- 12ページ=絵図にみる八幡の歴史(寛文9年水争い裁許絵図)

5) 「八幡の石造物研究」進行状況 ◎=完成 ○=ほぼ △=少し

①	1-16ページ	巻頭ページ	本文作成	拓本見直し	写真	版下
	16-108	飯香岡八幡宮	◎	◎-?	未	○
	109-128	満徳寺	◎	◎-?	未	○
	129-156	無量寺	◎	◎-?	未	○
	157-173	称念寺	◎	◎-?	未	○
		岡埋塚7 猿田彦神社4	◎	◎-?	未	○
		円頓寺、妙長寺	○	○	未	○
		その他	△	○	未	未



5) やわた名所百選 (総数97選、次回市原地区27選で見直し確認作業終了)

- ①旧八幡町地区 51選 (省略)
- ②旧菊間村地区 29選 (省略)

①手永貝塚

縄文後期から晩期前半までの遺跡。多くの貝とともに人骨82体、オオハクチョウ、猪の埋葬が検出された。現在は終末処理場になっている。

旧市原村地区17選

①光善寺と応永型石とうろう\*

7世紀末期ころの古代寺院・光善寺廃寺で、周辺から布目などの古代瓦が出土している。現在の光善寺は室町時代に再建、本尊「薬師三尊像」は15世紀作、厨子は禅宗建築技法で石とうろうも室町時代の古式を伝えている。

②麦飯石と柳橋神事

飯香岡社創建神話で八幡神が現れたとする瑞石。麦飯に柳の箸を添えて差し上げた故事から柳橋が飯香岡社祭礼で神前に奉尊されるようになった。600年の伝統を引き継ぎ、現在も司家で調整された柳橋が巡行に先立って光善寺に神奉される。

③条里制遺跡と古代官道→柳橋巡行の道

「条里制」は古代の地割り制度で土地を碁盤目に区画した。市原台地、菊間台地から海岸部にかけての水田一帯は条里制跡で、地下1mに古代水田を検出、縄文時代から中近世におよぶ広い年代の農耕機具や陶磁器などが出土した。柳橋の巡行は遺跡を縦断する古代官道を一直線に五所をめざす。

④市原城跡 (ゆらかじ) \*

戦国後期の丘城。房総往還を見下ろす舌状台地先端に立地、上総、下総国境、境目の城で原氏の(街道抑えか)。堀切、空堀、土塁、櫓台、井戸などが現存、主郭は最高地の光善寺、日の宮地区とみられる。城主に諸説、いずれも伝承の域をでない。

⑤能満城跡\*

市原城と並立、互いに守りを補完した兄弟城か。主郭部は中央東部に位置し、土塁と空堀、虎口などの旧態をよく残している。台地の周辺からは鎌倉時代や室町時代とみられる五輪塔多数が出土、往昔から発展した地域であることを窺わせている。

⑥白船城跡

戦国後期の市原城の最前線外郭または砦、正面を急崖とし周囲を低湿地水田で囲む。細長い尾根部分を4つの郭に堀切りした連郭式縄張り、堀切、土橋、土塁、腰曲輪などが確認できる。

⑦能満堰と灌漑水路

市原中学校と遺跡センター間の窪地が能満堰跡で、源川とした能満川は市原の高台を迂回して東京湾に流れこむ。途中、能満や市原、五所、八幡の一部などの灌漑用水として水田を潤した。山木入り口の「分水樋跡」が当時の面影を伝える。水は農家の命、江戸時代に水争い裁許状も現存している。

⑧阿須波神社と万葉碑\*

阿須波社は旅立ちの神さま。「万葉集」の防人の歌に「庭中の阿須波の神に小柴さし」がある。「更級日記」の作者・菅原孝標のおたなもこの神社に旅の安全を祈願して、京都へ向かったものと考えらる。 すすめ

⑨市原八幡宮

創建は不詳。飯香岡社の旧地ともいわれ、「柳橋」の巡行で立ち寄る。

⑩釈蔵院と石造物 (市指定文化財=釈蔵院文書)

新義真言宗。9世紀はじめ大同元年弘法大師創建、鎌倉期中興とされる古刹。江戸時代は日吉神社別当寺で幕府から朱印8石1斗が寄進された。昭和36年本堂、客殿、護摩堂などを焼失、現本堂は昭和49年の再建だが、旧鐘楼、大師堂など旧来の建物も現存している。また大量の中世文書を保管、非公開だが市の文化財に指定されている。

⑪府中日吉神社 (市指定文化財)

府中は国府の別称、何らかの関係が想定される。現在の建物は室町中期。本殿は純和様式で古式神社建築を伝えている。13世紀ころとされる木造隨身立像は県下でも希少な古例、境内に樹齢数百年の銀杏樹や三山碑などがあり、日吉大神の使いである猿のこま犬が迎える。

⑫大多喜(鶴舞)往還

八幡の市原出途から山木坂下で右折、市原、山田橋、海土有木、牛久、鶴舞をへて大多喜に通じた。江戸中期図をみると市原台地の山下道の方が大きく描かれており、中世は市原城を迂回したことがわかる。

⑬古甲遺跡

上総国府候補地の1つで地名は古国府、隣接する竹の内は館の内の転化が考えられる。発掘調査で平安後期以降の掘っ立て柱建物跡などが検出された。

⑭郡本八幡宮と石造物

社伝は8世紀天平宝字創建とする。元和7年当時の領主井上筑後守が社殿建立とするが現在の社殿建造は江戸後期で権現造りになっている。境内に三山参拝塚、などの碑がある。

⑮市原市埋蔵文化財センター

市原市の遺跡、遺物の調査研究、保存管理、公開活用を目的に平成2年に設置、エントランスホールには「王賜銘鉄剣」や人物埴輪などの出土品を展示している。

⑯稲荷台1号古墳記念公園\*

大和王朝との強い結びつきを感じさせる「王賜銘鉄剣」が発見された稲荷台古墳のミニ記念公園。史跡看板は1号墳が5世紀中、後半の円墳であったことや王賜銘鉄剣の概況などを記す。

⑰古代官道

古代、国府から国府を結ぶ官道。市原市役所のある国分寺台から市原台地にかけてどこかに存在した上総国府周辺の古代官道は山倉ダム西側から山田橋、稲荷台、郡本をへて市原に抜け、阿須波神社横の切り通しから一直線に五所を出て、旧道を千葉方面へ向かったものと考えられ、市原中近くや五所小などで一部が検出された。

合計「97選」となった。

以上

次頁参照

ヤリまじ



八幡史学館名所百選チーム  
第30回打ち合わせ資料

参加 佐倉 多村 石井 山岸  
鷹平 内藤 青木 桐倉  
平成23-1-11

1) 「八幡の石造物研究会」の吸収合併と本会事業の変更

- ① 姉妹グループ「八幡の石造物研究会」講師板倉 満さんの逝去にともない、全員が本会と重複することとなったので吸収合併したい。  
(1)同会が現在進行中の「八幡の石造物研究」の研究、出版業務を引き継ぐ。  
② 拓本グループ講師=内藤敏子、鷺津寛子  
③ 「八幡の石造物研究」会員および事業の進行状況  
(1)平成17年創立、メンバー板倉(講師)、山岸(代表)、鷺津、内藤、小出、佐倉、多村、北島(写真)  
(2)「八幡称念寺の石造物と文化財」(平成20年発行)  
「やわたむかし写真館」(平成18年=史学館に移管済み)  
(3)「八幡の石造物研究」(調査、編集作業中=本年夏期出版予定)  
④ これにともなう本会の事業内容の修正(案)  
(1)八幡地区の郷土史研究  
(2)八幡名所百選の選定  
(3)八幡史学館の運営に関すること  
(4)その他郷土の歴史文化の発展に資すること

2) 今後のスケジュール

- ①(1)1月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除  
(2)2月1日(火曜日) 13時30分 第31回定例会  
(3)2月15日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除  
(4)3月1日(火曜日) 13時30分 第32回定例会  
(5)3月15日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除  
(6)4月5日(または12日) 研修会兼お花見  
② 拓本作業は天候や先方の都合によるので定例会とは別に随時行なう。  
当面の計画=円頓寺、妙長寺、称念寺(いずれも再拓本)  
③ 会報第2号(4月1日号=3月1日配付) 後出  
④ やわたむかし写真館コーナーの一部展示替え=2、3月実施  
企画展=飯香岡八幡宮絵馬写真展  
⑤ 本年度の「八幡史学館講座」素案(変更することがある)  
(1)6月7日(火)=八幡のあけぼの(八幡の町並み成立と江戸開府)  
(2)7月19日(火)=金杉浜新田名主文書にみる江戸時代の村と百姓  
(3)9月27日(火)=佐倉(90分)=昔の八幡?、山岸(25分)=バス研修のみどころ  
(4)11月8日(火)=バス研修(小弓城と文化財調査センター、生実陣屋と小弓御所跡、千葉城と千葉市立郷土博物館を予定)  
⑥ 参考=山岸の担当講座、バス研修会  
(1)辰巳公民館=2回シリーズ(8月、9月)江戸東京歴史散策(江戸と大名庭園)  
(2)城を歩く会=春の日帰りバス(5月)壬生城、笠間城、佐野城、唐沢山城を歩く

9/29巻い

3) 郷土史情報

- ① 「江——戦国の女たち」展 2月3日まで江戸東京博物館  
西国吉・医光寺「お江像」展示。解説は「伝」、三好家とのかかわりから浅井氏ゆかりの女性は間違いないとする。江消息、肖像画、くう殿などみどころ多い  
② 「市原の古文書研究会」で金杉浜新田名主文書解読開始  
金杉浜新田=天明4年成立、幕府直轄領、代官支配59石余、文書11点(冊子含む)  
③ 称念寺所蔵文書(住職から=本堂?2階から発見したので見てほしい)  
(1)明治はじめの菊間藩土過去帳  
(2)明治の寺資料各種  
過去帳は江戸後期天保ころから記載、明治の大火は本尊とともに持ち出した  
④ 勝間・佐野家文書  
(1)慶応4年、第2番(3月12日-4月15日)旗本永井兼之助領、海士有木村名主常松「諸用向き日記」解読終了。江戸開城激動期の詳細日記、食い詰め浪人迂回、領主奥様疎開の八幡通過など間接資料多いが、中央情報はほとんど伝わっていない。  
(2)同 第8番(9月23日-11月1日)「諸用向き日記」解読中。菊間藩成立、藩領となる。八幡の宿陣からの役人通行や通達などが回る。  
(3)明治6年、第1期の木版手書き、木更津県「地券之証」。木更津県印も貴重。  
(4)天保9年、関東取締出役「急達」、水野忠邦による「天保の改革」による贅沢禁止商渡世向け取り調べ回状。八幡村へ差し越されべしとする。この時の八幡二十五郷回答写しが飯香岡八幡宮文書に残る。  
⑤ 県文書館文書  
(1)柴山文平、明治元年7月「申し渡し」、監察兼知県事を仰せ付けられ上総八幡宿へ出張支配所、同所において指揮致すべく候……

4) 「会報第2号」の主要内容と進行状況 ◎=完成 ○=ほぼ △=少し

- ① ○1ページ(写真)=昭和はじめの八幡宮みこし渡御  
△2、3ページ=4月から八幡公民館が指定管理者制度に変わる。八幡公民館略史  
4、5ページ=名所百選進行状況、百選②江戸時代の八幡湊跡  
6、7、8ページ=八幡の歴史インタビュー(予定清水あき子)  
9ページ=テーマおまかせ(佐倉)  
△10ページ=八幡宮の絵馬  
○11ページ=「柳橋神事の道」を歩く(多村)、訃報(板倉さん)  
○12ページ=絵図にみる八幡の歴史(寛文9年水争い裁許絵図)

5) やわた名所百選 (総数97選、次回市原地区27選で見直し確認作業終了)

- ① 旧八幡町地区 51選 (省略)  
② 旧菊間村地区 29選  
(1) 菊間(若宮)地区  
① 若宮コロ(高良)塚巨人伝説  
② 菊間八幡宮社と石造物\*  
③ 菊間天神山古墳\*  
④ 姫宮古墳\*  
⑤ 北野天神山(権現山)古墳\*  
⑥ 東関山古墳\*  
⑦ 菊間廃寺跡  
⑧ 菊間城新坂(道)\*と菊間出途道  
⑨ 松翁稲荷社跡  
⑩ 菊間城藩庁舎跡  
⑪ 元神官根本邸跡  
⑫ 藩知事水野忠敬住居跡  
⑬ 大殿様水野忠寛御殿跡と周辺藩士邸跡  
⑭ 藩校明親館跡と高柳先生碑



⑮千光院と石造物

新義真言宗。寺伝は鎌倉末期市内犬成で創建、喜多ともいう。長享2年土気城主酒井定隆の「七里法華」を拒んで現在地に移転とする。山門近くに巡拝塔が並ぶ。千光院は88番で讃岐大窪寺の移し、明治維新後に合併した東漸院は74番で、観音寺は71番、月光院は72番の移し、ほかに庚申塔や宝きょう印塔など見るべき物が多い。

⑯菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道

旧城沼津の家屋敷古材や家財が運びあがるための荷揚げ場と城中央部にかけての大空堀。巨大スロープが城地を横切っている。

⑰手永貝塚跡

終末処理場一帯は貝塚跡で、周辺に住居跡や集団墓地が発掘され、縄文時代からの集落形成を裏付けた。低地の水田からは弥生時代中後期の土器も出土した。

⑱北斗池跡

元和元年灌漑用水ため池として構築、菊間城構築にあたり「四神相応」の地形にあてた城地に組み込まれた。池跡近くの弁財天は池や川などの水神、池の中島の碑を再建。

⑲福寿寺と菊間のお地蔵さん

真言宗豊山派。元八幡満徳寺末寺で寺伝は南北朝時代創建とする。万治3年の地蔵像は丸彫りの立像で、大型の宝きょう印塔や四国遍路87番讃岐志度寺移しがある。

⑳戒誓院と石造物

同じく元万徳寺末寺、上総の四国霊場巡り78番札所で讃岐道場寺（現郷照寺）移し。

㉑若宮道祖神社

山木の村入り口、道祖神は悪霊を防ぎ、旅行の安全を守護した。

㉒山木坂と旧道

山木坂は八幡と潤井戸を結ぶ旧道。伊南ルートの近道として利用された。辰巳通りとほぼ並行する山木坂は古道の雰囲気を残している。

㉓山木の菊間団地上からの景観

菊間と山木を結ぶ旧道高台。冬の早朝など臨海工場越しに富士山が望める。景観がすばらしい。

(2)草刈、古市場、山木、辰巳地区

①草刈堰と中川溝

元和8年代官高室金兵衛、また慶長年間浜野の篠崎、野呂の鶴田家が開いたとされる灌漑用水路。「中川溝」は大厩村、古市場村、菊間村をへて八幡村に至る1里半。「生実溝」は千葉側、あわせて水田8百町歩、1万石を潤した。

②武田邸（国登録文化財）

外観和洋折衷、大正昭和はじめの医院建築。右側和風は大正5年長南町に建てられた解体移築、左側洋館は現在地移転時昭和3年の建造で昭和30年ころ結合された。38年まで使用、病室、診察室、手術室などがある。黒白のコントラストが美しい。

③常徳院と木造聖観音菩薩座像\*（市指定文化財）

新義真言宗。秘仏の聖観音菩薩は鎌倉後期、建長寺伝来とされる。

④妙永寺と石造物\*

日蓮宗。旧山木村の古刹。土地開発にあたり旧道沿いの石仏なども集めた。

⑤白幡神社と山木分校跡

江戸後期創建。戦後の一時期、境内に八幡小学校の分校が置かれた。

⑥草刈古墳群と3本生公園

菊間に隣接する古墳群、まきぞの公園と川焼不動一帯を弥生公園として保存整備している。

新年 展覧会のご案内

特別展

江ごう 2011年 NHK大河ドラマ  
~姫たちの戦国~

1月2日(日)~2月20日(日) 江戸東京博物館 1階展示室

休館日:月曜日

※ただし1月3日・10日・17日は開館

開館時間:午前9時30分~午後5時30分

(土曜日は午後7時30分まで)

※入館は閉館の30分前まで

観覧料:一般1,300円(1,100円)、

大学・専門学校生1,040円(840円)、

高校生・65歳以上650円(450円)

※( )内は前売の料金。中学生以下無料。20名以上の団体料金あり。身体障

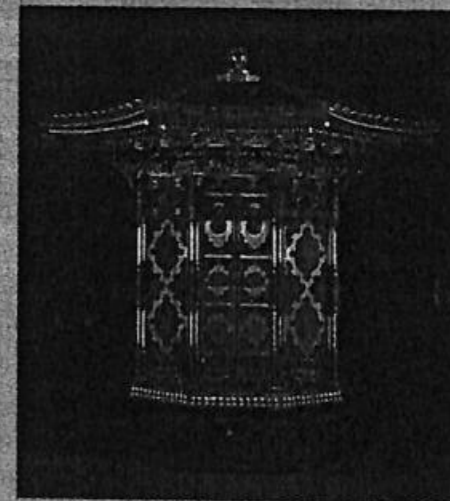
害者手帳・愛の手帳などをお持ちの方と、その付添者2名まで無料。前売券は2011年1月1日(土)まで販売。

[チケット取扱]チケットぴあ(Pコード:764-403)、ローソンチケット(Lコード:32842)ほか、主要プレイガイド

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団

東京都江戸東京博物館、NHK、NHKプロモーション

協賛:ハウス食品、三井住友海上



頼山陽書院 寛永5年(1628)建立 祐天寺所蔵

企画展

140年前の江戸城を撮った男  
横山松三郎

1月18日(火)~3月6日(日)

江戸東京博物館 常設展示室5階

休館日:月曜日

開館時間:午前9時30分~午後5時30分

(土曜日は午後7時30分まで)

※入館は閉館の30分前まで

観覧料:一般600円(480円)、大学・専門学

校生480円(380円)、中学生(郊外)・

高校生・65歳以上300円(240円)、

中学生(都内)・小学生以下無料

※( )内は団体20名以上の料金

主催:東京都 東京都江戸東京博物館



本丸北庭(後)横門・岩崎多聞像 徳川式庭園、横山松三郎撮影「戦国図説 城郭之部」明治11年(1878)より 江戸東京博物館所蔵



1) 今後のスケジュール

- ①(1)12月21日(火曜日) 10時30分 八幡宮放生池掃除、昼食会
- (2)1月10日(火曜日) 13時30分 第30回定例会
- (3)1月18日(火曜日) 9時00分 八幡宮放生池掃除(石造物チーム)
- (4)2月1日(火曜日) 13時30分 第31回定例会
- ② 会報第2号=4月1日発行予定。原稿募集します
- ③ やわたむかし写真館コーナーの一部展示替え  
企画展=飯香岡八幡宮絵馬写真展。あわせて資料集とする
- ④ 明年度の山岸担当公民館講座  
(1)八幡史学館=4回シリーズ(ほぼ今年とほぼ同じ)
- (2)辰巳公民館=2回シリーズ、江戸東京歴史散策(江戸と大名庭園)

2) 小田原城、石垣山城研修会補足(参考資料=城の会PR版)

- ① 後北条小田原古城
- ② 近世小田原城  
復興、模擬(なぜ復元ではないのか)=関東大震災後石垣が改変されたため  
層塔型天守(五重塔を大きく)=安土や彦根、丸岡城など古い望楼型天守との違い
- ③ 石垣山一夜城=年々観光化、昇りやすくなった  
石材の歩み=自然石→あら割り石(一夜城)→切り石(近世城)
- ④ 城を歩く会  
海城新井城と三崎城を歩く  
春の日帰りバス旅行(水戸城、桜田門外の変セット、笠間城、壬生城)  
秋の一泊旅行(淀城、大坂城、大和郡山城、和歌山城?、伊賀上野城)

3) 郷土史情報

- ① 市立公民館の指定管理者制度 明年4月1日から  
八幡公民館=12月、職員募集受け付け開始
- ② 大河ドラマ「お江」ゆかり寺・西国吉光寺(お江の木像を所蔵)  
(1)戦国大名浅井長政と織田信長の妹お市と3女、名門に生まれながら2度の落城と3度の結婚を経験、波瀾の人生を歩んだ主人公のお江
- (2)そのお江と徳川2代将軍秀忠のむすめ千姫も数奇な人生を辿った。オバ淀の子豊臣秀頼に嫁すが大坂夏の陣で落城、直前に祖父の家康の元に脱出した
- (3)千姫に従ったおんな達の中に浅井の血を引く海津と乳のみ子がいた。のち三好と改姓して秀忠の旗本となる
- (4)2代政盛の寛文年間、家禄を2千石に伸ばして市原の国吉村、皆吉村、馬立村などを所領、医光寺を国許の菩提寺とした。医光寺には政盛と3代勝政などあわせて5基の石塔が現存し、お江=崇伝院殿座像、長政を含む浅井、三好合同位牌など、浅井氏ゆかり寺にふさわしい遺跡を保存している
- (5)NHK取材あり、番組で紹介されるものとみられる
- ③ 12月1日「鎌倉街道と頼朝伝説を訪ねる」(講師=師宣博物館佐生先生)  
(1)笹生先生は「企画展、房総の頼朝」を担当された
- (2)袖ヶ浦公園→万騎坂→御所寛坂→豊成不動尊→切替邸→風戸日光寺  
(頼朝の進軍経路の特定は難しいが鎌倉街道を上総国府めざしたと考えられる)
- ④ 「市原の古文書研究会」で金杉浜新田名主文書解説開始  
(1)天保9年、天保15年=村→幕府代官あて村差し出し明細帳
- (2)安永2年=代官→村あて3か年定免許割り付け
- (3)文久3年=代官→村あて年貢割り付け
- (4)文政6年=村→代官あて塩浜反別名寄せ帳
- (5)文政10年=御年貢永ならびに諸役銭小割り取り立て帳
- (6)天保5年=村→代官あて宗門人別帳
- (7)天保5年=塩浜堤普請割賦御請連印帳
- (8)慶応3年=代官→村あて御用触留帳

次回説明

- (9)明治2年=菊間藩→村あて御用触留帳
- (10)明治5年=村→木更津県あて塩浜反別一筆限り地代金取り調べ帳
- (11)明治7年=畑方塩浜税金取り調べ帳  
いずれも郷土史上最重要文書といえる

4) やわた名所百選

- ①旧八幡町地区 51選 (省略)
- ②旧菊間村地区 29選  
(1)菊間(若宮)地区  
①若宮コーロ(高良)塚巨人伝説と頂上の石仏
- ②菊間八幡宮社と石造物\*
- ③菊間天神山古墳\* (以上完了分)
- ④姫宮古墳\*  
合地東端部に立地する前方後円墳墓で全長51m、高さ3.6と3.9mを計る。村田川を見下ろす景勝にあり、大正3年、当地で行われた近衛師団演習を、皇太子だった昭和天皇が観戦された。
- ⑤北野天神山(権現山)古墳\*  
古墳上の天神社に由来。前方部が削平され後円部が現存している。
- ⑥東関山古墳\*  
北野天神山に隣接、墳丘70mと群中最大規模を計る。幅2mの周溝が確認されたほかは未発掘。またすでに消滅した新皇塚古墳からは市指定文化財の「将門塔」を出土し、現在国分寺に設置されている。
- ⑦菊間廃寺跡  
飛鳥時代の古代寺院跡。菊麻国造の流れをくむ一族の寺とされるが詳細は不詳。未発掘だが一帯に古代の軒先瓦や布目のかわらけ多数が散乱している。
- ⑧菊間城新坂(道)\*と菊間出途道  
明治元年、菊間藩主水野忠敬が築いた新道。当初大手道は旧往還の北新田から入ったが、八幡宿と直結する新坂を開き、若宮堤をへて現在の菊間出途に繋いだ。「新坂碑」が菊間藩との関わりを記す。
- ⑨松翁稲荷社跡  
慶応4年江戸開城の時、警備にあたった水野家が城中の稲荷社をいったん藩邸に引き取った後、明治2年に菊間城に遷宮した。昭和5年老朽化のため若宮八幡宮に合祀、碑銘は忠敬を継いだ忠亮が書いた。
- ⑩菊間城藩庁舎跡  
明治元年、菊間へ転封した水野5万石藩庁舎跡。字雲の境一帯に後に村役場となった2階建て医局、時の鐘を取り付けた層塔、仮藩庁の公がいなどが完成したが、本庁舎は土地を造成し土台を回した段階で廃藩置県を迎えた。用意した資材は初代千葉県庁に転用された。土塁や空堀、建物跡などが窺われる。
- ⑪元神官根本邸跡  
旧菊間若宮八幡宮神官邸跡地、明治2年国入りした水野忠敬が1年半に渡って居住した。
- ⑫藩知事水野忠敬住居跡  
明治4年建造の水野忠敬住居跡。古写真は質素な構えを伝える。忠敬は5か月後に藩知事の職を解かれ東京へ招集されたが、跡地は水野家が別荘とした。戦前はテニスを楽しみ、戦時の一時期、家族が疎開されたこともあった。
- ⑬大殿様水野忠寛御殿跡と周辺藩士邸跡  
明治はじめ若い藩主忠敬に変わって築城を指揮した先々代忠寛の住居跡。忠寛は13代将軍家定の側用人で井伊直弼の側近として活躍したが、直弼の横死で失脚隠居、市原転封時62才であった。いまま跡地一帯を「御殿」という。隠居御殿=下屋敷として作られたが詳細は不詳。土塁、空堀一部が現存、周辺藩士邸を含めた一角は、升形、五の字道など武家屋敷街特有の地形を残している。



⑭藩校明親館跡と高柳先生碑

藩校は藩士子弟の専用学校。沼津時代の文久年間、14代忠誠が創建、転封のためいったん江戸の浜町藩邸に移し、明治3年菊間に再移転した。跡地のバスターミナルに藩校舎、大厩の台地上は馬場、維新後菊間小学校として明治25年まで使用された。

⑮千光院と石造物

新義真言宗の寺、寺伝は鎌倉末期市内犬成（喜多ともいう）の地で創建、長享2年日泰上人に帰依した土気城主酒井定隆の「七里法華」を拒んで現在地に移転したという。山門近くに巡拝塔が並ぶ。千光院は88番で讃岐大窪寺の移し、明治維新時に合併した東漸院は74番で甲山寺、観音寺は71番弥谷寺、月光院は72番で万茶羅寺の移し、千光院は石造物の宝庫で、に庚申塔や宝きょう印角柱宝塔などがある。

⑯菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道

築城で最初に手掛けたのが沼津の家屋敷を取り壊した古材や家財が運びあげるための村田川荷揚げ場と城中央部にかけての大空堀の整備であったという。現在も巨大スロープが城地を横切っている。

⑰手永貝塚跡

縄文時代の遺跡に手永貝塚と実信貝塚があった。菊間台下の終末処理場一帯は手永貝塚跡で隣接して住居跡や集団墓が発掘され、縄文時代からの集落形成を裏付けた。低地に広がる水田からは弥生時代中後期の土器も出土している。

⑱北斗池跡

元和元年灌漑用水ため池として構築という。菊間城構築にあたり「四神相応」の地形にあてた城地に組み込まれた。池跡近くの弁財天は池や川などの水神として奉られる。かつて池の中島に立てられていたものを戦時中、村長と区長が再建した。

⑳福寿寺と菊間のお地藏さん

真言宗豊山派で、元八幡万徳寺末寺、寺伝は南北朝時代創建とする。万治3年地藏像は丸彫りの立像だが、台石は明和9年十九夜講中とあり後補。大型の宝きょう印塔と四国遍路87番讃岐志度寺の移しがある。

㉑戒誓院と石造物

同じく元万徳寺末寺、上総の四国霊場巡り78番札所で讃岐道場寺（現郷照寺）

㉒若宮道祖神社

道祖神は道路の悪霊を防ぎ、旅行の安全を守護した。

㉓山木坂と旧道

山木坂は八幡と潤井戸を結ぶ脇往還に立地した。正規の伊南ルートは浜野、草刈を経由したが、距離が短く便利な連絡道として利用された。途中、坂上からは荻作、神崎方面か大厩の現在辰巳団地をへて久々津、潤井戸へと通じた。急坂で荷物の運搬に苦勞したが継ぎ立て経費の節約になったともいう。辰巳通りとはほぼ並行する山木坂は道幅も狭く周辺に旧家や寺も点在し、て古道の雰囲気が残っている。

㉔山木の菊間団地上からの景観

好天の日は臨海工場越しに富士山が望める。

(2)草刈、古市場、山木、辰巳地区

①草刈堰と中川溝

②武田邸（市登録文化財）

③常德院と石造物\*

旧市原村地区17選

④光善寺と応永型石とうろう\*

⑤柳楯神事と麦飯石

⑥古代条里制遺跡と柳楯巡行の道

⑦市原城跡（ゆうがい山）

⑧能満城跡\*

⑨白船城跡

⑩能満村堰と灌漑用水路

⑪阿須波神社と万葉碑

⑫市原八幡宮

⑬妙永寺と石造物\*

⑭白幡神社と山木分校跡

⑮草刈古墳群

⑯釈蔵院と石造物

⑰府中日吉神社\*

⑱大多喜（鶴舞）往還

⑲古甲遺跡

⑳郡本八幡宮と石造物

㉑市原市埋蔵文化財センター

㉒稲荷台1号古墳記念公園\*

㉓古代官道

以上



① 佐倉、多村、石井、山岸  
鷲津、青木、羽倉、内藤  
平成22-11-2

八幡史学館名所百選チーム  
第28回打ち合わせ資料

1) 今後のスケジュール

- ①(1)11月9日(火曜日)9時30分～ 八幡史学館講座④現地巡見
- (2)11月14日(日曜日) 小田原城と石垣山城研修会
- (3)11月16日(火曜日)9時～ 八幡宮放生池周辺掃除(変更・中止?)
- (4)12月7日(火曜日)19時30分～ 第29回打ち合わせ
- (5)12月21日(火曜日)八幡宮放生池周辺掃除(時間繰り下げ終了後打ち上げ会?)

- ② 八幡公民館「八幡史学館④」資料P1概要参照
- (1)今年の「飯香岡八幡宮柳橋神事」アイチャンネルVTR
- (2)柳橋神事講座
- (3)柳橋神事の里を歩く(現地巡検=コース確認)
- (4)公民館側引率=佐藤(教育委員会)、田中(副館長)、熊谷(指導員=自転車)

多村(車を光善寺に待機)  
解散後のバス通路

- ③ 明年度の山岸担当公民館講座
- (1)指定管理者制度
- (2)八幡史学館=4回、うち1回は城の発達、巡検は市バスになる
- (3)辰巳公民館=削減申し入れ中だが難航、江戸東京歴史散策2回は継続

2) 小田原城、石垣山城研修会

- ① 11月14日(日曜日=小雨決行、前日決定)  
予備日の設定=11月、~~20-21~~、23、~~27~~、28日  
\*八幡宿6時14分、千葉6時32分、横浜7時54分、小田原着8時51分  
箱根登山バス9時15分、小田原城旧城大堀切、大外郭の一部、旧城跡、小田原城、小田原駅(以上東京の会下見兼ねる)  
観光回遊バス13時30分、石垣山一夜城(見学2時間)15時50分発  
小田原駅前、小田原16時30分ころ、八幡宿20時ころ着  
\*見学順を一夜城、小田原旧城、近世城に変更することがある

- ② 費用=八幡宿(ホリデー)小田原2300円+800円、ジバンク3070円  
バス200円+回遊バス200円(タクシーの場合500円程度、下りは徒歩)  
資料代実費(100円程度)、参加費は無料。

- ③ 定員=15名(会員+□名)  
回遊バスは小型です(定員は20名強)、乗り切れないことがある
- ④ 幹事=高沢(男組=特別枠□名一任)、鷲津(女組=特別枠□名一任)

連絡網  
山岸 — 高沢41-2458 — 男性全員  
— 鷲津41-5101 — 女性全員

3) 八幡の郷土史情報

- ① 無量寺所蔵、弘化3年「飯香岡八幡宮領宗門御改め帳」
- (1)寺(宗門人別)→八幡宮(まとめ、差し出し人)→岩本大隅守(付属=領主代行)
- 真言宗(満徳寺) 家数12戸、人数52人(男24、女28)
- 浄土宗(無量寺) 家数9戸、人数34人(男19、女15)
- "(称念寺) 家数4戸、人数16人(男8、女8)
- 日蓮宗(円頓寺) 家数6戸、人数14人(男7、女7)
- "(妙長寺) 家数1戸、人数3人(男2、女1)
- 合計 家数32戸、人数116人(男59、女57)
- (2)1軒平均3.6人、家族構成はおおむね夫、妻、こども1、両親
- (3)八幡宮領150石=1軒あたり総生産高は4.6石、1人当たりでは1.3石  
他領とくらべ比較的恵まれている
- (4)八幡宮文書に弘化3年、安政3年八幡宮領、弘化4年岩本大隅守領八幡宮居住者、  
八幡寺島家文書に文久元年旗本村上三十郎組所蔵

②

- ② 無量寺コピー所蔵(原本木村家)
- (1)船持ち仲間申し合わせ規約緒言(明治後期から大正カ)  
五大力船船乗りの引き抜き防止申し合わせ
- (2)神力丸(判=石井)、八幡丸、1号太神丸(永野)、2号太神丸(永野善)、  
3号太神丸(大口)、明治丸(口田)、清正丸(渡辺)、大杉丸、神力丸、  
稲荷丸(石橋?)、大宮丸(大常)、浦吉丸、太神丸、三社丸(白鳥?)、  
大黒丸(石橋)、分久丸(白鳥)、海寿丸、水神丸、高砂丸、永宝丸、住吉丸、  
潤徳丸、浦吉丸、清正丸(以下欠落)

4) 会報第2号ほか

- ① 会報第2号=1月1日発行予定。原稿募集します
- ② やわたむかし写真館コーナーの一部展示替え(3月までに)  
企画展=飯香岡八幡宮絵馬写真展。あわせて資料集とする

5) やわた名所百選

- ①旧八幡町地区 51選(八幡南部、北部、中央地区は省略)
- (2)五所地区(\*=解説看板あり)
- ①明照院と五所小学校発祥の地\*(小出さんに確認要す)  
満蔵寺裏のJR側にあった真言宗の寺、能満積蔵院末寺。由緒は不詳で、江戸後期  
創建、大正9年火災焼失、密蔵寺とともに満蔵寺に合併された。明治6年当所で五  
所小学校が開校、22年に八幡、白旗小学校に統合された。
- ②満蔵寺と石造物(小出さんに確認要す)  
江戸後期創建の真言宗の寺。上総国札霊場34か所第30番巡拝塔、地藏菩薩像、筆子  
塚、回国塔などの石造物がある。光善寺住職を兼務。
- ③田中踏み切りの道標  
この方国分寺へ18丁、かさもりへの道をきざむ。江戸後期だが年号を欠く。
- ④金杉浜塩田跡と塩田土堤  
天明2年江戸金杉の庄左衛門らが五所、君塚村と飯香岡社神域をはさんだ八幡村海  
岸一帯26万坪に巨大塩田を築く。その後高波で壊滅的打撃を受けたが3分の1ほど  
が明治維新まで続き、一部は戦後まで利用された。西松屋裏に江戸時代の塩田土堤  
悪水溝100mほどが現存している。
- ⑤柳橋中道(大道?)  
飯香岡社の特殊神事として知られる柳橋巡行の道、元は条里制の古代官道で、台地  
上に置かれた国府と海岸沿い古道とを結んだ。「更級日記」菅原孝標のむすめもこ  
の道から京をめざした。
- ⑥伝足利義明御所跡、白旗神社と義明碑  
古河公方足利政氏の2男で小弓御所・義明ゆかり地。碑はこの地に「八幡御所」を  
構えた「伝承」を刻む。近年小弓入城前の上総居住はほぼ否定されつつあるが、江  
戸時代、義明古城跡が公認されており、なんらかの関連施設が置かれたといえる。
- 今回⑦五所共同墓地と出羽三山方形3段塚\*  
古来から五所村の墓地で旧家の古碑が多い。庄左衛門の墓は塩田開発の業績を刻む。  
三山塚の「由緒碑」には、五所の人たちが元禄、宝永から出羽三山に参拝した信仰  
の歴史を記している。
- ⑧伝八幡宮元宮の若宮八幡宮  
飯香岡八幡宮の元宮といい、傍らの碑は往古、五所の人たちが浜から神像を得た  
「神名帳考証」の一節を記す。
- ⑨北川みお跡  
五所村のみお。北川の河口を舟溜まりとし、漁業やのり養殖の拠点とした。
- ⑩五所小学校と四反田遺跡、古代官道跡\*  
統廃合されていた五所小学校を平成4年に再興、事前の発掘調査で、条里制の田や  
農耕具とともに側溝のある古代官道が検出された。
- ⑪金杉川の庚申塔  
元禄8年の庚申塔。永年露天に置かれたことで損傷も激しいが、3面6びの青面金  
剛像をきざむ。近年まで講の年寄りたちが像を囲んでお祈りした。



③

確に県指定?

②旧菊間村地区29選

(1)菊間(若宮)地区

①若宮コーロ(高良)塚巨人伝説と頂上の石仏

全国にある巨人伝説の1つ。デーデッポの指の間からこぼれた土が塚になった。

②菊間八幡宮社と石造物\*

社伝は白鳳2年創建、源頼朝の祈願で千葉常胤勧請とする。鎌倉時代作と推定される木造隨身立像を所蔵、現在の本殿は延享5年、拜殿は天保4年建造だが、社殿様式は権現造り前の古式を留めている。境内には神木大いちょう、寛文8年社寺型石手水鉢、天明3年道祖神、三山碑などがある。

③菊間天神山古墳\*

菊間台地に広がる「菊間古墳群」の1つ。5、6世紀、大和政権下の豪族、菊麻国造首長の墓で、一帯が古代八幡地区の中心地として繁栄していたことがわかる。その1つ菊間天神山古墳は台地西北端で海岸部を望む。現況は円墳で直径39m、高さ3.5m。周溝部の発掘で円筒埴輪片などが出土された。

④姫宮古墳\*

台地東端部に立地する前方後円墳墓で全長51m、高さ3.6と3.9mを計る。村田川を見下ろす景勝にあり、大正3年、当地で行われた近衛師団演習を、皇太子だった昭和天皇が観戦された。

⑤北野天神山(権現山)古墳\*

古墳上の天神社に由来。前方部が削平され後円部が現存している。

⑥東関山古墳\*

北野天神山に隣接、墳丘70mと群中最大規模を計る。幅2mの周溝が確認されたほかは未発掘。またすでに消滅した新皇塚古墳からは市指定文化財の「将門塔」を出土し、現在国分寺に設置されている。

⑦菊間廃寺跡

飛鳥時代の古代寺院跡。菊麻国造の流れをくむ一族の寺とされるが詳細は不詳。未発掘だが一帯に古代の軒先瓦や布目のかわらけ多数が散乱している。

⑧菊間城新坂(道)\*と菊間出途道

明治元年、菊間藩主水野忠敬が築いた新道。当初大手道は旧往還の北新田から入ったが、八幡宿と直結する新坂を開き、若宮堤をへて現在の菊間出途に繋いだ。「新坂碑」が菊間藩との関わりを記す。

⑨松翁稲荷社跡

慶応4年江戸開城の時、警備にあたった水野家が城中の稲荷社をいったん藩邸に引き取った後、明治2年に菊間城に遷宮した。昭和5年老朽化のため若宮八幡宮に合祀、碑銘は忠敬を継いだ忠亮が書いた。

⑩菊間城藩庁舎跡

明治元年、菊間へ転封した水野5万石藩庁舎跡。字雲の境一帯に後に村役場となった2階建て医局、時の鐘を取り付けた層塔、仮藩庁の公がいなどが完成したが、本庁舎は土地を造成し土台を回した段階で廃藩置県を迎えた。用意した資材は初代千葉県庁に転用された。土塁や空堀、建物跡などが窺われる。

⑪元神官根本邸跡

旧菊間若宮八幡宮神官邸跡地、明治2年国入りした水野忠敬が1年半に渡って居住した。

⑫藩知事水野忠敬住居跡

明治4年建造の水野忠敬住居跡。古写真は質素な構えを伝える。忠敬は5か月後に藩知事の職を解かれ東京へ招集されたが、跡地は水野家が別荘とした。戦前はテニスを楽し、戦時の一時期、家族が疎開されたこともあった。

⑬大殿様水野忠寛御殿跡と周辺藩士邸跡

明治はじめ若い藩主忠敬に変わって築城を指揮した先々代忠寛の住居跡。忠寛は13代将軍家定の側用人で井伊直弼の側近として活躍したが、直弼の横死で失脚隠居、市原転封時62才であった。いまも跡地一帯を「御殿」という。隠居御殿=下屋敷として作られたが詳細は不詳。土塁、空堀一部が現存、周辺藩士邸を含めた一角は、升形、五の字道など武家屋敷街特有の地形を残している。

④

⑭藩校明親館跡と高柳先生碑

藩校は藩士子弟の専用学校。沼津時代の文久年間、14代忠誠が創建、転封のためいったん江戸の浜町藩邸に移し、明治3年菊間に再移転した。跡地のバスターミナルに藩校舎、大厩の台地上は馬場、維新後菊間小学校として明治25年まで使用された。

⑯千光院と石造物

新義真言宗の寺、寺伝は鎌倉末期市内犬成(喜多ともいう)の地で創建、長享2年日泰上人に帰依した土気城主酒井定隆の「七里法華」を拒んで現在地に移転したという。山門近くに巡拝塔が並ぶ。千光院は88番で讃岐大窪寺の移し、明治維新時に合併した東漸院は74番で甲山寺、観音寺は71番弥谷寺、月光院は72番で万茶羅寺の移し、千光院は石造物の宝庫で、に庚申塔や宝きょう印角柱宝塔などがある。

⑰菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道

築城で最初に手掛けたのが沼津の家屋敷を取り壊した古材や家財が運びあげるための村田川荷揚げ場と城中央部にかけての大空堀の整備であったという。現在も巨大スロープが城地を横切っている。

⑱手永貝塚跡

縄文時代の遺跡に手永貝塚と実信貝塚があった。菊間台下の終末処理場一帯は手永貝塚跡で隣接して住居跡や集団墓地が発掘され、縄文時代からの集落形成を裏付けた。低地に広がる水田からは弥生時代中後期の土器も出土している。

⑲北斗池跡

元和元年灌漑用水ため池として構築という。菊間城構築にあたり「四神相応」の地形にあてた城地に組み込まれた。池跡近くの弁財天は池や川などの水神として奉られる。かつて池の中島に立てられていたものを戦時中、村長と区長が再建した。

⑳福寿寺と菊間のお地藏さん

真言宗豊山派で、元八幡万徳寺末寺、寺伝は南北朝時代創建とする。万治3年地藏像は丸彫りの立像だが、台石は明和9年十九夜講中とあり後補。大型の宝きょう印塔と四国遍路87番讃岐志度寺の移しがある。

㉑戒誓院と石造物

同じく元万徳寺末寺、上総の四国霊場巡り78番札所で讃岐道場寺(現郷照寺)

㉒若宮道祖神社

道祖神は道路の悪霊を防ぎ、旅行の安全を守護した。

㉓山木坂と旧道

山木坂は八幡と潤井戸を結ぶ脇往還に立地した。正規の伊南ルートは浜野、草刈を経由したが、距離が短く便利な連絡道として利用された。途中、坂上からは萩作、神崎方面が大厩の現在辰巳団地をへて久々津、潤井戸へと通じた。急坂で荷物の運搬に苦労したが継ぎ立て経費の節約になったともいう。辰巳通りとはほぼ並行する山木坂は道幅も狭く周辺に旧家や寺も点在し、て古道の雰囲気が残っている。

㉔山木の菊間団地上からの景観

好天の日は臨海工場越しに富士山が望める。

(以下、次回打ち合わせ)

(2)草刈、古市場、山木、辰巳地区

①草刈堰と中川溝

②武田邸(市登録文化財)

③常德院と石造物\*

④妙永寺と石造物\*

⑤白幡神社と山木分校跡

⑥草刈古墳群

旧市原村地区17選

①光善寺と応永型石とうろう\*

②柳橋神事と麦飯石

③古代条里制遺跡と柳橋巡行の道

④市原城跡(ゆうがい山)

⑤能満城跡\*

⑥白船城跡

⑦能満村堰と灌漑用水路

⑧阿須波神社と万葉碑

⑨市原八幡宮

⑩釈蔵院と石造物

⑪府中日吉神社\*

⑫大多喜(鶴舞)往還

⑬古甲遺跡

⑭郡本八幡宮と石造物

⑮市原市埋蔵文化財センター

⑯稲荷台1号古墳記念公園\*

⑰古代官道

以上







⑥伝足利義明御所跡、白旗神社と靈明碑

古河公方足利政氏の2男で小弓御所を称した義明ゆかり地。碑は永正14年から元文7年、八幡御所を構えたとする「伝承」を刻んでいる。近年八幡御所説はほぼ否定されているが、天保9年の五所村「村差し出し書き上げ帳」は、義明古城跡を除地として公認されている。

⑦五所共同墓地と出羽三山方形3段塚\*

古来から五所村の墓地で旧家の古碑が多い。庄左衛門の墓は塩田開発の業績を刻む。三山塚の「由緒碑」には、五所の人たちが元禄、宝永から出羽三山に参拝した信仰の歴史を記している。

⑧伝八幡宮元宮の若宮八幡宮

飯香岡八幡宮の元宮といい、傍らの碑は往古、五所の人たちが浜から神像を得たという「神名帳考証」の一節を記す。

⑨北川みお跡

五所村のみお。北川の河口を舟溜まりとし、漁業やのり養殖の拠点とした。

⑩五所小学校と四反田遺跡、古代道跡\*

統廃合されていた五所小学校を平成4年に再興、事前の発掘調査で、条里制の田や農耕具とともに側溝のある古代官道が検出された。

⑪金杉川の庚申塔

元禄8年の庚申塔。永年露天に置かれたことで損傷も激しいが、3面6びの青面金剛像をきざむ。埋め立てころまでは講の年寄りたちが像を囲んでお祈りする姿がみられたという。

②旧菊間村地区29選

(1)菊間(若宮)地区

①若宮コーロ(高良)塚巨人伝説と頂上の石仏

全国にある巨人伝説の1つ。デーデッポの指の間からこぼれた土が塚になったという。碑は 年の で移築。

②菊間八幡宮社と石造物\*

社伝は白鳳2年創建、源頼朝の祈願で千葉常胤勧請とする。鎌倉時代作と推定される木造隨身立像を所蔵、現在の本殿は延享5年、拜殿は天保4年建造だが、社殿様式は権現造り前の古式を留めている。境内には神木大いちょう、寛文8年社寺型石手水鉢、天明3年道祖神、三山碑などがある。

③菊間天神山古墳\*

菊間台地に広がる「菊間古墳群」の1つ。5、6世紀、大和政権下の豪族、菊麻国造首長の墓とされ、一帯が古代八幡地区の中心地として繁栄していたことがわかる。その1つ菊間天神山古墳は台地西北端で海岸部を望む。現況は円墳で直径39m、高さ3.5m。周溝部を発掘、円筒埴輪片が出土された。

④姫宮古墳\*

台地東端部に立地する前方後円墳墓で全長51m、高さ3.6と3.9mを計る。村田川を見下ろす景勝にあり、大正3年、当地で行われた近衛師団演習を、皇太子だった昭和天皇が観戦された。

⑤北野天神山(権現山)古墳\*

古墳上の天神社に由来。前方部が削平され後円部が現存。

⑥東関山古墳\*

北野天神山に隣接、墳丘70mと群中最大規模を計る。幅2mの周溝が確認されたほかは未発掘。またすでに消滅した新皇塚古墳からは市指定文化財の「将門塔」を出土している。

⑦菊間廃寺跡

古墳時代のあと飛鳥時代の古代寺院跡。菊麻国造の流れをくむ一族の寺とされる。未発掘だが一帯に軒先瓦や布目のかわらけが散乱、遺構を物語っている。

⑧菊間城新坂(道)\*と菊間出途道

明治元年、菊間藩主水野忠敬が築いた新道。当初大手道は旧往還の北新田から入ったが、八幡宿と直結する新坂を開き、若宮堤をへて現在の菊間出途に繋いだ。「新坂碑」が菊間藩との関わりを記す。

⑨松翁稲荷社跡

慶応4年江戸開城の時、警備にあたった水野家が城中の稲荷社をいったん藩邸に引き取った後、明治2年に菊間城に遷宮した。昭和5年老朽化のため若宮八幡宮に合祀、跡碑は忠敬を継いだ忠亮が書いた。

⑩菊間城藩庁舎跡

明治元年、菊間へ転封した水野5万石藩庁舎跡。字雲の境一帯に後に村役場となった2階建て医局、時の鐘を取り付けた層塔、仮藩庁の公がいなどが完成したが、本庁舎(本丸御殿)は土地を造成し土台を回した段階で廃藩置県を迎えた。用意した資材は初代千葉県庁に転用された。土塁や空堀、建物跡などが窺われる。

⑪元神官根本邸跡

旧菊間若宮八幡宮神官邸跡地、明治2年国入りした水野忠敬が1年半に渡って仮住居とした。

⑫藩知事水野忠敬住居跡

明治4年建造の水野忠敬住居跡。古写真は質素な構えを伝える。忠敬は5か月後に藩知事の職を解かれ東京へ招集されたが、跡地は別荘として引き続き水野家が所有、戦時の一時期、家族が疎開されたこともあった。

⑬大殿様水野忠寛御殿跡と周辺藩士邸跡

明治2年、若い藩主忠敬に変わって築城を指揮した先々代忠寛の住居跡。忠寛は13代将軍家定の側用人で井伊直弼の側近として活躍したが、直弼の横死で失脚隠居、市原転封時62才であった。いまも跡地一帯を「御殿」という。隠居御殿=下屋敷として作られたがその後の所在は不詳。土塁、空堀一部が現存、周辺藩士邸を含めた一角は升形、五の字道など武家屋敷街特有の地形を残している。

⑭藩校明親館跡と高柳先生碑

藩校は藩士子弟の専用学校。沼津時代の文久年間、14代忠誠が創建、転封のためいったん江戸の浜町藩邸に移し、明治3年菊間に再移転した。跡地のバスターミナルに藩校舎、大厩の台地上は馬場、維新後菊間小学校として明治25年まで使用された。

⑮千光院と石造物

新義真言宗の寺、寺伝は鎌倉末期市内犬成(喜多ともいう)の地で創建、長享2年日泰上人に帰依した土気城主酒井定隆の「七里法華」を拒んで現在地に移転したという。山門近くに巡拝塔が並ぶ。千光院は88番で讚岐大窪寺の移し、明治維新時に合併した東漸院は74番で甲山寺、観音寺は71番弥谷寺、月光院は72番で万茶羅寺の移し、ほかに庚申塔や宝きょう印角柱宝塔などがある。



1) 今後のスケジュール

- ①(1)9月14日(火曜日)9時30分～ 八幡史学館講座③
- (2)9月21日(火曜日)9時～ 八幡宮放生池周辺掃除
- (3)10月5日(火曜日)13時30分～ 第27回打ち合わせ
- (4)10月19日(火曜日)9時～ 八幡宮放生池周辺掃除(山岸欠)
- (5)11月2日(火曜日)13時30分～ 第28回打ち合わせ
- (6)11月9日(火曜日)9時30分～ 八幡史学館講座④現地巡見
- ②(1)第3回八幡史学館(参加費100円集金があります)  
山岸 次回「現地巡見」について、飯香岡八幡宮宝蔵庫(続き)  
佐倉 八幡の五大力船
- (2)第4回 後出(最終ページ参照)

2) 八幡の歴史情報

- ① 飯香岡八幡宮秋の例大祭(今年は千葉県国体のため ~~11月~~早まった)
  - (1)9月21日(火曜日) 柳楯調製(司家・山越)
  - (2)9月22日(中秋の名月) 秋期例大祭、柳楯巡行
  - (3)9月23日(秋分の日) 柳楯神事9時、宮出し9時30分、宮入り18時10分  
9月21日は八幡の石造物研究会と重複
- ② 上総国札詠歌ならびに略縁起、上総国札三十四ヶ所
  - (1)第30番 五所萬蔵寺 西の海漕ぎ行く方は御仏の 誓いのみふね法はおくれじ
  - (2)第31番 八幡満徳寺 一念に心を澄まし拜むなら 願いのままにいたらざらまじ  
国札31番照光院、また満徳という(中略)。四国79番讃岐崇徳天皇移し、満徳寺  
注意書き=明治以降の巡礼では同字の称念寺があげられている

3) やわた名所百選

①旧八幡町地区 51選(\*=解説看板あり)

- (1)飯香岡八幡宮境内
  - ①勅使記念碑と夫婦いちょう\*
  - 御影山、飯香岡八幡宮地名由来歌碑
  - ②飯香岡八幡宮(権現造り)社殿\*
  - ③源頼朝伝説の逆さいちょう
  - ④宝蔵庫
  - ⑤放生池と清見の滝\*
  - ⑥江戸中期、承応、元禄の石灯籠
  - ⑦手水鉢と水屋
  - ⑧郷土の偉人・菅野儀作像
  - ⑨教育の父・川上南洞像
  - ⑩八幡五所漁業組合解散碑
  - ⑪直木賞作家・立野信之文学碑
- (2)八幡宿北部地区
  - ①両総国境の境川(村田川公園)
  - ②村田川の渡し場跡
  - ③千葉康胤、胴埋(どうまん)塚
  - ④石塚伝説と庚申塚跡(石塚公園)
  - ⑤観音町入り口の東金道道標
  - ⑥稱念寺と中世五輪塔群
  - ⑦浜本町(はもと)倉町の町並み
  - ⑧明治の料亭と海の家・魚惣
  - ⑨浜本町(はもと)の澤(みお)跡
- (3)八幡宿南部地区
  - ⑩水神様と力石
  - ⑪五大力船のおった濁筋(みおすじ)
  - ⑫江戸へ年貢米を運んだ八幡港
  - ⑬旧房総往還、宿(しゅく)通り
  - ⑭陣屋
  - ⑮満徳寺と石造物
  - ⑯伝八幡公方・足利義明夫妻の墓\*
  - ⑰八幡宮別当寺・霊応寺跡
  - ⑱八幡小学校旧地
  - ⑲八幡宿駅

(4)五所地区(\*=解説看板あり)

- ①明照院と五所小学校発祥の地\*  
満蔵寺裏のJR側にあった真言宗、能満積蔵院末寺の寺。由緒は不詳で、江戸後期創建、大正9年火災焼失、密蔵寺とともに満蔵寺に合併された。明治6年当所で五所小学校が開校、22年に八幡、白旗小学校に統合された。
- ②満蔵寺と石造物  
江戸後期創建の真言宗の寺。上総国札霊場34か所第30番札所碑、地藏菩薩像、筆子塚、回国塔などの石造物がある。
- ③田中踏み切りの道標  
この方国分寺へ18丁、かさもりへの道をきざむ。江戸後期だが年号を欠く。
- ④金杉浜塩田跡と塩田土堤  
天明2年江戸金杉の庄左衛門らが五所、君塚村と飯香岡社神域をはさんだ八幡村海岸一帯26万坪に巨大塩田を築く。その後高波で壊滅的打撃を受けたが3分の1ほどが明治維新まで残った。昭和は七十年代まで操業された。西松屋裏に江戸時代の塩田土堤100mほどが現存している。
- ⑤柳楯大道  
飯香岡八幡宮の特殊神事として知られる柳楯巡行の道、元は条里制の官道大道で、各地に置かれた国府と海岸沿いの古道とを結んだ。
- ⑥伝足利義明御所跡、白旗神社と義明碑  
古河公方足利政氏の2男で小弓御所を称した義明ゆかり地。白旗神社碑は永正14年から元文7年この地に八幡御所を構えたとする「伝承」を刻んでいる。近年八幡説はほぼ完全に否定されたが、天保9年の五所村「村差し出し書き上げ帳」には義明古城跡としての除地を幕府が公認している。~~村差し出し書き上げ帳~~
- ⑦五所共同墓地と出羽三山方形3段塚\*  
古来から五所村の墓地で旧家の古碑が多い。庄左衛門の墓は塩田開発の業績を刻む。三山塚の「由緒碑」には、五所の人たちが元禄、宝永から出羽三山に参拝した信仰の歴史を記している。
- ⑧伝八幡宮元宮の若宮八幡宮  
伝承は飯香岡八幡宮の元宮とする。傍らの碑は「神名帳考証」の一節から、五所の人たちが浜から神像を得たとする創設の神話をめく。
- ⑨北川みお跡  
昔からの五所のみお。北川の河口を舟溜まりにしたことに始まる。埋め立てまで、五所の人たちの漁業やのり養殖の拠点になっていた。
- ⑩五所小学校と四反田遺跡、古代道跡\*  
統廃合されていた五所小学校が平成4年現在地に再興、事前の発掘調査で、条里制の田や農耕具とともに側溝の溝と古代道が発見された。
- ⑪金杉川の庚申塔  
元禄8年の庚申塔、永年露天に置かれたことで損傷も激しいが、3面6びの青面金剛像をきざむ。埋め立てころまでは講の年寄りたちが像を囲んでお祈りする姿がみられたという。

②旧菊間村地区29選

- (1)菊間(若宮)地区
  - ①若宮コーロ(高良)塚巨人伝説と頂上の石仏  
全国にある巨人伝説の1つ。デーデッポの指の間からこぼれた土が塚になったという。頂上の碑は、年 から移築。
  - ②菊間八幡宮社と石造物\*  
社伝は白鳳2年創建、源頼朝の祈願で千葉常胤勧請とする。鎌倉時代作と推定される木造隨身立像を所蔵、現在の本殿は延享5年、拝殿は天保4年建造だが、社殿様式は権現造り前の古式を留めている。境内には神木大いちょう、寛文8年社寺型石手水鉢、天明3年道祖神、三山碑などがある。



③菊間天神山古墳\*

菊間台地に数十基を数える「菊間古墳群」がある。5、6世紀、大和政権下の豪族、菊麻国造首長の墓とされ、一帯が古代八幡地区の中心地として繁栄していたことがわかる。その1つ菊間天神山古墳は台地西北端で海岸部を望む。現況は円墳で、直径39m、高さ3.5m。周溝部を発掘、円筒埴輪片が出土された。

④姫宮古墳\*

台地東端部に立地する前方後円墳墓で全長51m、高さ3.6と3.9mを計る。村田川を見下ろす景勝にあり、大正3年、当地で行われた近衛師団演習を、皇太子だった昭和天皇が観戦された。

⑤北野天神山(権現山)古墳\*

古墳上の天神社に由来。前方部が削平され後円部が現存。

⑥東関山古墳\*

北野天神山に隣接、墳丘70mと群中最大規模を計る。幅2mの周溝が確認されたほかは未発掘。またすでに消滅した新皇塚古墳からは市指定文化財の「将門塔」を出土している。

⑦菊間廃寺跡

古墳時代のあと飛鳥時代の古代寺院跡。菊麻国造の流れをくむ一族の寺とされる。未発掘だが一帯に軒先瓦や布目のかわらけが散在、遺構を物語っている。

⑧菊間城新坂(道)\*と菊間出途道

明治元年、菊間藩主水野忠敬が築いた新道。当初大手道は旧往還の北新田から入ったが、八幡宿と直結する新坂を開き、若宮堤をへて現在の菊間出途に繋いだ。「新坂碑」が菊間藩との関わりを記す。

⑨松翁稲荷社跡

慶応4年江戸開城の時、警備にあたった水野家が城中の稲荷社をいったん藩邸に引き取った後、明治2年に菊間城に遷宮した。昭和5年老朽化のため若宮八幡宮に合祀、跡碑は忠敬を継いだ忠亮が書いた。

⑩菊間城藩庁舎跡

明治元年、菊間へ転封した水野5万石藩庁舎跡。宇雲の境に後に村役場となし2階建て医局、時の鐘を取り付けた層塔、仮藩庁の公がいなどが完成したが、本庁舎(本丸御殿)は土地を造成し土台を回した段階で廃藩置県を迎えた。用意した資材は初代千葉県庁に転用された。土塁や空堀、建物跡などが窺われる。

⑪元神官根本邸跡

旧菊間若宮八幡宮神官邸跡地、明治2年国入りした水野忠敬が1年半に渡って仮住居とした。

⑫藩知事水野忠敬住居跡

明治4年建造の水野忠敬住居跡。古写真は質素な構えを伝える。忠敬は5か月後に藩知事の職を解かれ東京へ招集されたが、跡地は別荘として引き続き水野家が所有、戦時の一時期、家族が疎開されたこともあった。

⑬大殿様水野忠寛御殿跡と周辺藩士邸跡

明治2年、藩主水野忠敬に変わって築城を指揮した先々代忠寛の住居跡。忠寛は13代将軍家定の側用人で井伊直弼の側近として活躍したが、直弼の横死で先脚隠居市原転封時62才であった。いまも跡地一帯を「御殿」という。隠居御殿下屋敷として作られたがその後の所在は不詳。土塁、空堀一部が現存、周辺藩士邸を含めた一角は升形、五の字道など武家屋敷街特有の地形を残している。

⑭藩校明親館跡と高柳先生碑

藩校は藩士子弟の専用学校。沼津時代の文久年間、14代忠誠が創建、転封のためいったん江戸の浜町藩邸に移し、明治3年菊間に再移転した。跡地のバスターミナルに藩校舎、大厩の台地上は馬場、維新後菊間小学校として明治25年まで使用された。

⑯千光院と石造物

新義真言宗の寺、寺伝は鎌倉末期市内犬成(喜多ともいう)の地で創建、長享2年日泰上人に帰依した土気城主酒井定隆の「七里法華」を拒んで現在地に移転したという。山門近くに巡拝塔が並ぶ。千光院は88番で讚岐大窪寺の移し、明治維新時に

合併した東漸院は74番で甲山寺、観音寺は71番で弥勒寺、月光院は72番で万葉羅寺の移し、ほかに庚申塔や宝きょう印角柱宝塔などがある。

⑰菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道

築城で最初に手掛けたのが沼津の家屋敷を取り壊した古材や家財が運びあがるための村田川荷揚げ場と城中央部にかけての大空堀の整備であったという。現在も巨大スロープが城地を横切っている。

⑱手永貝塚跡

縄文時代の遺跡に手永貝塚と実信貝塚があった。菊間台下の終末処理場や少年野球練習場となった手永貝塚に隣接して住居跡や集団墓地が発掘され、縄文時代からの集落形成を裏付けた。また、低地に広がる水田からは弥生時代中後期の土器も出土している。

⑲北斗池跡

元和元年灌漑用水のめ池として構築した。菊間城構築にあたり「四神相応」の地形にあてはめ城地に組み込まれた。池跡近くの弁財天は池や川などの水神として奉られる。かつて池の中島に立てられていたものを戦時中、村長と区長が再建した。

⑳福寿寺と菊間のお地藏さん

真言宗豊山派で、元八幡万徳寺末寺、寺伝は南北朝時代創建とする。万治3年地藏像は丸彫りの立像だが、台石は明和9年十九夜講中とあり後補。大型の宝きょう印落し四国遍路87番讚岐志度寺の移しがある。

㉑戒誓院と石造物

同じく元万徳寺末寺、上総の四国霊場巡り78番札所で讚岐道場寺(現郷照寺)

㉒若宮道祖神社

道祖神は道路の悪霊を防ぎ、旅行の安全を守護した。

㉓山木坂と旧道

山木坂は八幡と潤井戸を結ぶ脇往還に立地した。正真正の伊南ルートは浜野、草刈を経由したが、距離が短く便利な連絡道として利用された。途中、坂上からは萩作、神崎方面から大厩の現在辰巳団地をへて久々津、潤井戸へと通じた。急坂で荷物の運搬に苦労したが継ぎ立て経費の節約になったともいう。辰巳通りとほぼ並行する山木坂は道幅も狭く周囲に旧家や寺も点在し、古道の雰囲気が残っている。

㉔山木の菊間団地上からの景観

好天の日は臨海工場越しに富士山が望める。

(2)草刈、古市場、山木、辰巳地区

- ①草刈堰と中川溝
- ②武田邸(市登録文化財)
- ③常德院と石造物\*
- ④妙永寺と石造物\*
- ⑤白幡神社と山木分校跡
- ⑥草刈古墳群

旧市原村地区17選

- ①光善寺と応永型石とうろう\*
  - ②柳橋神事と麦飯石
  - ③古代条里制遺跡と柳橋巡行の道
- 市原台地、菊間台地から海岸部にかけての平地は一片100mほどの水田が広がる。発掘調査の結果地下1mに古代水田を検出、縄文時代から中近世におよぶ広い年代の農耕機具や陶磁器などが出土し古代条里制が確認された。この古代大道岡八幡宮の巡行の道となっている。
- ④市原城跡(ゆうがい山)
  - ⑤能満城跡\*
  - ⑥白船城跡
  - ⑦能満村堰と灌漑水路



次回(第4回)「現地巡見」のご案内

「柳楯神事」の里を歩く

- ⑧阿須波神社と万葉碑
- ⑨市原八幡宮
- ⑩釈蔵院と石造物
- ⑪府中日吉神社\*
- ⑫大多喜(鶴舞)往還
- ⑬古甲遺跡

上総国府候補地の1つ、地名は古国府、隣接する竹の内は館の内の転化が考えられる。発掘調査で平安後期以降とされる掘っ立て柱建物跡も検出された。

- ⑭郡本八幡宮と石造物
- ⑮市原市埋蔵文化財センター
- ⑯稲荷台1号古墳記念公園\*
- ⑰古代官道

6) その他

- ①「市原の古文書研究\*第5集」増刷 5セット程度余裕 ✓
- ②城を歩く会(本部・東京)
- (1)9月18日=\*文科省地下に残る江戸城の石垣をみる、浅野内匠自刃の地、第3台場
- (2)10月19、20日=福井、琵琶湖方面の城を歩く  
 主要コース=新幹線、米原から観光バス、あわら温泉宿泊(参加費=5万円程度)  
 \*安土城、信長の館、\*彦根城、一乗谷朝倉館、\*丸岡城、福井城、北の庄城  
 (\*印山岸案内担当)
- ③11月(9)日、2月行事=「\*小田原城大外郭の大堀切と小田原城を歩く」下見します。  
 希望者あればどうぞ。

以上

会報 第2号 1月1日発行  
 万葉集

- 1) 期日 11月 9日(火曜日) =集合は「八幡公民館」です
- 2) タイムスケジュール(予定=変更することがあります)

9時30分~10時50分 八幡公民館視聴覚室「教室講座」

- ①飯香岡八幡宮「柳楯神事」
- ②本日のご案内コースとみどころ

\*悪天候の場合=11時30分まで講座を延ばし、午後の現地巡見を中止または縮小します。実施可否決定は午前の講座中に行ないます

- 11時00分 昼食休憩(弁当持参、コンビニ購入者は公民館利用可能)
- 11時57分発 八幡宿駅東口バス停集合、辰巳団地行き乗車
- 12時00分着 山木坂下降車、山木坂、山木城、新田川の堰、市原城

光善寺、市原公民館(山越国臣先生)トイレ  
 大多喜街道、柳楯司山越家前、八幡神社  
 阿須波神社、万葉句碑、条里制遺跡、柳楯巡行コース遠望  
 解散(希望者は後出、柳楯巡行コースへ)

- 14時40分ころ
- 15時ころ

山木坂下または市原坂下バス停から乗車  
 山木坂下(20分間隔=コンビニトイレ利用可能)  
 市原坂下(14時38分または15時10分)

15時すぎ 八幡宿駅東口着  
 希望者による柳楯巡行コース(およそ60分=途中リタイヤ、五所からバス利用自由)  
 たんぼの中の道、五所小学校、五所公民館、白金通り、新宿橋、八幡公民館

3) 現地巡見の持ち物と服装、注意事項

- ①飲み物、筆記道具。携帯雨具や服装は当日の天候を注意して決めてください。
- ②途中、車量の多い箇所があります。各自十分ご注意ください。  
 現地解散となります。けが、事故のないよう気を付けてお帰りください。
- ③原則として現地への車利用はできません。ただし、特別な事情ある場合はお申し出ください。
- ④参加できなくなった方は公民館にお知らせください。(通常と同じです)  
 雨天実行可否は午前の講座内で決定します。前日や朝問い合わせないでください。









1) 今後のスケジュール

- (1) 7月20日(火曜日) 9時～ 放生の池周辺の清掃
- (2) 7月27日(火曜日) 9時30分～ 八幡史学館講座②
- (3) 8月3日(火曜日) 所用のためお休みとしたい
- (4) 8月17日(火曜日) 9時～ 放生の池周辺の清掃
- (5) 9月7日(火曜日) 13時30分～ 第26回打ち合わせ
- (6) 9月14日(火曜日) 9時30分～ 八幡史学館講座③

2) 八幡の歴史研究

- ① 市埋蔵文化センターによる条理制遺跡発掘調査
  - (1) スポレク南隣、八幡から菊間間道路工事とともに事前調査
  - (2) 8月末ころまで、終了箇所から埋め戻し
  - (3) 現地は元湿地帯で遺跡は少ないとのことであった (近所)
- ② 「寛政譜」足利流喜連川家と足利義明
  - (1) 関東管領家、古河公方家
  - (2) 足利義明十五沢村に葬る
  - (3) 孫娘の秀吉側室と足利喜連川家の再興
  - (4) 宮原御所
- ③ 水野家系図と真珠院墓所
  - (1) 華族家系大系?
  - (2) 伝通院=浄土宗。増上寺、寛永寺と大江戸3霊山。家康生母お大の墓所で法号を名乗る。将軍家女性墓所で、千姫、孝子らの墓がある。
  - (3) 真珠院=元塔頭、伝通院隠居寺。お大生家水野家が開基、初代忠清の法号を名乗る。沼津菊間家は歴代藩主墓を連ね、支藩鶴牧家は初代忠増に合祀している。
- ④ 「市原の古文書研究第5集」に載せた梅谷家文書は人身売買「身売り奉公」だった。「船橋市史」の元編集者から指摘された。

3) 飯香岡八幡宮宝蔵庫調査結果(中間報告)

- ① 正式写真は北島さんが作成中(パソコン修正)
- ② 展示品 ほぼまとめ終わった
- ③ 2階収蔵絵馬 解説作業中(◎=資料的価値が高い絵馬)
  - (1) 絵馬合計26点、20年前資料と整合、新発見絵馬2点
  - ◎明治36年=◎明治天皇カ陸軍兵士閱兵?
  - ◎平成4年=◎享保3年ほか小絵馬8点合わせ額
  - (2) 江戸時代のもの4点+1? (上出小絵馬額を除く)
  - ◎文化11年=◎富士まき狩り ◎安政2年=◎八幡神親子礼拝
  - ◎天保2年=◎瀬田の唐橋 ◎江戸時代カ=伊勢参宮とこんぴら参詣図
  - 文政2年=◎三国志人物図
- ④ そのほか郷土資料としてとくに注目したいもの
  - ◎明治19年=◎上総名所、八幡神社 ◎明治36年=◎難船図
  - ◎明治中期=◎八幡浦五大力船と蒸気船 ◎明治22年=◎女衆御幣礼拝図

4) やわた名所百選の選定

- ① 本文作成中 次回に打ち合わせします

5) その他

以上



◎身売り奉公カ拝借人書付(年号無記、江戸後期か中紙)  
身売り奉公とみられる拝借人書付、残念ながら差し出し人、あて先、作成年月を欠き、郷土のかかわりも不明。幕府は人身売買を禁止したが、領主の過酷な収奪下にあった貧困農村部を中心に年季奉公という名目の売女が半ば公然と横行した。文中の証文は「身請け奉公人請け状」のこと。哀しい近世史を垣間みせる貴重な一枚といえる。

お菊、お光、お覚、お佳、お啓、お公、お鶴

拝借人

鳥渡(ちよと) 申し上げ候、まずもって皆々様方  
お揃いご機嫌克(よく)遊ばされ、珍重の  
御儀に存じ奉り候、しからば明(昨カ)日は  
段々お世話に預かり、ありがたき仕合(幸せ)に存じ奉り候  
今日私参るべく管のところが廻(よんどころ)なき用向きござ候  
□□(まずもってカ)願いの儀申し上げ候、右のとおりにて  
□□(証文カ)この者にお渡し申し候、右お札  
の儀、貴面の節申し上げ候。以上

江戸後期(年号無記) 八幡梅谷家文書  
身売り奉公カ拝借人書付





源頼朝伝説の  
「逆さいちょう」

やわた名所百選

飯香岡八幡宮「神木」の1本。

治承4年（1180）、平氏追討のため伊豆に兵を挙げた源頼朝は一度は石橋山の戦いに敗れて安房に逃れたが、東国武士の支援をえて鎌倉をめざす。

社伝によれば、下総の千葉常胤を尋ねる途中本宮に参詣して「いちょう樹を逆さに植え」「この木もし活着せば大願成就せん」と源氏再興を祈願された。この「いちょう樹を「逆さいちょう」という。



1) 連絡、報告事項など

① 今後のスケジュール

- (1) 5月18日(火曜日) 9時～ 放生の池周辺の清掃
- (2) 6月1日(火曜日) 13時30分～16時 第24回打ち合わせ
- (3) 6月15日(火曜日) 9時～ 放生の池周辺の清掃
- (4) 7月6日(火曜日) 13時30分～16時 第25回打ち合わせ
- (5) 7月20日(火曜日) 9時～ 放生の池周辺の清掃

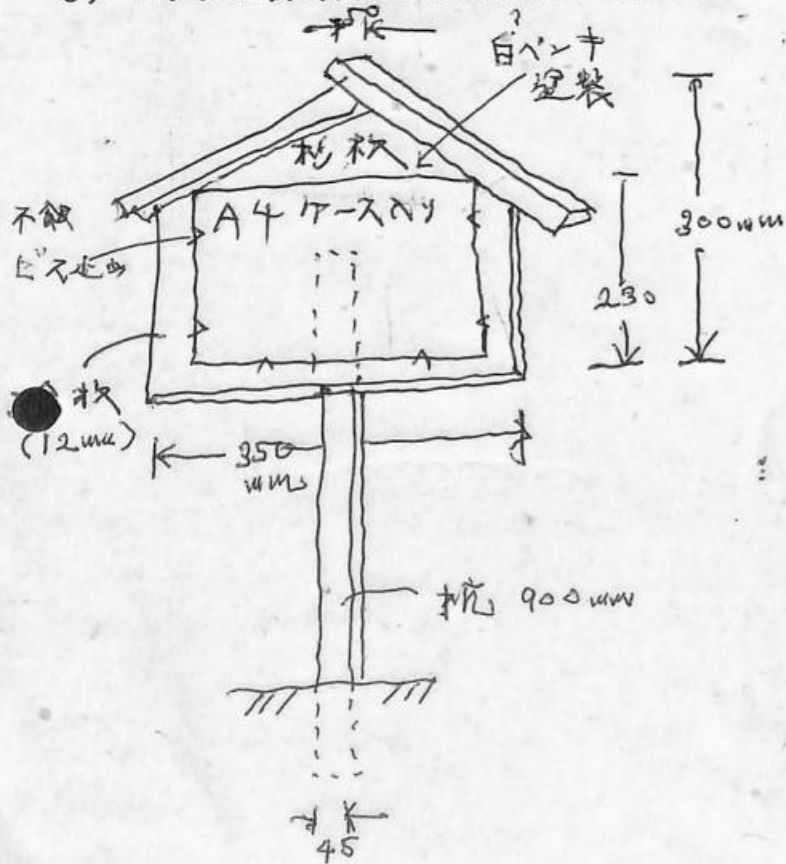
② 公民館主催事業の受け付け

- (1) 5月18日(火曜日) 8時30分～ 八幡公民館「八幡史学館」
- (2) " " " 辰巳公民館「江戸城と大江戸八百八町②」

2) 「会報=やわた名所百選」

- ① 不定期刊。第2号は10月ころか。  
会員は有償100円、篤志者いたら100円。
- ② 会員5セツキ。たりない方は申し出てください。いつでも増刷します。  
PR版を兼ねています。友だちなど自由にお配りください。
- ③ 原稿募集。八幡のことならなんでもOK。  
次回インタビューは清水アキ子さん(八幡の海と私)を予定

3) 「やわた名所百選」史跡看板の試作



高札型看板



4) 前回調査の評価

- 大せき
- 郡本八幡宮と石造物
- 市原市埋蔵文化財センター
- 能満村せき
- 稲荷台1号古墳記念公園
- 古代官道
- 菊間藩士開墾社跡
- 山倉ダム

5) これまでの総括

- ① 八幡地区 43選 (省略=工場の景観カット)
- ② 五所地区 12選 (省略)
- ③ 菊間地区 20選
  - ◎若宮コーロ塚公園巨人伝説と頂上の石仏、◎菊間八幡宮社と石造物
  - ◎菊間天神山古墳、◎姫宮古墳、◎北野天神山古墳、◎東関山古墳
  - ◎菊間廃寺跡、◎菊間城新坂と菊間出途道、◎松翁稲荷社跡
  - ◎菊間城藩庁舎跡、(医局跡、藩藩庁舎予定地、2の丸相当? 旧村役場跡)
  - ◎元神官根本邸、◎本丸水野忠敬住居跡、◎藩校明親館、菊間小創設の地と高柳碑
  - ◎千光院と石造物、◎菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道、◎手永貝塚跡
  - ◎北斗池跡、◎戒誓院と石造物、◎福寿寺、菊間のお地藏さんと石造物
  - ◎若宮道祖神社
- ④ 草刈、古市場、山木、辰巳地区 8選
  - ◎草刈堰と中川溝、◎武田邸、◎常德院と石造物、◎妙永寺と石造物
  - ◎白幡神社と山木分校跡、◎草刈古墳群、◎山木坂と旧道
  - ◎山木の菊間団地上からの景観
- ⑤ 市原、能満、山田橋地区 13選
  - ◎光善寺と応永型石とうろう、◎柳楯神事と麦飯石
  - ◎市原村の古道と柳楯神事の道、◎市原城跡(ゆうがい山)
  - ◎能満城跡、◎白船城跡、◎能満村堰と灌漑用水路、
  - ◎阿須波神社と万葉碑、◎市原八幡宮、◎釈蔵院と石造物
  - ◎府中日吉神社、◎大多喜(鶴舞)往還、◎古甲遺跡

合計数  
既決定分 96 (①~⑤の合計)  
前回調査分  
合計

次回、八幡、菊間、市原3地区に再配分、全体を総括して見直す

以上



1) 連絡、報告事項など

① 今後のスケジュール

- |                           |           |
|---------------------------|-----------|
| (1) 5月18日 (火曜日) 9時~       | 放生の池周辺の清掃 |
| (2) 6月1日 (火曜日) 13時30分~16時 | 第24回打ち合わせ |
| (3) 6月15日 (火曜日) 9時~       | 放生の池周辺の清掃 |
| (4) 7月6日 (火曜日) 13時30分~16時 | 第25回打ち合わせ |
| (5) 7月20日 (火曜日) 9時~       | 放生の池周辺の清掃 |

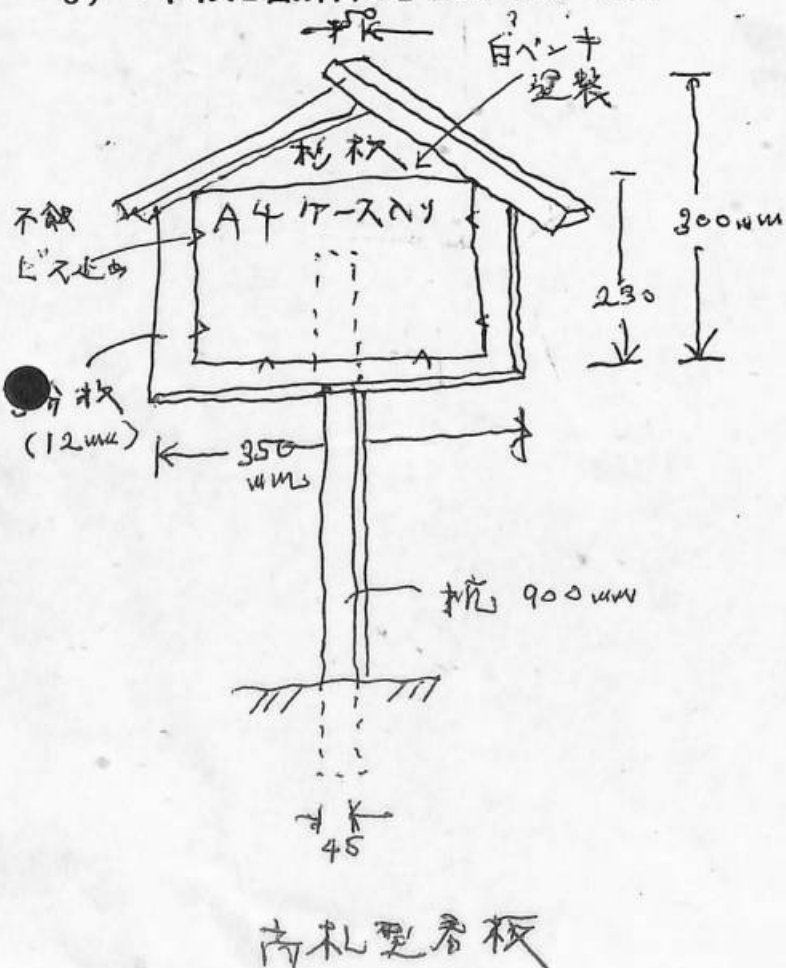
② 公民館主催事業の受け付け

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| (1) 5月18日 (火曜日) 8時30分~ | 八幡公民館「八幡史学館」        |
| (2) " " "              | 辰巳公民館「江戸城と大江戸八百八町②」 |

2) 「会報=やわた名所百選」

- ① 不定期刊。第2号は10月ころか。  
会員は有償100円、篤志者いたら100円。  
② 会員5セツキ。たりない方は申し出てください。いつでも増刷します。  
PR版を兼ねています。友だちなど自由にお配りください。  
③ 原稿募集。八幡のことならなんでもOK。  
次回インタビューは清水アキ子さん(八幡の海と私)を予定

3) 「やわた名所百選」史跡看板の試作



4) 前回調査の評価

- △ □ 大せき
- ◎ □ 郡本八幡宮と石造物
- ◎ □ 市原市埋蔵文化財センター
- △ □ 能満村せき
- ◎ □ 稲荷台1号古墳記念公園
- 古代官道 市原市と市原市
- △ □ 菊間藩士開墾社跡
- × □ 山倉ダム

かーい X

5) これまでの総括

- ① 八幡地区 43選 (省略=工場の景観カット)
  - ② 五所地区 12選 (省略)
  - ③ 菊間地区 20選
    - ◎ 若宮コーロ塚公園巨人伝説と頂上の石仏、◎ 菊間八幡宮社と石造物
    - ◎ 菊間天神山古墳、◎ 姫宮古墳、◎ 北野天神山古墳、◎ 東関山古墳
    - ◎ 菊間廃寺跡、◎ 菊間城新坂と菊間出途道、◎ 松翁稲荷社跡
    - ◎ 菊間城藩庁舎跡、(医局跡、藩藩庁舎予定地、2の丸相当? 旧村役場跡)
    - ◎ 元神官根本邸、◎ 本丸水野忠敬住居跡、◎ 藩校明親館、菊間小創設の地と高柳碑
    - ◎ 千光院と石造物、◎ 菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道、◎ 手永貝塚跡
    - ◎ 北斗池跡、◎ 戒誓院と石造物、◎ 福寿寺、菊間のお地藏さんと石造物
    - ◎ 若宮道祖神社
  - ④ 草刈、古市場、山木、辰巳地区 8選
    - ◎ 草刈堰と中川溝、◎ 武田邸、◎ 常德院と石造物、◎ 妙永寺と石造物
    - ◎ 白幡神社と山木分校跡、◎ 草刈古墳群、◎ 山木坂と旧道
    - ◎ 山木の菊間団地上からの景観
  - ⑤ 市原、能満、山田橋地区 13選 +3
    - ◎ 光善寺と応永型石とうろう、◎ 柳楯神事と麦飯石
    - ◎ 市原村の古道と柳楯神事の道、◎ 市原城跡 (ゆうがい山)
    - ◎ 能満城跡、◎ 白船城跡、◎ 能満村堰と灌漑用水路、
    - ◎ 阿須波神社と万葉碑、◎ 市原八幡宮、◎ 釈蔵院と石造物
    - ◎ 府中日吉神社、◎ 大多喜 (鶴舞) 往還、◎ 古甲遺跡
- 合計数  
既定決定分 96 (①~⑤の合計) +3  
前回調査分 99  
合計

次回、八幡、菊間、市原3地区に再配分、全体を総括して見直す

以上



1) 連絡、報告事項など

① 本日の予定

- (1)旧市原地区100選候補現地調査見学(追加)
- (2)雨天の時=八幡公民館で打ち合わせ

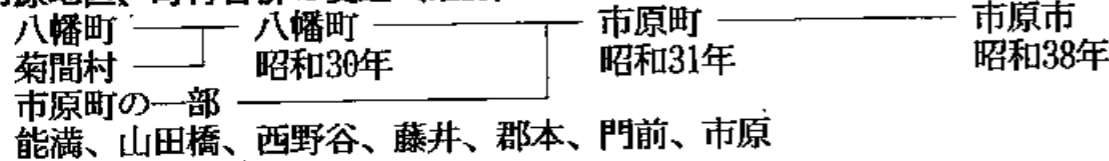
② 今後のスケジュール

- (1)3月16日(火曜日)9時~ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (2)4月6日(火曜日)13時30分~ 第22回打ち合わせ
- (3)4月20日(火曜日)9時~ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (4)5月4日(みどりの日)13時~ 第23回打ち合わせ

③ 飯香岡八幡宮の行事

- (1)3月15日(木曜日)春季大祭 午後宝蔵庫一般公開(展示物調査)

2) 市原地区、町村合併の変遷(確認)



3) 旧市原地区100選候補現地調査見学

- ① 能満、郡本<sup>⑤</sup>埋蔵文化財センター<sup>④</sup>能満村堰、稲荷台1号古墳公園、古代官道
- ② 郡本八幡宮と石造物<sup>①</sup>大せき<sup>②</sup>山田橋<sup>③</sup>山田橋177?
- ③ 山田橋<sup>④</sup>山倉ダム<sup>⑤</sup>水野藩開墾社跡(現入り口駐車場)

雨天の場合(現地調査実施の場合は4月になります)

4) 市原の古文書研究\*第5集(市原の古文書研究会=姉妹グループ)

- ① 4月1日発行。B5版302P。限定80部。2500円(予定=多少安く?)
- ② 趣旨=市内、主に八幡地区新文書の掘り起こしと活字化  
飯香岡八幡宮、八幡寺嶋医院(名主)、八幡梅谷家(一般)、勝間深山家文書
- ③ 引き続き計画中の文書  
五所今井家(塩田名主)、八幡片町町有、八幡教育センター南洞文庫、  
五所藤田家、菊間岡田家文書、八幡市川本店文書
- ④ 菊間若宮八幡宮旧名主家文書調査(およそ2000点)  
◎木更津県押印資料、◎歴代將軍朱印状写し、神主叙任状、のりなど神社資料、  
◎別当若宮寺関連資料、神社運営関連資料、◎幕府通達文、◎年貢関連資料、  
◎道中手形、◎人請け証文、質地証文、借用書など  
当家は明治はじめの1年間半菊間藩主水野忠敬住居となるが、関連資料はなかった。

5) 「会報=やわた名所百選」の創刊(4月に出来上がり見本を提示します)

- ① 会報+PR紙。内容=八幡の歴史、100選PR
- ② B5版、8~12Pジョイフルコピー(または市民活動センター軽印刷)
- ③ 4月創刊(目標)、とりあえず不定期(できれば定期に)。編集担当山岸
- ④ 横組2段、表紙はやわたむかし写真館  
創刊号内容=小出さんインタビュー・私と八幡、100選・選定作業進む、  
やわたの100選、八幡歴史ホットニュース、八幡の歴史  
佐倉さん(毎号)、投稿、行事や関係チーム情報など
- ⑤ 会員は有償100円(PR用含め5部)、篤志者100円、一般は無料  
当面100部、経費2、3千円
- ⑥ 原稿募集

6) 前回現地調査箇所評価(菊間地区追加)

- ① 草刈地区  
(1)弥生公園(草刈古墳群+川焼不動尊)、(2)行光寺(+大宮神社)
- ② 辰巳地区  
(1)三山児童公園(三山塚)、(2)辰巳中央公園(開発記念碑+辰巳神社)
- ③ 山木地区  
(1)常德院と木造聖観音菩薩座像(非公開)、(2)妙永寺と石造物  
(3)白旗神社と山木分校跡、(4)山木坂と旧道(東条邸周辺)、(5)若宮道祖神社  
(6)若宮団地上からの景観(富士山遠望写真=高沢さん提供)

7) 「八幡名所百選」の選定

- ① 八幡地区 4選+五所地区 12選=56選決定、目標100まで残り44選
- ② 菊間地区 1選+未定12選  
◎若宮コーロ塚公園巨人伝説と頂上の石仏、◎菊間八幡宮社と石造物  
◎菊間天神山古墳、◎姫宮古墳、◎北野天神山古墳、◎東関山古墳  
◎菊間廃寺跡、◎菊間城新坂と菊間出途道、◎松翁稲荷社跡  
◎菊間城藩庁舎跡、医局跡、藩藩庁舎予定地、2の丸相当、旧村役場跡  
◎元神官根本邸、◎本丸水野忠敬住居跡、◎藩校明親館、菊間小創設の地と高柳碑  
◎千光院と石造物、◎菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道、◎手永貝塚跡  
◎北斗池跡、◎戒誓院と石造物、◎福寿寺、菊間のお地藏さんと石造物  
◎若宮道祖神社  
(前回削除=大六天と大手門跡)
- ③ 草刈、古市場、山木、辰巳地区 3選+未定6選  
◎草刈堰と中川溝(村田川の灌漑用水、慶長年間説、元和8年説)  
◎武田邸(市登録文化財第1号、大正5年建築)  
◎常德院と石造物(+非公開の造聖観音菩薩座像)  
◎妙永寺と石造物  
◎白旗神社と山木分校跡  
◎辰巳三由碑  
◎草刈古墳群  
◎山木坂と旧道  
◎山木の菊間団地上からの景観(若宮団地、工場群、富士山)  
(前回削除=高島1本橋)
- ④ 市原、能満、山田橋地区 13選+未定4選  
◎光善寺(廃寺、薬師堂、仏像)と応永型石とうろう(県内最古の室町前期)  
◎柳橋神事と麦飯石(飯香岡八幡宮創建神話に符号)  
◎市原村の古道と柳橋神事の道\*(3か所合併できないか)  
◎市原城跡(ゆうがい山)  
◎能満城跡(古代国が推定地)  
◎白船城跡  
◎能満村堰と灌漑水路  
◎阿須波神社と万葉碑(万葉伝説)  
◎市原八幡宮(飯香岡八幡宮ゆかり=前身説も)  
◎釈蔵院と石造物(付=中世文書)(真言宗古刹、札所)  
◎府中日吉神社(府中伝説)  
◎大多喜(鶴舞)往還旧道(市原城を迂回カ)\*  
◎古甲遺跡  
□市原市埋蔵文化財センター(遺跡、遺物の調査研究、保存など=出土品を展示室)  
□稲荷台1号古墳記念公園  
□古代官道(埋め戻され地形偲ぶ程度)  
□郡本八幡宮  
(前回削除=柳橋司家、\*要救済検討=築里制跡)



1) 連絡、報告事項など

① 本日の予定

- (1)草刈、菊間、辰巳地区100選候補現地調査見学
- (2)雨天の時=八幡公民館で打ち合わせ

② 今後のスケジュール

- (1)2月16日(火曜日)9時~ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (2)3月2日(火曜日)13時~ 第21回(現地調査見学)
- (3)3月16日(火曜日)9時~ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (4)4月6日(火曜日)13時30分~ 第22回打ち合わせ

③ 飯香岡八幡宮の行事

- (1)2月3日(水曜日)18時~ 節分会
- (2)3月10日 春季大祭、宝蔵庫一般公開(展示物調査)

2) 草刈、菊間、辰巳地区100選候補現地調査見学

① 草刈地区

- (1)草刈古墳群
- (2)

② 辰巳地区

- (1)三山講
- (2)開発記念碑(友納県知事)

③ 山木地区

- (1)常徳院と木造聖観音菩薩座像(非公開)
- (2)妙永寺と石造物
- (3)白旗神社と山木分校跡
- (4)山木坂と旧道(東条邸周辺)
- (5)若宮道祖神社
- (6)若宮団地上からの景観

3) 市原、山田橋地区現地調査見学(次回予定)

- ① 市原=埋蔵文化財センター、能満村堰、稲荷台1号古墳公園、古代官道郡本八幡宮と石造物
- ② 山田橋=山倉ダム、水野藩開墾社跡

4) 「八幡名所百選」の選定

- ①八幡地区44選+五所地区12選=56選決定

目標100まで残り44選

- ②菊間地区・19選+未定1

- ◎若宮コーロ塚公園と頂上の石仏(巨人伝説)
- ◎菊間八幡宮社と石造物(古式神社、いちょう、手水石、三山碑、隋身立像)
- ◎菊間天神山古墳(市指定文化財、6世紀、円筒埴輪出土)
- ◎姫宮古墳(市指定文化財、昭和天皇近衛演習天覧の地、前方後円墳)
- ◎北野天神山古墳
- ◎東関山古墳
- ◎菊間廃寺跡
- ◎菊間城新坂と菊間出途道(明治3年、水野忠敬が新大手道とする)
- ◎松翁稲荷社跡(跡碑、土塁、土壇=江戸藩邸から移築)
- ◎菊間城藩庁舎跡(医局跡、藩藩庁舎予定地、2の丸相当、旧村役場跡)
- ◎元神官根本邸(水野忠敬仮住居)跡と根本家の墓
- ◎本丸水野忠敬住居跡(地形、土塁残欠)

- ◎藩校明親館、菊間小学校創設の地と高柳先生の碑
- ◎千光院と石造物(七里法華で移る、巡拝塔、庚申塔)
- ◎菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道
- ◎北斗池跡(農業灌漑用水、菊間城水濠跡=四神相応の構え)
- ◎戒誓院と石造物(旧霊応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)
- ◎福寿寺、菊間のお地藏さんと石造物(大型宝きょう印塔など)
- ◎手永貝塚跡(菊間終末処理場)
- 若宮道祖神社(高沢さん情報あり)

(前回削除=大六天と大手門跡、

- ④草刈、古市場、山木、辰巳地区 3選+未定6

- ◎草刈堰と中川溝(村田川の灌漑用水、慶長年間説、元和8年説)
- ◎武田邸(市登録文化財第1号、大正5年建築)
- ◎常徳院と石造物(+非公開の造聖観音菩薩座像)
- 妙永寺と石造物
- 白幡神社と山木分校跡
- 辰巳三山碑
- 草刈古墳群
- 山木坂と旧道
- 山木の菊間団地上からの景観(若宮団地、工場群、富士山)
- (前回削除=高島1本橋)

- ⑤市原、能満、山田橋地区 13選+未定4

- ◎光善寺(磨寺、薬師堂、仏像)と応永型石とうろう(県内最古の室町前期)
- ◎柳橋神事と麦飯石(飯香岡八幡宮創建神話に符号)
- ◎市原村の古道と柳橋神事の道\*(3か所合併できないか)
- ◎市原城跡(ゆうがい山)
- ◎能満城跡(古代国が推定地)
- ◎白船城跡
- ◎能満村堰と灌漑用水路
- ◎阿須波神社と万葉碑(万葉伝説)
- ◎市原八幡宮(飯香岡八幡宮ゆかり=前身説も)
- ◎釈蔵院と石造物(付=中世文書)(真言宗古刹、札所)
- ◎府中日吉神社(府中伝説)
- ◎大多喜(鶴舞)往還旧道(市原城を迂回カ)\*
- ◎古甲遺跡
- 市原市埋蔵文化財センター(遺跡、遺物の調査研究、保存など=出土品を展示室)
- 稲荷台1号古墳記念公園
- 古代官道(埋め戻され地形偲ぶ程度)
- 郡本八幡宮
- (前回削除=柳橋司家、\*要救済検討=築里制跡)

5) 「会報=やわたじゅく(仮)」の創刊

- ① 会報+100選推進PR紙。内容=八幡の歴史、100選PR
- ② B5版、8~12Pジョイフルコピー(または市民活動センター軽印刷)
- ③ 4月1日創刊号、当面年4回発行。編集担当山岸
- ④ 立て組2段、表紙は八幡の写真(北島担当)
- 創刊号内容=小出さんインタビュー・私と八幡、100選・選定作業進む、やわたの100選①八幡港跡(江戸時代の港と五大力船)、本多正純と八幡、佐倉さん(毎号1テーマ1P)、投稿、会のうちそと(行事や関係チーム情報)
- ⑤ 会員は有償100円(PR用含め5部)、篤志者100円、一般は無料
- 当面100部、経費2、3千円
- ⑥ 創刊号原稿募集

以上



1) 連絡、報告事項など

① スケジュール

- (1) 1月19日(火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃 (日変天注意)
- (2) 2月2日(火曜日) 13時00分～ 第20回打ち合わせ
- (3) 2月16日(火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (4) 3月2日(火曜日) 13時30分～ 第21回打ち合わせ

② 平成22年度八幡公民館の主催事業(山岸)

- (1) 八幡公民館「八幡史学館」6月8日、7月27日、9月14日(以上教室講座)
- 11月9日(市原地区巡見)

2) 参考資料と新情報

① 市原の城郭と国府跡をたずねて(資料参照=高沢さん提供)

- (1) バス停郡本→古甲遺跡→門前貝塚→能満城→府中日吉神社→馬場の内館跡→甲田→市原城(要谷→光善寺→阿須波神社)→市原古道→条里制遺跡→山木入り口(解散)

② 菊間コミュニティセンターだより\*一步散策、菊間の歴史(菅勇栄)

- (1) 古墳時代と手永遺跡、(2) 鍛冶屋前遺跡、(3) 菊間国造と古墳群、(4) 新皇塚古墳と将門塚、(5) 阿波能須神社、(6) 大六天神社、(7) 天王様、(8) 妙見様、(9) 若宮道祖神、(10) 西崎堂墓地、(11) 以降は前回配付済み

③ 菊間城とその周辺(新年度八幡史学館に使用)

- (1) 字雲の境公園から菊間城を読む
- (2) 岡田家文書=土地台帳(水野忠敬所有地カ) 藩主邸跡、藩庁舎跡など
- (3) 神官根本家文書=近世八幡、菊間地区第1級文書発見

3) 追加調査(今回は早くから天気予報不良のため企画しませんでした)

- ① 山木=常德院と木造聖観音菩薩座像(非公開)、妙永寺、白幡神社
- ② 辰巳=辰巳神社と開発記念碑
- ③ 草刈=草刈古墳群
- ④ 市原=埋蔵文化財センター、能満村堰、稲荷台1号古墳公園、古代官道
- ⑤ 山田橋=山倉ダム?、能満霊園?

4) 「八幡名所百選」の選定

- ① 八幡地区 44選 省略
- ② 五所地区 12選 省略

③ 菊間地区 18選+追加候補2 土ま

- ◎若宮コーロ塚公園と頂上の石仏(巨人伝説)
- ◎菊間八幡宮社と石造物(古式神社、いちょう、手水石、三山碑、隨身立像)
- ◎菊間天神山古墳(市指定文化財、6世紀、円筒埴輪出土)
- ◎姫宮古墳(市指定文化財、昭和天皇近衛演習天覧の地、前方後円墳)
- ◎北野天神山古墳
- ◎東関山古墳
- ◎菊間廃寺跡
- ◎菊間城新坂と菊間出途道(明治3年、水野忠敬が新大手道とする)
- ◎松翁稲荷社跡(跡碑、土塁、土壇=江戸藩邸から移築)
- ◎菊間城藩庁舎跡(医局跡、藩藩庁舎予定地、2の丸相当、旧村役場跡)
- ◎元神官根本邸(水野忠敬仮住居)跡と根本家の墓
- ◎本丸水野忠敬住居跡(地形、土塁残欠)
- ◎菊間城物見跡と第六天神社(地形、第六天神社、句碑)=■削除?
- ◎藩校明親館、菊間小学校創設の地と高柳先生の碑
- ◎千光院と石造物(七里法華で移る、巡拝塔、庚申塔)
- ◎菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道

- ◎菊間城当初大手道と大手門計画推定地=■削除?
- ◎北斗池跡(農業灌漑用水、菊間城水浸跡=四神相応の構え)
- ◎戒誓院と石造物(旧霊応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)
- ◎福寿寺、菊間のお地藏さんと石造物(大型宝きょう印塔など)

- 追加候補=
- \*冬里制遺跡とサッカーの町(スポーツパーク)
- 手永貝塚跡と菊間終末処理場
- ◎若宮道祖神神社
- 菊間コミュニティセンター(菊間小学校旧地)
- 菊間小学校と郷土資料室?

- ④ 草刈、古市場、山木、辰巳地区 4選+追加候補8
- ◎草刈堰と中川溝(村田川の灌漑用水、慶長年間説、元和8年説)
- ◎武田邸(市登録文化財第1号、大正5年建築)
- ◎村田川旧河川敷(古代河川敷)と■高島の一本橋=削除?

- 追加候補=
- ◎常德院と石造物(+非公開の造聖観音菩薩座像)
- ◎妙永寺と石造物(菊間の古碑も移す)
- 白幡神社と山木分校跡
- 辰巳神社と開発記念碑、若宮
- 草刈古墳群と
- 山木坂相道(辰巳への道)旧道
- 山木の菊間団地上からみた菊間団地と工場群の景観、3山
- 辰巳神社と辰巳団地開発記念碑

- ⑤ 市原、能満、山田橋地区 1選+追加候補1
- ◎光善寺(廃寺、薬師堂、仏像)と応永型石とうろう(県内最古の室町前期)
- ◎柳橋神事と麦飯石(飯香岡八幡宮創建神話に符号)
- ◎市原村の古道と柳橋神事の道
- ◎市原城跡(ゆうがい山)
- ◎能満城跡(古代国が推定地)

- \*◎白船城跡
- \*◎能満村堰と灌漑用水路
- ◎柳橋神事司家(2家=柳橋作成を伝承)
- ◎阿須波神社と万葉碑(万葉伝説)
- ◎市原八幡宮(飯香岡八幡宮ゆかり=前身説も)
- ◎釈蔵院と石造物(付=中世文書)(真言宗古刹、札所)
- ◎府中日吉神社(府中伝説)

- ◎\*◎市原市埋蔵文化財センター(遺跡、遺物の調査研究、保存など=出土品を展示室)
- ◎\*◎稲荷台1号古墳記念公園(王賜銘鉄剣出土)
- ◎\*◎古代官道(埋め戻され地形偲ぶ程度)
- ◎\*◎大多喜(鶴舞)往還旧道(由緒不明) (アスファルト敷き)
- ◎古甲遺跡
- 追加候補
- ◎郡本八幡宮(土ま)

- 7) 今後の計画(資金ゼロでとりあえずここまでは)
  - ① 100選の選定
  - ② 100選ちらしの作成
  - ③ 第1次100選看板の作成(八幡宮でテスト)
  - ④ 広報活動=新聞、駅ギャラリー、八幡公民館
- 以降の展開は実績をふまえて検討

秋目標

以上







1) 連絡、報告事項など

① スケジュール

- (1)12月15日(火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (2)1月10日(火曜日) 13時30分～ 第19回名所百選チーム
- (3)1月24日(火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃

② 中央図書館の「郷土史講座」(佐倉)

- (1)12月13日(日曜日) 13時30分～ 「遠浅の海、思い出すままに」  
中央図書館中央カウンターまたは電話受け付け中。60人。

③ 平成22年度八幡、辰巳公民館の主催事業(山岸)

- (1)八幡公民館「八幡史学館」6月8日、8月(日未定)、9月14日(教室講座)  
11月9日(市原地区巡見)
- (2)辰巳公民館「江戸東京歴史散策」(2回シリーズ=講座、バス見)月日未定  
" 「すこやかカレッジ」(シリーズの内1回=バス見)月日未定

2) 参考資料

① 菊間コミュニティセンターだより\*一步散策(菅勇栄さん=運営会長、町会長)

- (1)菊間八幡神社、(2)福寿院=菊間のお地蔵さん、(3)戒誓寺の石造物、(4)観音堂墓地、  
(5)勝家の石造物、(6)北斗池と弁天碑、(7)藩校高柳先生碑、(8)菊間藩庁跡、松翁稲荷  
(9)第7団地先路傍の馬頭、牛?頭(ごず)観音

② 市原市埋蔵文化財分布地図(教育委員会)主なもの

- (1)八幡五所地区=八幡陣屋跡、八幡浅間神社、八幡御所跡
- (2)菊間、若宮地区=糸里制遺跡、菊間遺跡、貝塚、  
手永遺跡、貝塚、菊間遺跡群、菊間廃寺、新皇塚、東関山、権現山、姫宮古墳。  
菊間藩庁、菊間三山塚、コーロ塚。
- (3)大厩、山木、辰巳地区=辰巳台遺跡、菊間行人塚、大厩遺跡群、大厩古墳群。  
山木遺跡群。
- (4)古市場、草刈地区=古市場念仏塚、草刈遺跡、草刈古墳群、草刈城跡。
- (5)市原、能満地区=市原城跡、郡本遺跡群、光善寺、門前貝塚、市原群が推定地。  
能満遺跡群、能満城(国がカ)
- (6)千草台、稲荷台地区=稲荷台遺跡、稲荷台1号古墳、(古代官道)。  
千草山遺跡、千草山廃寺

③ いちはらの文化財あれこれ\*歴史散歩モデルコース

- A=八幡社寺仏閣の旅(八幡宿駅スタート=2km 2時間)  
飯岡八幡宮→無量寺五輪塔→南総学校碑(教育センター)→若宮八幡神社(元八幡)
- B=柳楯神事の道(バス停山木入り口スタート=4km 3時間30分)  
光善寺→市原八幡神社→市原糸里制道(古道)→五所四反田遺跡(古道)→  
若宮八幡神社(元八幡)
- C=古代道をめぐる(大宮前バス停スタート=3km 3時間20分)  
古甲遺跡→多聞寺五輪塔→郡本八幡神社→古道跡→稲荷台1号墳記念公園→  
埋蔵文化財センター
- D=能満に中世をゆく(山木バス停スタート=3km 3時間50分)  
木造聖観音菩薩坐像(常徳院)→能満城→積蔵院→府中日吉神社→  
埋蔵文化財センター
- F=菊間古墳群を訪ねて(菊間第3バス停スタート=3km 3時間30分)  
菊間千光院→菊間天神山古墳→東関山古墳→北野天神山古墳→姫宮古墳→  
武田家住宅

④ いちはら文化財ガイド、歴史の旅人

- (1)飯香岡八幡宮、立野信之碑、みこし、柳楯神事、夫婦いちょう、大太刀、具足。
- (2)八幡神社、棟札、木造隨身像、(3)府中日吉神社、(4)光善寺石灯籠
- (5)常徳院の木造聖観音菩薩、(6)積蔵院文書
- (7)菊間天神山古墳、(8)姫宮古墳、(9)武田家住宅、(10)市原市埋蔵文化財調査センター

3) 市原地区の100選 前回の確認(\*=未調査)

- ①◎光善寺(廃寺、薬師堂、仏像)と応永型石とうろう(県内最古の室町前期)  
◎柳楯神事と麦飯石(飯香岡八幡宮創建神話に符号)  
◎市原城跡(ゆうがい山)  
◎能満城跡(古代国が推定地)
- \*◎白船城跡
- \*◎能満村堰と灌漑用水路  
◎柳楯神事司家(2家=柳楯作成を伝承)  
◎阿須波神社と万葉碑(万葉伝説)  
◎市原八幡宮(飯香岡八幡宮ゆかり=前身説も)  
◎積蔵院と石造物(付=中世文書)(真言宗古刹、札所)  
◎府中日吉神社(府中伝説)
- \*◎市原市埋蔵文化財センター(遺跡、遺物の調査研究、保存など=出土品を展示室)
- \*◎稲荷台1号古墳記念公園(王賜銘鉄剣出土)
- \*◎古代官道(発掘確認された古代の大道)  
◎市原村の古道と柳楯神事の道  
◎大多喜(鶴舞)往還旧道(山すそ迂回道)
- ②◎古甲遺跡  
◎天神社→能満城の中  
△入市場村道標

②見学していないか所

- \*◎千草山古墳
- \*◎稲荷台周辺の古代道
- \*◎山田橋稲荷神社
- \*◎大堰、小堰(由来は?)
- \* 多聞寺五輪塔

- \* 郡本八幡宮、妙永寺、山木火の見、山木白旗神社、八幡分校、白幡大明神  
白幡小学校、能満霊園

かっぱ池(セト)

よ本9

予い夜リ、能満



1) 連絡、報告事項など

① きょうの予定

(1)13時30分～15時30分 打ち合わせ

② 今後の計画

- (1)11月17日(火曜日)9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (2)12月1日(火曜日)13時30分～ 第18回名所百選チーム
- (3)12月15日(火曜日)9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (4)1月10日(火曜日)13時30分～ 第19回名所百選チーム

2) 前回(9月29日)市原地区調査結果

- ①案内者・山越国臣様(前千葉日報論説員)地域活性プランナー、市原里づくりの会
- ②光善寺(麦飯石、応永石とうろう、社殿内部)、市原町会館、市原城址、古代道、阿須波神社、市原八幡宮、人市場村道標、古甲遺跡、釈蔵院、府中日吉神社、能満城
- ③10月2日「柳橋神事」柳橋司家での作成と出振る舞い、出御見学
- ④柳橋神事見学結果を「資料集成第9号」に編成
- ⑤” アイチャンネル放映

3) 市原地区の100選候補

- ①光善寺(内陣?厨子)と柳橋神話(麦飯石)
- ②光善寺廃寺と応永型石とうろう
- ③市原城址(ゆうがい山)
- \*④白船城址
- ⑤能満村堰と用水路
- ⑥大多喜往還(鶴舞往還)旧道、現在の道
- \*⑦柳橋神事司家
- \*⑧古代路と堀切、柳橋神事の道
- ⑨阿須波神社と万葉碑
- ⑩市原八幡宮
- ⑪古甲遺跡と国府推定地(市原説)
- ⑫能満城址
- ⑬国府推定地(能満説)
- ⑭釈蔵院
- ⑮府中日吉神社
- ⑯人市場村道標
- \*⑰郡本八幡宮
- \*⑱市原市文化財センター
- \*⑲千草山古墳

- \*⑳稲荷台古墳(五井?)
- \*㉑稲荷台周辺の古代道(五井?)
- \*㉒大堰(五井?)

山木  
辰巳

地域活性プランナー

市原里づくりの会

山越国臣  
KUNIOMI YAMAKOSHI

〒290-0015 千葉県市原市市原112  
TEL/FAX 0436-41-0279  
携 帯 090-8728-7324

4) 菊間地区22選

①若宮地区(2選+1)

- ◎若宮コーロ塚公園と頂上の石仏(巨人伝説)
- ◎菊間八幡宮社と石造物(古式神社、いちょう、ちようず石、三山碑、隨身立像)
- △旧道潤井戸、八幡道(追加できないか)

②菊間台地区の古代遺跡(4選+2?)

- ◎菊間天神山古墳(市指定文化財、6世紀、円筒埴輪出土)
- ◎姫宮古墳(市指定文化財、昭和天皇観戦の地、前方後円墳)
- ◎北野天神山古墳
- ◎東関山古墳
- △菊麻(くくま)国造と菊間古墳群、新皇塚古墳跡(復活できないか)
- △菊間終末処理場と手永貝塚跡(復活できないか)

③菊間地区の中近世遺跡(13選)

- ◎菊間城新坂(明治3年、水野忠敬が新大手道として造営)
- ◎松翁稲荷社跡(跡碑、土塁、土壇=江戸藩邸から移築)
- ◎菊間城藩庁舎跡(医局と鐘、仮藩庁舎、2の丸相当、未完成に終わる)
- ◎神道墓所、神官根本家の墓
- ◎本丸水野忠敬御殿跡(地形、土塁残欠)
- ◎物見跡と第六天神社(地形、第六天神社、句碑)
- ◎千光院と石造物(七里法華で移る、巡拝塔、庚申塔)
- ◎菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道
- ◎菊間城水濠跡(四神相応の人工池)
- ◎菊間城大手道と大手
- ◎戒誓院と石造物(旧霊応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)
- ◎福寿寺と石造物(”、大型宝きょう印塔など)
- ◎藩校明親館、菊間小学校創設の地(明治25年まで、高柳先生碑含められないか)

④草刈地区(3選)

- ◎草刈堰と中川溝(村田川をせき止めして灌漑用水として利用、慶長年間説、元和8年説)
- ◎武田邸(市登録文化財第1号、大正5年建築)
- ◎高島の一本橋(旧鎌倉街道伝説)

⑤追加検討項目

- 辰巳への坂(飛天坂?)
- 八幡サッカー場

これまでの合計

八幡地区	44選
五所地区	12選
菊間地区	22選
市原地区	

5) その他

以上



1) 連絡、報告事項など

① きょうの予定

- (1) 9時～ 清見の滝と放生の池周辺清掃 (10月3日秋の大祭の前に)
- (2) 13時～ 名所百選チーム (10月分、市原地区見学会=山越さん)

② 今後の計画

- (1) 10月13日 (火曜日) 9時30分～ 八幡史学館③現地巡見 (菊間地区)
- (2) 10月20日 (火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (3) 11月3日 (火曜日) 13時30分～ 第17回名所百選チーム
- (4) 11月17日 (火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃
- (5) 12月1日 (火曜日) 13時30分～ 第18回名所百選チーム
- (6) 12月15日 (火曜日) 9時～ 「清見の滝と放生の池周辺」清掃

2) 菊間地区 22選 (雨天見学回中止場合の打ち合わせ=実施の場合は次回)

① 若宮地区 (2選+1)

- ◎若宮コーロ塚公園と頂上の石仏 (巨人伝説)
- ◎菊間八幡宮社と石造物 (古式神社、いちょう、ちょうず石、三山碑、隨身立像)
- △旧道潤井戸、八幡道 (追加できないか)

② 菊間台地区の古代遺跡 (4選+2?)

- ◎菊間天神山古墳 (市指定文化財、6世紀、円筒埴輪出土)
- ◎姫宮古墳 (市指定文化財、昭和天皇観戦の地、前方後円墳)
- ◎北野天神山古墳
- ◎東関山古墳
- △菊麻 (くくま) 国造と菊間古墳群、新皇塚古墳跡 (復活できないか)
- △菊間終末処理場と手永貝塚跡 (復活できないか)

③ 菊間地区の中近世遺跡 (13選)

- ◎菊間城新坂 (明治3年、水野忠敬が新大手道として造営)
- ◎松翁稲荷社跡 (跡碑、土塁、土壇=江戸藩邸から移築)
- ◎菊間城藩庁舎跡 (医局と鐘、仮藩庁舎、2の丸相当、未完成に終わる)
- ◎神道墓所、神官根本家の墓
- ◎本丸水野忠敬御殿跡 (地形、土塁残欠)
- ◎物見跡と第六天神社 (地形、第六天神社、句碑)
- ◎千光院と石造物 (七里法華で移る、巡拝塔、庚申塔)
- ◎菊間城村田川荷揚げ場と引き上げ道
- ◎菊間城水濘跡 (四神相応の人工池)
- ◎菊間城大手道と大手
- ◎戒誓院と石造物 (旧霊応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)
- ◎福寿寺と石造物 (〃、大型宝きょう印塔など)
- ◎藩校明親館、菊間小学校創設の地 (明治25年まで、高柳先生碑含められないか)

④ 草刈地区 (3選)

- ◎草刈堰と中川溝 (村田川をせき止めて灌漑用水として利用、慶長年間説、元和8年説)
- ◎武田邸 (市登録文化財第1号、大正5年建築)
- ◎高島の一本橋 (旧鎌倉街道伝説)

これまでの累計=78選 (100選まであと22選)

八幡地区 44選  
五所地区 12選  
菊間地区 22選

⑤ 追加すべきはないか

3) その他

- ① 情報交換  
新発見写真

以上



1) 連絡、報告事項など

- ① きょうの予定  
会議だけ
- ② 「清見の滝と放生の池」清掃の日  
(1) 8月18日実施  
(2) 次回9月21日(火) 9時00分~45分。原則として第3火曜日だが今月は変則
- ③ 八幡公民館「八幡史学館」=  
(3) 10月13日(現地巡検=菊間城周辺を歩く)  
9時30分集合、10時30分菊間団地行きバス乗車、午前古墳、午後菊間城跡周辺見学  
昼食は菊間コミュニティセンター周辺、15時30分現地解散

2) 菊間地区(明治22年旧菊間、古市場、大厩、草刈村合併)のうち旧菊間村分

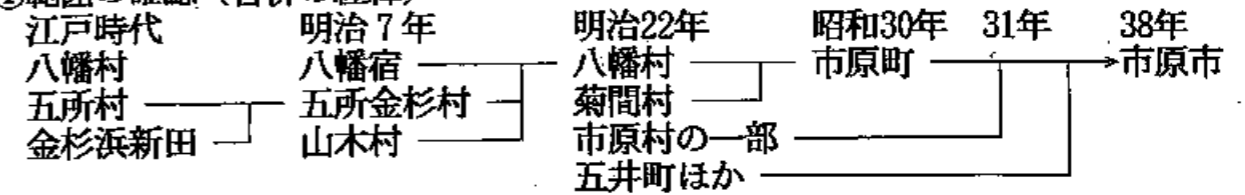
- ① 前回のランク付け(◎、○、△、×=最終決定に菊間地区まとめて)
- ◎若宮コーロ塚公園(巨人伝説)と碑
- ×若宮団地と沼田跡
- ◎菊間城新坂(明治3年、水野忠敬が新大手道として造営)
- ◎菊間八幡宮社殿(古式神社、含む隋身立像)
- ◎" のいちょう
- " 石ちょうず鉢(寛文8年)
- △" 三山碑
- ◎松翁稲荷社跡(碑、土塁、土壇=江戸藩邸から移築)
- △忠魂碑
- 明親館高柳先生の碑
- ◎菊間城藩庁舎跡(雲の境=医局と鐘、仮藩庁舎、2の丸相当、未完成に終わる)  
牧場、ゴルフ練習場(廃業)
- ◎神道墓所、神官根本家の亀扶型行状碑
- ◎菊間城四神相応の人工池(水堀)
- △田辺の下(県営住宅)
- ◎藩校明親館、菊間小学校創設の地(明治25年まで)
- ◎本丸水野忠敬御殿跡(地形、土塁残欠)
- ◎物見跡と第六天神社(地形、第六天神社、句碑)
- ◎千光院と石造物(板碑は非公開、巡拝塔、庚申塔)
- ◎菊間藩村田川荷揚げ場と引き上げ道
- ◎大手道と大手(関係ないが昭和はじめの道標)
- △菊間手長貝塚跡(排水処理場)
- △市原条里制遺跡
- 第2代菊間小学校旧地(コミュニティセンター)
- 戒誓院と石造物(旧霊応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)
- 福寿寺と石造物("、大型宝きょう印塔など)

②前回見学分

- 菊麻(くくま)国造と菊間古墳群
- 菊間天神山古墳(市指定文化財)6世紀、円筒埴輪出土
- 姫宮古墳(市指定文化財)前方後円墳
- 北野天神山古墳
- 東関山古墳と東関の松伝説
- 新皇塚古墳跡
- 草刈堰と中川溝(村田川をせき止めして灌漑用水として利用、慶長年間説、元和8年説)
- 武田邸(市登録文化財第1号、大正5年建築)
- 天神さま
- 長妙寺と長妙寺橋
- 松葉屋船溜まり
- 高島の一本橋

3) 市原地区(山木村、市原村の一部)

①範囲の確認(合併の経緯)



②見学会(次回)

市原地区 山越さんの知人にご案内いただく予定

4) その他

①次回=先方の都合もあり何日か予備日もほしい。10月は超過密のためできれば9月後半にし

②情報交換

以上



八幡史学館名所百選4-A  
第14回打合せ概要

平成21-8-4  
事務局

1) 連絡事項等

① 打ち合わせ予定

打ち合わせ 13:30 ~ 14:45

菊間地区 15:00 ~ 16:30

② 「清見の滝」清掃の日

7月21日(火) 霧雨のため4人乗、花の石定地

8月18日(火) 9:00 ~ 9:30 (予定)

③ 史学館

8月3日(月) ② 資料2x2ト八幡村18(8) 終了

10月13日(火) ③ 現地巡見

④ 菊間地区名所百選

⑤ 本山下見予定コース

13回打合せ資料参照

⑥ その他

次回 9-1 (火) 13:30 ~

以上

2) 菊間地区 (明治22年旧菊間、古市場、大原、草刈村合併) のうち旧菊間村分

① 前回のランク付け (◎、○、△、× = 最終決定に菊間地区まとめて)

◎ 若宮コーロ塚公園 (巨人伝説) と碑

× 若宮団地と沼田跡

◎ 菊間城新坂 (明治3年、水野忠敬が新大手道として造営)

◎ 菊間八幡宮社殿 (古式神社、含む隨身立像)

◎ " のいちよう

○ " 石ちょうず鉢 (寛文8年)

△ " 三山碑

② 前回見学、今回ランク付けする分

② (1) 松翁稲荷社跡 (碑、土塁、土壇 = 江戸藩邸から移築)

② (2) 忠魂碑、菊間藩庁舎文化財研究会史跡杭

② (3) 明親館高柳先生の碑

② (4) 菊間城藩庁舎跡 (雲の境 = 医局と鐘、仮藩庁舎、2の丸相当、未完成に終わる)

◎ (5) 神道墓所、神官根本家の亀扶型行状碑

◎ (6) 菊間城西神相応の人工池 (水塔)

◎ (7) 伊原菅生宅 (田舎下)

◎ (8) 藩校明親館、菊間小学校創設の地 (明治25年まで)

◎ (9) 本丸水野忠敬御殿跡 (地形、土塁残欠)

◎ (10) 物見跡と第六天神社 (地形、第六天神社、句碑)

◎ (11) 千光院と石造物 (板碑は非公開、巡拝塔、庚申塔)

◎ (12) 菊間藩村田川荷揚げ場と引き上げ道

◎ (13) 大手道と大手 (関係ないが昭和はじめの道標)

△ (14) 菊間手長貝塚跡 (排水処理場)

△ (15) 市原条里制遺跡

◎ (16) 古代道は?

◎ (17) 第2代菊間小学校旧地 (コミュニティセンター)

◎ (18) 菊間中学校

◎ (19) 戒誓院と石造物 (旧靈心寺、満徳寺子院、江番札所巡拝塔など)

◎ (20) 福寿寺と石造物 ("、大型宝きょう印塔など)

② 本山下見予定コース (車移動)

\* 古代

(1) 菊麻 (くくま) 国造と菊間古墳群

(2) 菊間天神山古墳 (市指定文化財) 6世紀、円筒埴輪出土

(3) 若宮古墳 (市指定文化財) 前方後円墳

(4) 北野天神山古墳

(5) 東関山古墳と東関の松伝説

(6) 新皇塚古墳跡

\* 近世、近代 (時間なければ次回)

(1) 草刈堰と中川溝

(2) 武田邸 (村田川をせき止めして灌漑用水として利用、慶長年間説、元和8年説)

(3) 武田邸 (市登録文化財第1号、大正5年建築)

(4) 天神さま

(5) 長妙寺と長妙寺橋

(6) 松葉屋船溜まり

(7) 高島の一本橋







八幡の明治維新主要年表

慶応4年、明治元年(1868)

(明治戊辰の戦いと八幡五井戦争)

- 1月2日 鳥羽伏見の戦いで幕府軍が敗れ、6日徳川慶喜は大坂を脱出、江戸へ向かう
- 2月3日 天皇親征の詔を発し、大総督を設置する
- 4月11日 江戸無血開城、慶喜は水戸へ向かう
- 4月12日 不満の福田八郎右衛門ら旧幕脱走兵1,500人が木更津で徳川義軍府を結成
- 閏4月3日 義軍は市川、船橋に前線を布くが官軍の砲撃に敗れる
- 閏4月4日 名主好次郎、たまたま遭遇し立ち往生、飛脚便で状況報告(2通) 三馬
- 閏4月7日 未明官軍は八幡円頓寺に集結、南新田で交戦、ここで五井、川岸、君塚3 鳥
- 6日 隊に分かれた。義軍は養老川を中心に抵抗、多くの犠牲者を出して敗走
- 閏4月8日 官軍は最後の本宮真里谷真如寺を攻めて制圧した。しかし地元は直轄領や旗本知行地で幕府びいき、残党が潜むなど不穏な状況が続いた

(知県事・柴山文平東屋仮役所)

- 7月15日 柴山文平、上総房州監察兼知県事に任命され、八幡東屋着、仮役所開設  
(市原のあゆみは市川信明郎とする)
  - 7月17日 " 仮役所から房総常陸諸藩に通達
  - 7月18日 " 支配8郡の組合親村に通達、出頭を命ず
  - 7月19~21日 組合村総代ら仮役所に出頭
  - 7月22日 仮役所、組合村村々に高付帳提出を命ず
  - 7、8月 名主好次郎、知県事役所へ高反別書き上げなどを提出
  - 8月1日 柴山文平大多喜へ移り、後さらに長南浄徳寺に移転
- このころ 八幡村名主一同、知県事にこれまで通り永々支配宿嘆願書提出

(菊間水野藩関係)

- 5月24日 徳川家相続人徳川家達に駿府70万石を与える  
沼津城主水野忠敬に追って所替え用意あるべき旨達し
- 7月13日 所替え地上総国市原郡の内23,700石余と決定
- 7月27日 忠敬、忠寛ら伊豆戸田村七郎衛門方へ引き移り
- 8月 このころ藩士ら仮住まいの戸田村へ移転
- 8月 田所嘉文を拝領地受取方兼境界測量方として派遣
- 8月22日 領地替え経費として1万3千両を借用
- 8月23日 沼津の領内郷村を引き渡す
- 8月26日 忠敬、上総新封の警守を命じられる
- 8月30日 沼津城引き渡し
- 9月6日 上総新封警守のため水野藩兵市原に着任(菊間、八幡?)
- 9月4日 黒沢著幸、五十嵐親を測量方などに、このころ太田永直を総普請役、服部純士族屋敷割りなどに派遣
- 9月8日 年号をあらため「明治」となる
- 9月16日 忠敬、新政府に出頭、新領地拝領のお礼言上
- 9月21日 改めて上総新封の辞令交付?
- 9月27日 忠寛、東京を昨夕乗船、早晩八幡着、旅館新左衛門宅着

- 10月 忠寛は現地に先行して指揮を取ったとみられる。のち称念寺に移る  
このころ八幡村称念寺を「宿陣」、旅館藤田屋を「仮藩邸?」とする  
本陣名主邸、東屋、八幡宮市川信明邸なども利用されたとみられる
- 10月 八幡村名主一同、陣屋取り立てで諸入用負担を申し合わせ
- 10月 このころ陣屋地決定、築城工事開始か(縄張りや工事内容伝える資料未確認)
- 10月 一部所替え、13,590石を上地、同じ市原郡のうちに13,680石が与えられる
- 10月13日 菊間藩の施政方針にあたる「達しの覚え」を通達
- 12月17日 領地替え経費として現米1,000石、金1万5千両ずつ3か年下賜が決定、ただし8月先納分を相殺
- 12月 好次郎ら菊間藩に高反別などを提出
- 10~12月 このころ沼津藩士が相次いで菊間に移転。徳永台、柳谷、前畑、樋口などに地割りし、一部は大厩、山木、草刈村などの地が与えられた。多くは沼津から解体輸送した舌材を利用した。建物や家財道具はいったん沼津城に近い狩野川の御用河岸に運ばれ、ここからダンベイ船で八幡の浜本港に運ばれ、そこから大八車かさらに小船に積み替え、村田川を逆上って陸揚げされた。菊間台地に忽然と現れた城下、その周辺にはたごやすし屋、そば屋、銭湯などが立ち並んだ。

明治2年(1869)

- 2月19日 忠敬、諸藩主にならい版籍奉還を願い出る
- 3月4日 忠敬、羽後守となる
- 6月19日 版籍奉還となり、忠敬は菊間藩知事に任ず
- 6月20日 忠敬、藩知事の辞表を提出
- 6月26日 藩知事の家禄は実高の10分の1と決まる。忠敬は1,926石となる
- 7月7日 忠敬、新政府の説諭で改めて菊間藩知事を拝受
- 7月26日 忠敬はじめて菊間に国入り、菊間千光院をへて八幡神社祠官根本氏宅を改造して移る
- 9月 大浜支庁に服部純着任、「旧弊改正」を実施

明治3年(1870)

- 1月3日 武士の俸祿削減が発せられる。のち菊間藩では旧士族20石などとする
- 2月25日 菊間城大手筋新道(新坂)工事入札、金407両余で十五沢村弁次落札
- 3~4月 医局においてほうそう種痘
- 4月25日 忠敬、供揃いで勝馬村周辺村々を巡見
- 7月12日 大手筋新道普請完成。経費は近隣村々が高割りで負担
- 12月15日 御公廩(こうがい=役所)上棟式
- 12月19日 " 郡中村々へ備餅配付
- 12月25日 村々農事休日を制定
- 12月27日 御公廩に引き移り
- このころ 藩校「明親館」を新築する  
(この年の御用留めが勝間村名主・深山甚蔵家に現存している)

明治4年(1871)

- 2月 一部所替え。長柄郡のうち17か村、11,135石与えられる
- 2月4日 忠敬住居棟上式
- 3月8日 大浜支庁で「大浜騒動」起こる
- 7月14日 廃藩置県。菊間藩は菊間県となる。
- 7年15日 忠敬、菊間藩知事を免じられ、菊間藩庁は菊間県庁となる。
- 11月13日 菊間県などを統合、木更津県に編入



1) 連絡、報告事項など

- ① きょうの予定  
会議を1時間程度で切り上げ、第2回菊間地区下見(見学地後出、雨天中止)
- ② 「清見の滝と放生の池」清掃の日  
(1)5月26日第3回実施、全員参加、第1回菊間地区下見実施  
(2)清掃の日を固定できないか、(第3火曜日)8時00分~30分、朝の方がよいか  
ただし6月は16日が「八幡史学館」、23日「石造物の会」のため30日は?
- ③ 八幡公民館「八幡史学館」=5月18日即日満席、募集打ち切り(4年連続)  
ご協力ありがとうございました。  
6月16日(八幡名所百選、八幡の醤油醸造所、句碑と歌碑)  
8月3日(菊間城と藩政、名主文書から新資料紹介)  
10月13日(現地巡検=菊間城周辺を歩く)

2) 菊間地区(明治22年旧菊間、古市場、大厩、草刈村合併)のうち旧菊間村分

- ① 前回下見箇所分のランク付け(◎、○、△、×=最終決定に菊間地区まとめて)
  - ①若宮コーロ塚公園(巨人伝説)と碑
  - ②若宮団地と沼田跡
  - ③菊間城新坂(明治はじめ水野忠敬構築)
  - ④菊間八幡宮(若宮神社)  
白鳳年間創建、頼朝伝説、家康20石寄進、別当寺は靈応寺(若宮寺)、明治村社  
本殿、瑞門、瑞垣(玉垣)=延享5年再建、拝殿=天保9年  
石坂=享保10年、寛政6年  
隨身立像=平安後期、木造狛犬、高良大明神、武内大明神
  - いちじょう樹
  - ⑤菊間八幡宮石手水鉢(寛文8年)△三山塚その他石造物
  - ⑥松翁稲荷社跡(碑、土墨、土壇、礎石?)  
忠魂碑、菊間藩庁舎文化財研究会史跡杭
  - ⑦明親館高柳先生の碑
  - ⑧菊間城藩庁舎跡(雲の境=医局、仮藩庁舎、2の丸相当、未完成に終わる)  
牧場、ゴルフ練習場(廃業)
  - ⑨神道墓所、神官根本家の亀扶型行状碑
  - ⑩菊間城四神相応の人工池
  - ⑪県営住宅
  - ⑫藩校明親館跡地説
  - ⑬本丸水野忠敬御殿跡(地形、土墨残欠)
  - ⑭物見台跡(地形、第六天神社、句碑)
  - ⑮千光院と石造物(板碑は非公開、巡拝塔、庚申塔)

② 本日第2回下見コース(車移動)

- (1)武家屋敷地、長屋地、町並、五の字道路、岡田程八家跡
- (2)総構え、町家保護地域(堀底?の町)
- (3)水野忠敬仮御殿跡(本丸相当=茅葺きの質素)
- (4)菊間廃寺跡
- (5)菊間コミュニティセンター

③ 次回以降下見分

\*古代史(古代道は?)

- (1)菊麻(くくま)国造と菊間古墳群
- (2)菊間天神山古墳(市指定文化財)6世紀、円筒埴輪出土
- (3)姫宮古墳(市指定文化財)前方後円墳
- (4)北野天神山古墳
- (5)東関山古墳と東関の松伝説
- (6)新皇塚古墳跡
- (7)菊間手永貝塚跡(排水処理場)
- (8)市原条里制遺跡

\*菊間城関係

- (1)菊間藩村田川荷揚げ場と引き上げ道
- (2)大手道と大手(関係ないが昭和はじめの道標)

\*寺と石造物

- (1)戒誓院と石造物(旧靈応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)
- (2)福寿寺と石造物(〃、大型宝きょう印塔など)
- (3)神式墓所、根本家佳胤の行状碑

\*その他

- (1)菊間小学校旧地(千光院、コミュニティセンター、現在地ほか)
- (2)菊間中学校

3) その他

- ①次回は 7月7日(第1火曜日)13時30分 八幡公民館
- ②みなさんからの情報交換

次回 8月4日

以上



1) 連絡、報告事項など

① きょうの予定

菊間地区は名所候補が多い。先に一度現地を見ておいた方がよい。  
会議は1時間程度で切り上げ、菊間地区下見第1回

② 「清見の滝と放生の池」清掃の日

- (1) 4月14日第3回、終了後菊間地区第1回下見の予定であったが雨天のため中止  
(2) 掲示板使用許可、毎月決まった日の方がよいのでは(第 火曜日13時から30分間程度)  
(3) 5月 日終了後、第2回菊間地区下見

③ 八幡公民館「八幡史学館」=5月18日受け付け(窓口または電話=41-1984)

6月16日(八幡名所百選、小川醤油、句碑と歌碑)、8月3日(菊間城と藩政、名主  
文書から新資料紹介)、10月13日(現地巡検=菊間城周辺を歩く)

(1) 参加を呼びかけてください

④ 辰巳公民館「江戸東京史跡散策」=5月18日受け付け(窓口または電話=74-8521)

6月26日(江戸城と大江戸八百八町)、7月31日(お茶の水、霞が関、北の丸に江戸を訪ね

2) 五所地区「名所百選」(選定終了)

① 明照院跡と五所小学校発祥の地

② 満蔵寺と石造物(札所巡拝塔、筆子塚、廻国塔、子安像、観音像)

③ 田中踏み切りの道標(笠森寺、国分寺)

④ 金杉浜塩田跡と塩田土堤残欠

⑤ 県無形文化財ゆかりの柳楯大道

⑥ 伝足利義明御所跡、白旗神社と義明碑

⑦ 出羽三山信仰と方形3段供養塚

⑧ 伝八幡宮元八幡の若宮八幡宮

⑨ 北みお跡(北川)

⑩ 新田みお跡(金杉川=ボラ川)

⑪ 四反田遺跡と古代道跡(五所小学校)

⑫ 金杉川の庚申塔

3) 菊間地区(明治22年旧菊間、古市場、大厩、草刈村合併)のうち旧菊間村分

① 本日下見予定のコース(時間切れ打ち切りあり)

(1) 若宮コーロ塚公園(巨人伝説)

(2) 菊間城新坂(明治はじめ水野忠敬構築)

(3) 菊間八幡宮(若宮神社)

白鳳年間創建、頼朝伝説、家康20石寄進、別当寺は霊応寺(若宮寺)、明治村社  
本殿、瑞門、瑞垣=延享5年再建、拝殿=天保9年 摂社=最近の再建  
水屋明治15年再建、2の鳥居=明和元年?、石坂=享保10年、寛政6年  
隨身立像=平安後期?、木造狛犬、高良大明神、武内大明神=天文16年

(4) 菊間八幡宮石手水鉢(寛文8年)、三山塚その他石造物

(5) 菊間城址=菊間台一帯が城址と考えられる

(6) 菊間城藩庁舎跡(雲の境=医局、仮藩庁舎、2の丸相当、未完成?)

(7) 明親館高柳先生の碑

(8) 藩庁文化財研究会杭と松翁稲荷碑、忠魂碑

(9) 水野忠敬仮御殿跡(本丸相当=茅葺きの質素)

(8) 千光院と石造物(板碑は非公開、巡拝塔、庚申塔)

(9) 菊間台藩土屋敷群跡(空堀?、総構え縄張り)

(10) 岡田程八家跡

(11) 水野忠寛御殿跡(完成したかどうか?)土塁現存

(12) 菊間廃寺跡

② 次回以降下見分

\* 古代史関係(古代道はないか)

(1) 菊麻(くくま)国造と菊間古墳群

(2) 菊間天神山古墳(市指定文化財)6世紀、円筒埴輪出土

(3) 姫宮古墳(市指定文化財)前方後円墳

(4) 北野天神山古墳

(5) 東関山古墳と東関の松伝説

(6) 新皇塚古墳跡

(7) 菊間手永貝塚跡(排水処理場)

(8) 市原条里制遺跡

\* 菊間城関係

(1) 菊間藩村田川荷揚げ場と引き上げ道

(2) 大手道と大手(関係ないが昭和はじめの道標)

(3) 菊間城沼(水濠)(四神相応の方位)

(4) 藩校明親館跡2説(菊間コミュニティ、バス折り返し点)

\* 寺と石造物

(1) 戒誓院と石造物(旧霊応寺、満徳寺子院、77番札所巡拝塔など)

(2) 福寿寺と石造物(〃、大型宝きょう印塔など)

(3) 神式墓所、根本家佳胤の行状碑

\* その他

(1) 菊間小学校旧地(千光院、コミュニティセンター、現在地ほか)

(2) 菊間中学校

(3) 県営住宅

(4) 菊間コミュニティセンター

(5) 若宮団地、菊間団地

4) その他

① 次回は 6月2日(第1火曜日)13時30分 八幡公民館

② みなさんからの情報交換

以上



10回打ち合わせ資料

1) 連絡、報告事項

- ① 「清見の滝と放生の池」清掃の日
  - (1) 3月24日第2回清掃実施。終了後五所地区前回残り箇所下見
  - 次回は4月14日(火曜日13時から30分間) → 菊間ハマノ台同下見(自給水)
- ② 調査活動
  - (1) 3月15日、八幡宮宝蔵庫公開、見学調査実施(途中中断)
  - (2) 日調整、大村家(昔話を聞き、お宅を見せてもらう) = 世話人 + X
  - ぜひ一緒にしたい方はどうぞ

2) 「八幡宿地区試作版」

- ① 80%仕上がり、イラスト、写真不具合差し替え、濃淡、行列調整を行なう
- ② 試作版は「八幡史学館」で披露(メンバー名記載)
- ③ 正式発行は全体の進行状況などを総合判断して決める(年度内めざす)

3) 五所地区「名所百選」の選定(前回継続)

- ① 第8回の検討結果
  - 無縁様観音堂
  - 明照院跡と五所小学校発祥の地
  - 満蔵寺と石造物(札所巡拝塔、筆子塚、廻国塔、子安像、観音像)
  - 道標(笠森寺、国分寺)
  - 金杉浜塩田跡と塩田土堤残欠
- ② 第9回の検討結果(○△確認)
  - 柳橋大道
  - 伝足利義明御所跡、白旗神社と義明碑
  - 金杉浜塩田開発者庄左衛門の墓
  - 五所共同墓地と三山方形3段塚
  - △五所富士講塚
  - △房総往還五所の左富士
  - 伝飯香岡八幡宮元八幡の若宮八幡宮
  - △大宮八幡宮
  - △神明神社と力石
  - 五所みお跡
  - 北川、金杉川
  - 五所小学校と旧官道跡
  - △南畑公園と土地改良工事記念碑
  - △八幡運河と神明公園
  - △密蔵寺跡
  - 磯部神社とひょうたん池跡
  - 五所の庚申塔
- ③ 10こほどを「100選」に選ぶ  
次回に個別説明文(案)、再度確認

4) 菊間地区(明治22年旧菊間、古市場、大厩、草刈村合併)

- ① 旧菊間村
  - ① 菊間天神山古墳(市指定文化財)6世紀、円筒埴輪出土
  - ② 姫宮古墳(市指定文化財)前方後円墳
  - ③ 新皇塚古墳
  - ④ 東関山古墳と東関の松伝説
  - ⑤ 藤原山古墳
  - ⑥ 横間山古墳

- ⑦ ほか中小古墳群
- ⑧ コーロ塚と巨人伝説
- ⑨ 菊間手永貝塚、実信貝塚
- ⑩ 菊間廃寺、菊麻(くくま)国造と関連づけできないか
- ⑪ 市原条里制遺跡
- ⑫ 白船城(中世の城=だれ?)
- ⑬ 菊間城藩庁舎跡(雲の境=2の丸相当?未完成?、仮藩庁舎はどこか?)
- ⑭ 菊間城址=菊間台=菊間合=菊間台=城址と考えられる
- ⑮ " 水野忠敬仮御殿跡(本丸相当=茅葺き質素)
- ⑯ " 水野忠寛御殿跡(完成したかどうか?)土塁現存
- ⑰ 跡=菊間台上すべてを城址と考えられる
- ⑱ " 大六天神社、松翁稲荷跡碑
- ⑲ " 忠魂碑と藩庁跡文化財研究会史跡杭
- ⑳ " 菊間台藩土屋敷群跡(総構え縄張り)
- ㉑ " 藩校明親館跡2説(菊間コミュニティ、水濠脇)
- ㉒ " 明親館○○先生の碑
- ㉓ " 大手跡、大手丸 資料?
- ㉔ " 水濠(沼)
- ㉕ 新坂(水野藩作成)
- ㉖ 千光院と石造物 七里法華で移る、板碑は非公開、むつかしそうなご住職
- ㉗ 福寿寺と石造物
- ㉘ 戒誓院と石造物 旧満徳寺子院、77番札所巡拝塔など
- ㉙ 神式墓所、根本家佳胤の行状碑
- ㉚ 菊間八幡宮(若宮神社) ~~是非は非公開~~
- 白鳳年間創建、頼朝伝説、家康20石寄進、別当寺は霊応寺(若宮寺)、明治村社  
本殿=延享5年再建、拝殿=天保9年 撰社=最近の再建  
瑞門、瑞垣 享保8年 水屋明治15年再建 2の鳥居=明和元年?  
石坂=享保10年、寛政6年  
隨身立像=平安後期 木造狛犬 高良大明神、武内大明神(天文16年)以上非公開
- ㉛ 菊間八幡宮の石手水鉢(寛文)、三山塚、その他石造物  
菊間小学校(千光院、コミュニティセンター、現在地ほか)  
菊間中学校  
県営住宅  
菊間コミュニティセンター

菊間ハ  
村田川が9条と中

② 旧古市場村、草刈村、大厩村

- ① 草刈堰
- ② 中川水路、中川水門
- ③ 高島1本橋、伝鎌倉街道
- ④ 登録文化財武田家住宅(大正5年建造の洋館医院建築)
- ⑤ 焼き肉レストランの移築農家
- ③ ほかはないか(次回検討)

① 松屋橋船だまり  
② 長砂寺橋

5) その他

- ① 次回は 5月5日(第1火曜日)13時30分 八幡公民館  
5月18日に「八幡史学館」講座募集
- ② みなさんからの情報交換

1) 連絡事項=公民館講座21年度の計画

① 八幡公民館「八幡史学館」=日程変更

(1)6月16日(火曜日)、(2)8月4日→3日(月曜日)、(3)10月13日(火曜日)

② 辰巳公民館「歴史散歩講座(新規)」

(1)6月26日(金曜日)講座=江戸城と世界1の大都市江戸

(2)7月31日(金曜日)バス研修(水道歴史館、湯島聖堂、ニコライ堂)

③ 辰巳公民館「中高年のためのすこやかカレッジ」

(1)9月15日(火曜日)バス研修(未定)

2) 「清見の滝と放生の池」周辺清掃報告

① 2月24日第1回開催

(1)池廻りを中心に清掃、ゴミや落ち葉撤去、放生の池落ち葉へドロ除去などを実施

(2)終了後、五所地区「八幡百選」候補地下見

② 第2回は3月17または24日(火曜日)13時00分~30分

③ 小型説明板の設置(百選すべて中型説明板設置目標)

清見の滝、句碑、石灯籠2、中島、井戸跡碑、ひょうたん池、樹木、名所写し?

3) 前回「八幡宿地区試作版」補足

① 写真、マップ図、タイトル、リード文

② 本文修正箇所

③ 次回にはほぼ完成版

4) 五所地区「名所百選」の選定(前回継続)

① 前回の検討結果

○無縁様観音堂

○明照院跡と五所小学校発祥の地

○満蔵寺と石造物(札所巡拝塔、筆子塚、廻国塔、子安像、観音像)

○道標(笠森寺、国分寺)

○金杉浜塩田跡と塩田土堤残欠

△元三太夫塩場跡

×県営住宅と最上階からの東京湾遠望 ×の理由=自由に立ち入れないから

△砂浜のり干し場跡

② 今回の検討箇所

(1)柳橋大道とゆかり御三家(浅野、中村、×中島) \* (下見なし)

(2)伝足利義明御所跡、白旗神社と義明碑

(3)金杉浜塩田開発者出張庄左衛門の墓

(4)五所共同墓地と三山方形3段塚

(5)五所富士講塚 \* (下見なし)

(6)房総往還五所の左富士

(7)伝飯香岡八幡宮元八幡の若宮八幡宮 \* (下見なし)

(8)大宮八幡宮 \* (下見なし)

(9)神明神社と方石 \* (下見なし)

(10)五所みお跡

(11)北川、金杉川

(12)五所小学校と旧官道跡 \* (下見なし)

(13)南畑公園と土地改良工事記念碑 \* (下見なし)

(14)八幡運河と神明公園

③ 追加

(1)密蔵寺跡 \* (下見なし)

(2)磯部神社とひょうたん池跡

(3)五所の庚申塔

④ ○を再チェック=多数決で決定

⑤ 次は「菊間地区」=資料お持ちの方は?

5) その他

①次回は 4月7日(第1火曜日)13時30分 八幡公民館

②みなさんからの情報交換



八幡史学館名所百選チーム  
第8回打ち合わせ資料

① 八幡 44選 → 44選  
② 五所 11選 平成21-2-3  
事務局

1) 連絡事項=公民館講座21年度の計画

- ① 八幡公民館「八幡史学館」(1本減り3本に)  
 (1) 6月16日=講座 ①八幡名所百選「八幡」(50分=百選チームの活動状況など)  
 ②佐倉さん (60分)  
 (2) 8月4日=講座 市原の近世城郭と菊間城(水野忠敬5万石)  
 (3) 10月13日=巡検 菊間城周辺を歩く(午後も)  
 (4) 秋番外(予定)= 観光バスで「菊間藩前任地・沼津城ほかを歩く」  
 沼津城址、沼津八幡公民館、浜松城(または掛川城、駿府城)  
 (5) 希望あれば東京の水野家ゆかり地をご案内します  
 徳川宗家菩提寺伝通院と水野忠敬ら歴代当主眠る旧塔頭真珠院  
 (6) 女性セミナーバス研修は断った  
 ② 辰巳公民館 歴史散歩講座(新規)  
 (1) 8月ころ=講座 江戸城と世界1の大都市江戸  
 (2) 9月ころ=バス研修 お茶の水に江戸を探る(水道歴史館、湯島聖堂、ニコライ堂)

2) 「八幡名所百選」八幡宿地区44選

- ① 参考=久留里&松丘ガイドマップ=ガイドチームもある  
 ② 宿題マップ図=宿題披露  
 ③ 試作版 次回までに内容チェック

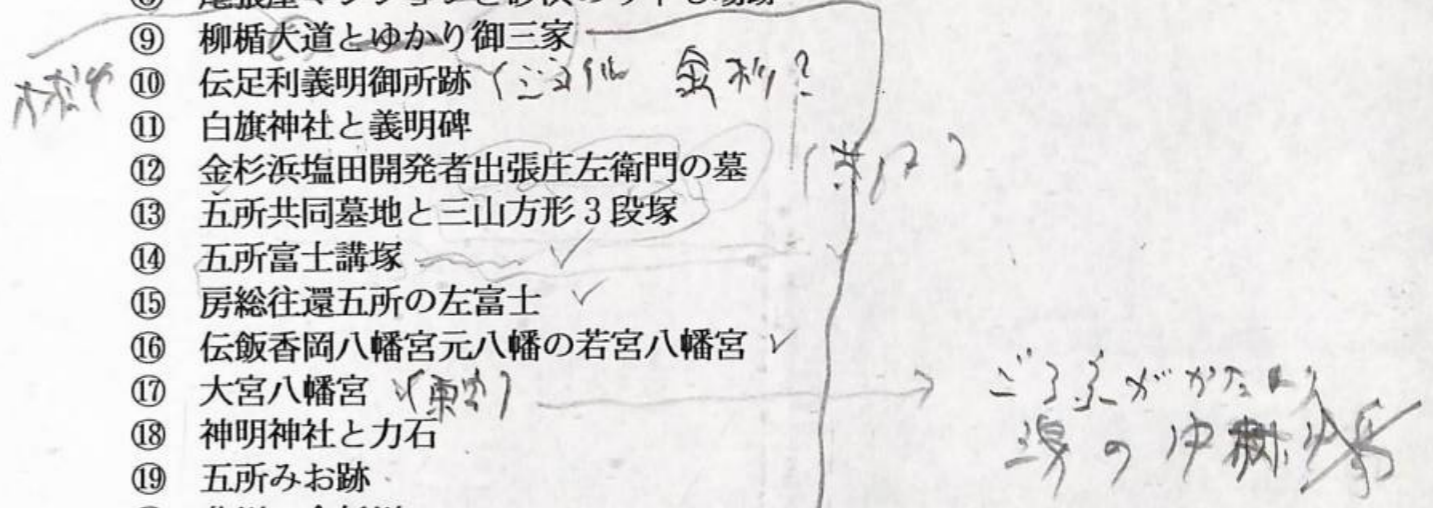
2月3日 18:00 豆玉を 3.4.5.6

DUP

④ みつ森寺の 本陣跡

3) 五所地区15選の選定

- ① 無縁様観音堂 ✓  
 ② 明照院跡と五所小学校発祥の地 ✓  
 ③ 満蔵寺と石造物(札所巡拝塔、筆子塚、廻国塔、子安像、観音像) ✓  
 ④ 道標(笠森寺、国分寺)  
 ⑤ 金杉浜塩田跡と塩田土堤残欠  
 ⑥ ポートピアと元三太夫塩場跡  
 ⑦ 県営住宅と最上階からの東京湾遠望  
 ⑧ 尾張屋マンションと砂浜のり干し場跡  
 ⑨ 柳楯大道とゆかり御三家  
 ⑩ 伝足利義明御所跡(シヨル 金杉?)  
 ⑪ 白旗神社と義明碑  
 ⑫ 金杉浜塩田開発者出張庄左衛門の墓 (※12)  
 ⑬ 五所共同墓地と三山方形3段塚  
 ⑭ 五所富士講塚 ✓  
 ⑮ 房総往還五所の左富士 ✓  
 ⑯ 伝飯香岡八幡宮元八幡の若宮八幡宮 ✓  
 ⑰ 大宮八幡宮 (東?)  
 ⑱ 神明神社と力石  
 ⑲ 五所みお跡  
 ⑳ 北川、金杉川  
 ㉑ 五所小学校と旧官道跡  
 ㉒ 南畑公園と土地改良工事記念碑 ✓  
 ㉓ 八幡運河と神明公園



5) その他

①次回は 3月3日(第1火曜日) 13時30分 八幡公民館

以上

清久の記と放生池 秋川  
 24日 13:00-15:00  
 24日 13:00-15:00

24日 13:00-15:00



明けましておめでとうございます、本年もよろしくお願い申し上げます

八幡史学館名所百選チーム  
第7回打ち合わせ資料

平成21-1-6

21年は確定、相違の年心いませう

事務局

1) 公民館講座、21年度の計画

① 八幡公民館「八幡史学館」(アンケート=歴史全般や市原全域のことも取り入れる)

(1) 6月ころ=講座 ①八幡名所百選「八幡」(百選チームの活動状況) 12/16, 24 2夜

②市原の醤油製造 小川製造所の場合(石造物研究会調査を中心に)

(2) 8月ころ=" 日本の城、市原の城、菊間の城(水野忠敬5万石) 中島 補少 提示

(3) 9月ころ=" 佐倉さん(100分くらい)

(4) 10月ころ=現地巡検 菊間城(陣屋)跡を歩く(現地集合、現地解散?) ①八幡→市原史学館

(5) 秋番外(検討)=観光バス?で菊間藩前任地<沼津城>を歩く 市原史学館

沼津城址、沼津八幡公民館、浜松城(または駿府城) ②2-1 村前城 反対申出中

② 参考=その他、公民館山岸担当講座

(1) 八幡公民館「女性セミナー」バス研修 コース未定

(2) 辰巳公民館 歴史散歩講座(新規)

8月ころ=講座 江戸城と世界1の大都市江戸

9月ころ=バス研修お茶の水に江戸を探る(水道歴史博物館、湯島聖堂、ニコライ堂)

(3) 辰巳公民館 中高年のための……バス研修 コース未定

2) 「八幡名所百選」の選定(継続) → 本日、八幡宿地区確定

① 八幡宿(旧八幡村)地区=第1次決定(24選)次回見本(執作版)作成へ

(1) 村田川跡=上総、下総国境の川、「更科日記」いけだ伝説、古戦場

(2) 村田川渡船場跡(庚申塔)(村田川公園)=大名行列や一般旅人が利用

(3) 石塚伝説と庚申塚跡(石塚公園)=伝八幡起源の地

(4) 観音町の道標=八幡村入り口の道標。東金道追分

(5) 胴マン塚=村田川の戦いで敗れた千葉康胤の胴と戦死者を埋葬

(6) 稱念寺と中世五輪塔群、地藏像=八幡の町域創設にかかわる

(7) 明治~昭和期の浜本みお跡=のり採り舟の拠点

(8) 水神様と力石(浜本)=船乗りの守り神、力くらべの石

(9) 浜本みお筋跡(八幡運河)=五大力船も通った江戸時代の運河

(10) 江戸時代の八幡港跡(八幡運河)=年貢津出し港。五大力船の拠点

(11) 旧料亭と海の家・魚惣(浜本)=明治後期の料亭建築

(12) 浜本倉町の町並み=かつて五大力船の回旋問屋(船宿)がならんだ

(13) 伝足利義明の墓(御墓堂)=八幡公方伝説ゆかり地

(14) 旧房総往還(宿通り)と高札場跡=大名行列が進み、継ぎ立て問屋場も

(15) 八幡陣屋跡(鈴木家)=伝江戸中期大名居所(堀または大久保八幡藩)

(16) 霊応寺跡(JR駅と駅前ロータリー)=廃仏毀釈で廃寺となった八幡宮別当寺

(17) 元八幡小学校(駅前ロータリー)=明治7年開校。ふるさとの学舎

(18) 八幡公民館と山口達画伯の大天井絵=八幡地区文化の殿堂、八幡居住の日本画家

(19) 八幡海岸岸壁と潮干狩り場跡(八幡運河)=岸壁は運動公園に海の町の名残

(20) 伝千葉康胤の墓(無量寺)=村田川の戦いで敗れた千葉一族の墓

21市川本店=元醤油製造業。江戸、明治の帳場や母屋、蔵、工場跡、塀などが現存  
22大村家=江戸、明治の米穀商の面影伝える店蔵造り、門かぶり松、蔵など  
23南総中学校跡(教育会館)=教育者・川上南洞が創設した私学校  
24飯香岡八幡宮社殿(本殿=国重要文化財、幣殿=県文化財)

② 第2次決定(18選=第1次とあわせ42選)

(1) 飯香岡八幡宮夫婦いちょう(県天然)=神木。伝八幡宮勧請の時勅使手植え記念樹

(2) " 逆さいちょう=神木。源頼朝伝説、源氏再興を祈願して逆さに植える

(3) " 放生池と清見の滝=八幡宮放生神事を伝承、かつて行楽地として賑わった

(4) " 手水鉢と水屋=寛文2年県内2番目の古い。重厚。水屋は慶応2年棟札

(5) " 参道石灯籠=承応4年、元禄4年杉井銘、江戸中期の石灯籠

(6) " 御影山と勅使君がため句碑=明治24年、33年、神社創建伝承を伝える

(7) " 立野信之文学碑=昭和56年、直木賞作家ゆかり地を記念

(8) " 漁組解散記念碑=昭和35年、八幡海岸埋め立ての経緯を伝える

(9) " 川上南洞像=昭和11年(30年再建)、郷土教育の父の経歴など記す

(10) " 菅野儀作像=昭和58年、八幡開発の父の業績を

(11) 満徳寺と石造物=不動明王、巡拝塔、供養塔石仏群

(12) 妙長寺と日蓮大菩薩塔、日蓮聖人像=貞享元年、寛文4年

(13) 円頓寺と御題目塔=文化13年、南無妙法蓮華經、日泰聖人閑居の霊場を刻む

(14) 無量寺と海難供養塔=

(15) 南町みお跡=慶長年間に八幡領主本多正信、正純、永井尚政が開削した運河と港

(16) 猿田彦神社と庚申塔=元禄6年、唐破風型、青面金剛、2童子、1猿を刻む

(17) 八幡宿駅=明治45年開設、国鉄木更津線、房総西線、内房線と変遷

(18) 埋め立て工業地帯=昭和30年代八幡浦埋め立て造成で誕生

③ ノミネート落選

(1) 八幡宮構え堀と土塁=天正20年、徳川家康の認可をえた掘割り

(2) " 富士塚と富士まる八講碑=大正6年移転、八幡の富士信仰

(3) " 行屋と出羽三山方形塚、三山碑=八幡地区の三山信仰が現在に続く

(4) " 市原出途庚申塔兼道標=安永2年、文字塔、幣束1猿、江戸道、笠森など

(5) " 道祖神=道路や旅人を守る神様、残念ながら平成18年に旧石を処分

(6) 八幡浦塩田跡=天明2年の金杉浜飛び地と慶応2年の八幡浦塩田

(7) 草刈堰中川分水路=八幡、五所の水田を潤す

(8) 稱念寺の地藏像=明暦2年、江戸の念仏講が寄進、碑銘にナゾの八幡西源寺銘

(9) 富士見橋=昔はたいこ橋で富士山がのぞめた

(10) 金刀比羅神社と富士浅間大社=力石も

(11) 小川醤油製造所母屋建物=明治36年建造の店舗兼居宅、土蔵現存建造物

(12) 旧豪商村市内庭跡と境界レンガべい

(13) 菊間出途と稲荷神社=菊間への追分道

(14) " 拝殿すかし石垣=明治44年、東京の魚がしや芝居小屋従業員など寄進

(15) " 往還石橋、観音町石橋と欄干残欠=嘉永3年、文化5年、古い石橋が現存

(16) 八幡中学校跡、八幡小学校発祥の地(円とん寺、稱念寺)

(17) 八幡郵便局、旧公民館跡、風力発電



④ 4選の見直し

①飯香岡八幡宮秋の祭礼と柳楯神事、宝蔵庫収蔵品を生かす手だてはないか

②重大な抜けはないか、3つへらせばピッタリ40だが

⑤ 「八幡名所百選散歩マップ①八幡宿地区編」の試作

(1)八幡宿(旧八幡村)地区  
五所(旧五所村)地区、

(2)見本=有楽町の場合など

(3)マップ図作成=うまいへた関係なし、みんなでチャレンジしませんか  
2月の例会に持ち寄る

⑥ 五所(旧五所村)地区(目標15選)候補

打合せ

→ 次回 ~~打ち~~ → 事前の打ち合わせ

おこなう

①無縁様観音堂

②明照院跡と五所小学校発祥の地

③満蔵寺と石造物(札所巡拝塔、筆子塚、廻国塔、子安像、観音像)

④道標(笠森寺、国分寺)

⑤金杉浜塩田跡と塩田土堤残欠

⑥ボートピアと元三太夫塩場跡

⑦県営住宅と最上階からの東京湾遠望

⑧尾張屋マンションと砂浜のり干し場跡

⑨柳楯大道とゆかり御三家

⑩伝足利義明御所跡)

⑪白旗神社と義明碑)

⑫金杉浜塩田開発者出張庄左衛門の墓

⑬五所共同墓地と三山方形3段塚

⑭五所富士講塚

⑮房総往還五所の左富士

⑯伝飯香岡八幡宮元八幡の若宮八幡宮

⑰大宮八幡宮

⑱神明神社と力石

⑲五所みお跡

⑳北川、金杉川

㉑五所小学校と旧官道跡

㉒南畑公園と土地改良工事記念碑

㉓八幡運河と神明公園

5) その他

①次回は 2月3日(第1火曜日) 13時30分 八幡公民館

以上

Handwritten notes and diagrams on the right page, including the characters '八幡' and '五所' and some arrows.

1) 打ち合わせ経費としてワンコイン醸金をお願い

- ①公民館使用料、資料コピー代など経費負担のため、毎回ワンコイン(50円、100円)の醸金をお願いしたい
- ②事務処理煩雑のため、とくに決算は行わないことをご了承ください

2) 「八幡史学館」20年度結果報告と21年度の計画

- ①平成20年度=おかげさまで無事終了しました
- ②平成21年度=ことしとほぼ同じスタイルで計画します  
5月=募集(40人+α)  
(1)6月=①講座 八幡と醤油製造(石造物研究会調査を中心に)
- (2)8月=②" 「八幡百選」または「八幡宿から江戸へ」(海と陸の旅)
- (3)9月=③" 佐倉さん
- (4)10月=④現地巡検 菊間、主として菊間城(陣屋)跡を歩く
- (5)11月=番外 電車か観光バスで菊間水野藩前任地<沼津城>を歩く

3) 八幡公民館の歴史資料を発見(参考)

- ①千葉新聞(千葉日報の前身)昭和24年3月28日=「模範町、八幡町を現地にみる」
- ②社会教育10年の歩み(県教育委員会)=  
社会教育委員会の歩み第3=社会教育施設 2 これまでの歩み(3)建設時代  
本県公民館運動の柱石となった八幡公民館のあしあと  
(1)八幡町の背景  
(2)八幡町公民館のできるまで

14:30~15:00?

千葉大学大学院 工学研究科デザイン科  
修士論文研究

「ドットマイニグ」を用いた観光対策として  
工場景観の「特徴」アンケート協力

市教育委員会 生涯学習課 > 協力要請  
八幡公民館

4) 「八幡名所百選」の選定(継続)

- ①八幡地区(目標40箇所)第1次ノミネート=確定分
  - (1)村田川跡(村田川公園)=上総、下総国境の川、「更科日記」いけだ伝説  
屈曲する千葉市との境界線は旧川跡、暴れ川物語る  
千葉宗家×馬加千葉村田川の戦い古戦場
  - (2)村田川の渡し場跡(村田川公園)=大名行列、一般旅人が利用。干潮はかち渡り
  - (3)石塚伝説と庚申塚跡(石塚公園)=伝八幡起源の地
  - (4)観音町の道標=八幡村入り口の道標。東金道追分
  - (5)胴マン塚=村田川の戦いで敗れた千葉康胤の胴と戦死者を埋葬
  - (6)稱念寺と中世五輪塔群=八幡の町域創設にかかわる
  - (7)明治~昭和期の浜本みお跡=のり採り舟の拠点
  - (8)水神様と力石(浜本)=船乗りの守り神、力くらべの石
  - (9)浜本みお筋跡(八幡運河)=五大力船も通った江戸時代の運河
  - (10)江戸時代の八幡港跡(八幡運河)=年貢津出し港。五大力船の拠点
  - (11)旧料亭と海の家・魚惣(浜本)=明治後期の料亭建築
  - (12)浜本倉町の町並み=かつて五大力船の回旋問屋(船宿)がならんだ
  - (13)満徳寺と伝足利義明の墓(満徳寺、御墓堂)=八幡公方伝説ゆかり地
  - (14)旧房総往還(宿通り)と高札場跡=大名行列が進み、休息のための本陣や継ぎ立て問屋場
  - (15)八幡陣屋跡(鈴木家)=伝江戸中期大名居所(堀または大久保八幡藩)
  - (16)霊応寺跡(JR駅と駅前ロータリー)=廃仏毀釈で廃寺となった八幡宮別当寺
  - (17)元八幡小学校(駅前ロータリー)=明治7年開校。ふるさとの学舎。
  - (18)八幡公民館と山口達画伯の大天井絵=八幡地区文化の殿堂、八幡居住の日本画家
  - (19)八幡海岸岸壁と潮干狩り場跡(八幡運河)=岸壁は運動公園に海の町の名残
  - (20)伝千葉康胤の墓(無量寺)=村田川の戦いで敗れた千葉一族の墓
  - (21)市川本店=元醤油製造業。江戸、明治の帳場や母屋、蔵、工場跡、塀などが現存
  - (22)大村家=江戸、明治の米穀商の面影伝える店蔵造り、門かぶり松、蔵など
  - (23)南総中学校跡(教育会館)=教育者・川上南洞が創設した私学校。
  - (24)飯香岡八幡宮社殿(本殿=国重要文化財、幣殿=県文化財)
- ②第2次ノミネート候補(16か所を選ぶ)
  - ◎飯香岡八幡宮夫婦いちょう(県天然)=神木。伝八幡宮勧請の時勅使手植え記念樹
  - ◎" 逆さいちょう=神木。源頼朝伝説、源氏再興を祈願して逆さに植える
  - ◎" 放生池と清見の滝=八幡宮放生神事を伝承、かつて行楽地として賑わった
  - △" 構え堀と土塁=天正20年、徳川家康の認可をえた掘割り
  - " 富士塚と富士まる八講碑=大正6年移転、八幡の富士信仰
  - " 行屋と出羽三山方形塚、三山碑=八幡地区の三山信仰が現在に続く
  - " 市原出途庚申塔兼道標=安永2年、文字塔、幣束1猿、江戸道、笠森など
  - △" 道祖神=道路や旅人を守る神様、残念ながら平成18年に旧石を処分
  - ◎(10)" 手水鉢と水屋=寛文2年県内2番目の古い。重厚。水屋は慶応2年棟札
  - ◎(11)" 参道石灯籠2基=承応4年、元禄4年杉井鑑、江戸中期の石灯籠
  - ◎(12)" 御影山と勅使君がため御碑=明治24年、33年、神社創建伝承を伝える
  - ◎(13)" 立野信之文学碑=昭和56年、直木賞作家ゆかり地を記念
  - ◎(14)" 漁組解散記念碑=昭和35年、八幡海岸埋め立ての経緯を伝える



- 15) 八幡宮川上南洞像=昭和11年(30年再建)、郷土教育の父の経歴など記す
- 16) 菅野儀作像=昭和58年、八幡開発の父の業績を
- 17) 拝殿すかし石垣=明治44年、東京の魚がしや芝居小屋従業員など寄進
- 18) 往還石橋、観音町石橋と欄干残欠=嘉永3年、文化5年、古い石橋が現存
- 19) 旧村田川の庚申塔=享保18年、新村田橋近くから移築、八幡村の安全を祈願か
- 20) 八幡浦塩田跡=天明2年の金杉浜飛び地と慶応2年の八幡浦塩田
- 21) 草刈堰中川? 分水路とひしゃご田んぼ=
- 22) 稱念寺の地蔵像=明暦2年、江戸の念仏講が寄進、碑銘にナゾの八幡西源寺銘
- 23) 富士見橋=昔はたいこ橋で富士山がのぞめた
- 24) 金刀比羅神社と富士浅間大社=
- 25) 小川醤油製造所母屋建物=明治36年建造の店舗兼居宅、土蔵現存建造物
- 26) 旧豪商村市内庭跡と境界レンガべい
- 27) 菊間出途と稲荷神社=菊間への追分道
- 28) 満徳寺の一石六地蔵と不動明王像=延享3年、寛文6年
- 29) 満徳寺の供養塔石仏群=宝篋印塔と石仏多数
- 30) 満徳寺の第79番巡拝塔=天明4年、讃岐崇徳天皇の移し
- 31) 妙長寺の日蓮大菩薩塔と日蓮聖人像=貞享元年、寛文4年
- 32) 円頓寺の御題目塔=文化13年、南無妙法蓮華経、日泰聖人閑居の霊場を刻む
- 33) 無量寺の海難供養塔=
- 34) 南町みお跡=慶長年間に八幡領主本多正信、正純、永井尚政が開削した運河と港
- 35) 猿田彦神社と庚申塔=元禄6年、唐破風型、青面金剛、2童子、1猿を刻む
- 36) 八幡小学校跡=
- 37) 八幡中学校跡、八幡小学校発祥の地(円とん寺、稱念寺)
- 38) 八幡宿駅、八幡郵便局、旧公民館跡
- 39) 埋め立て工業地帯、風力発電  
行事、非公開を除く

4) 次回以降の会議スケジュールについて

12月2日(火) 13:30 ~ 15:30 " ワニツ" 以上

1月6日(火) " "

6-13

八幡の次は五所

田中

次回、五所地区の名所候補にはどんなものがあるか?

- ① 熊緑林 観音堂
- ② 明正院 五所小学校発祥の地
- ③ 清蔵寺の石造物(筆子母、迴因塔、文京仔、観音像)
- ④ 道標(燈籠寺、同分寺)
- ⑤ 金杉浜塩田跡と塩田土庫残欠
- ⑥ ポートピア三太夫場ニオバ跡
- ⑦ 県学仕宅上階からの東京湾眺望
- ⑧ 旧ヨカ堂跡 1リホ止場
- ⑨ 大造と浅9、中村、中島印之流(柳瀬神社)
- ⑩ 信是利印所跡(塩田名主所跡) 今井
- ⑪ 向旗神社(善明研)
- ⑫ 塩田南登春 今井庄在郷内9巻
- ⑬ 富士講(前田)
- ⑭ 唐紀往還 五所の左官土
- ⑮ 八幡宮(菅八幡)
- ⑯ 大宮八幡神社

毛と塚の〜キ〜ケ〜

事務局各位殿

平成20-7-13

「八幡公民館とふるさと歴史展」展示物について(案)

八幡史学館  
名所百選委員会  
事務局長

- 1) 「八幡公民館コーナー」展示物
  - ◎(1)旧八幡公民館写真 およそ6~8点(未選定)
  - ◎(2)旧八幡公民館間取り図(聞き取り手書き図面作成)
  - (3)文部大臣表彰状=現物搬入
  - (4)浅見喜舟板書「八幡町」=現物搬入
  - (5)山口達画伯作品「天井絵」「浜辺にて」「鳳凰」「シャチ」写真(いまある写真)
  - ◎(4)原画スケッチ5点(うち1点裏面はコピー)(額を購入)
  - (5)ほかはないか(募集、工事者宅などあたる)
- 2) 「やわたむかし写真館コーナー」展示物
  - ◎(1)1列7点×3段=21点(未選定)  
市川さん以外(およそ7点=未選定)は新たに作成
  - ◎(2)写真サイズ=市川さんの発泡ボード台紙(ほぼA3)に統一  
外の写真は予備台紙に重ね合わせ使用(新たに台紙は作成しない)
- 3) 「八幡歴史散歩写真コーナー」展示物
  - ◎ 別紙(平成20-7-12)打ち合わせ結果参照
- 4) 「市原の古文書研究会コーナー」展示物
  - ◎(1)天正18年「八幡村絵図」コピー(飯香岡八幡宮文書)
  - ◎(2)貞享年間「八幡村周辺絵図」コピー(飯香岡八幡宮文書)
  - ◎(3)江戸後期「八幡村絵図」コピー(飯香岡八幡宮文書)
  - ◎(4)嘉永2年「徐地海面深さ絵図」コピー(飯香岡八幡宮文書)
  - ◎(5)文化6年「陣屋絵図」コピー(鈴木家文書)
  - ◎(6)江戸後期「市原出途絵図」写真コピー(寺島家文書)  
予備=「家康朱印状」「年貢定免状」「名主任命書」「宗門改め帳」
- 4) 「八幡の石造物研究会コーナー」展示物
  - (1)拓本「お神楽碑」
  - ◎(2)拓本、もう1点表装(未定)
  - ◎(3)拓本風景写真2~3点
- 5) キャッチコピー、説明文(案)などは進行状況にあわせて作成します。

以上

「八幡公民館とふるさと歴史展(仮称)」事務局打ち合わせ記録

平成20-7-12

八幡公民館  
小出、佐倉、北島、山岸(鷺津)

八幡史学館  
名所百選委員会  
事務局

- 1) 「八幡歴史散歩写真コーナー」展示内容および撮影スポット
  - ① 説明絵図(70×55cm程度1枚=写真または写真をコピー拡大)  
◎八幡町大観(八幡公民館=再撮影必要)
  - ② 組写真(1m×70cm程度1枚=複数枚組み合わせ可)  
◎飯香岡八幡宮=社殿、境内、正面鳥居、夫婦いちょう、逆さいちょう、\*富士塚  
\*大太刀、\*みこし(\*追加分)
  - ③ 小写真(B5サイズ)18+予備1枚(キャプション案)  
◎(1)伝八幡公方・足利義明の墓(満徳寺御墓堂墓地)
  - △ ✓ ◎ (2) 洞マン塚と伝千葉康胤の墓(無量寺、洞埋塚)
  - △ ✓ ◎ (3) 稱念寺の中世五輪塔群
  - △ ✓ ◎ (4) 石塚伝説の地、庚申塚跡(石塚公園)
  - △ ✓ ◎ (5) 伝江戸中期大名居所=八幡陣屋跡(鈴木さん宅)
  - △ ✓ ◎ (6) 村田川と渡し場跡
  - 2 ✓ ◎ (7) 江戸時代の八幡浦跡(八幡運河)
  - 5 ✓ ◎ (8) 昭和の浜本みお跡
  - 1 ✓ ◎ (9) 潮干狩りや海水浴で賑わった八幡海岸跡(八幡運河)
  - 4 ✓ ◎ (10) 船乗りの守り神・水神様
  - 5 ✓ ◎ (11) 大名行列も通った宿通り(旧房総往還)
  - 7 ✓ ◎ (12) 浜本(はもと)の町並み(倉町通り)
  - 9 ✓ ◎ (13) 2つの道標(観音町、八幡宮)
  - 10 ✓ ◎ (14) 江戸後期に醤油製造した市川本店
  - 11 ✓ ◎ (15) 江戸、明治の店造りを伝える大村さん
  - 12 ✓ ◎ (16) 八幡海岸とともに100年、元料亭の魚惣
  - 13 ✓ ◎ (17) ふるさとの学舎・元八幡小学校(JR駅と駅前ロータリー)
  - 14 ✓ ◎ (18) 南絵中学校跡と創設者川上南洞像(教育会館)
  - 3 ◎ ◎ 予備= 五大力船も通ったみお筋跡(八幡運河)\*追加分  
◎ その他=菅野儀作像は八幡公民館に入れる

- 2) 撮影=北島さん担当。◎印は新規撮影箇所

以上

その他展示計画は別紙(案)参照のこと



1) メンバーの再確認と作業部会報告

①会長=小出惣治41-1750

多村勝彦42-3860、高沢 毅41-2458、市川一見74-5247、山越恒吉41-5766、  
石井 勇41-7562、吉野三之助41-8236、木口佳弘41-0005  
北島勝代41-2447、朝倉久江43-6935、青木くに41-1466

事務局=佐倉東雄41-6094、鷺津寛子41-5101、事務局長=山岸弘明42-2237

②事務局連絡会=7月12日(土)に実施した

作業部会=8月11(月)、12(火)、19(火)、29日(金)に実施した

2) 「八幡公民館とむかしやわた展」について

②ポスター

③基本レイアウト(確認)

④準備状況=ほぼ順調

⑥搬入=作業部会(参加できる方で)

9月9日(火曜日)13時30分~16時	公民館会議室集合	最終準備作業
9月10日(水曜日) "	" 集合→現地	運び込みと下準備
9月11日(木曜日)9時~12時	現地	本展示、調整

(1)搬入時間=前展示者(教育委員会)の搬出時間確認中

(2)準備するもの=

輸送方法=浅見先生板書の搬入は?

⑥搬出=作業部会(参加できる方で)

9月30日(火曜日)14時~16時 公民館集合→現地 搬出  
輸送、保管廃棄区分け、公民館展示

⑦一部を引き続き10月の「公民館展示会」に使用

3) 「八幡稱念寺=山口達画伯収蔵作品一般公開」について

①展示方法=作品を本堂に並べる。資料や表題、説明文、記名帳は作らない。

②当日の当番=準備、片付け、展示番、説明(弁当、飲み物など自弁)

21日午前9時30分厳守~12時30分=3人(佐倉、石井、 )

" 午後12時30分~16時=3人(鷺津、 )

23日午前=3人(山岸、 )

" 午後=3人(小出、石井 )

22日はどうするか?

③入場募集=本格PRなしだが出来るだけ動員したい

④説明ポイント(聞かれた時の用意に=マニュアルは作らない)=

経歴、旧宅、子孫、稱念寺との関係、評価、八幡での現存、展示作品

4) 「八幡名所百選」の選定作業 ①八幡地区(目標箇所)

①第1次ノミネート(八幡公民館とむかしやわた展、歴史散歩展示分)

(1)村田川跡(村田川公園)=上総、下総国境の川、「更科日記」いけだ伝説

千葉宗家×馬加千葉村田川の戦い古戦場

(2)村田川の渡し場跡(村田川公園)=大名行列、一般旅人が利用(干潮は徒川も)

(3)石塚伝説と庚申塚跡(石塚公園)=伝八幡起源地

(4)観音町の道標=八幡村入り口の道標。東金道追分

(5)胴マン塚=村田川の戦いで敗れた千葉康胤の胴と戦死者を埋葬

(6)稱念寺の(と)中世五輪塔群=八幡の町域創設

(7)明治~昭和期の浜本みお跡=のり採り舟の拠点

(8)水神様と力石(浜本)=船乗りの守り神、力くらべの石

(9)浜本みお筋跡(八幡運河)=五大力船も通った江戸時代の運河

(10)江戸時代の八幡港跡(八幡運河)=年貢津出し港。五大力船の拠点

(11)旧料亭と海の家・魚惣(浜本)=明治後期の料亭建築

(12)浜本倉町の町並み=かつて五大力船の回旋問屋(船宿)がならんだ

(13)満徳寺と伝足利義明の墓(満徳寺、御墓堂)=八幡公方伝説ゆかり地

(14)旧房総往還(宿通り)=大名行列が進み、休息のための本陣や継ぎ立て問屋場も

(15)八幡陣屋跡(鈴木家)=伝江戸中期大名居所(堀または大久保八幡藩)

(16)霊応寺跡(JR駅と駅前ロータリー)=廃仏毀釈で廃寺となった八幡宮別当寺

(17)元八幡小学校(駅前ロータリー)=明治7年開校。ふるさとの学舎。

(18)八幡公民館と山口達画伯の大天井絵=八幡地区文化の殿堂、八幡居住の日本画家

(19)八幡海岸岸壁と潮干狩り場跡(八幡運河)=岸壁は運動公園に海の町の名残

(20)伝千葉康胤の墓(無量寺)=村田川の戦いで敗れた千葉一族の墓

(21)市川本店=元醤油製造業。江戸、明治の帳場や母屋、蔵、工場跡、塀などが現存

(22)大村家=江戸、明治の米穀商の面影伝える店蔵造り、門かぶり松、蔵など

(23)南総中学校跡(教育会館)=教育者・川上南洞が創設した私学校。

(24)飯香岡八幡宮社殿(本殿=国重要文化財、幣殿=県文化財)

②第2次ノミネート候補(一例)

飯香岡八幡宮境内=夫婦いちょう、源頼朝伝説逆さいちょう、徳川家康大太刀

伝足利義満寄進みこし4基、放生池と滝、富士山、三山行屋、構え堀(堀、土塁、

虎口=徳川家康認許)、市原出途道標、道祖神、手水鉢と水屋、承応元禄石灯笼、

御影山句碑、勅使君がため碑、日露戦役碑、六所神社

立野信之文学碑、漁組解散記念碑、川上南洞像、菅野儀作像

満徳寺一石六地藏と不動明王像、無量寺の海難供養塔、稱念寺の地藏像

南町みお(本多正信、正純、永井尚政開削運河と港)

塩田跡、草刈り堰分水、北新田集落、富士見橋

八幡小学校跡、八幡中学校跡、八幡小学校発祥の地(円とん寺、稱念寺)

八幡宿駅、八幡郵便局、旧公民館跡

埋め立て工業地帯、風車、現村田川、

5) その他

①「八幡公民館とむかしやわた展」の準備、進行状況により  
作業部会に切り換えることがあります。

山岸

八幡史学館名所百選チーム  
第2回打ち合わせ資料

平成20-8-5

事務局

1) 確認と連絡事項 (第1回打ち合わせ事項など確認)

① 名称=八幡史学館名所百選チーム

- (1)「八幡史学館」の呼びかけで集まった任意団体。すべてボランティア。
- (2)事業により八幡公民館と共催、または後援、協力をお願いすることがある。

② メンバー

- (1)参加資格=八幡史学館参加者主体、八幡地区(旧市原町)居住者
- (2)会長=小出惣治☆41-1750 ☆印=八幡生まれ  
多村勝彦42-3860、高沢 毅☆41-2458、市川一見☆74-5247、山越恒吉☆41-5766  
北島勝代☆41-2447、朝倉久江☆43-6935、青木くに☆41-1466  
事務局=佐倉東雄☆41-6094、鷺津寛子 41-5101、事務局長=山岸弘明42-2237

(3)新メンバー自己紹介=

③ 事業

- (1)「八幡新?名所百景」の選定(来春3月決定、春発表目標)
- (2)八幡公民館1階ロビー(廊下)「八幡むかし写真館」常設展示
- (3)9月11日~30日八幡駅ギャラリー「八幡公民館とやわたむかし展」  
9月21、23日「八幡稱念寺=山口達画伯収蔵作品一般公開」の協力(実質主催)
- (4)その他

2) 「八幡公民館とやわたむかし展」について

- (1)基本レイアウト
- (2)展示品
- (3)準備作業のお手伝い(8月)  
8月11日(月曜日)13時30分~16時2階ロビー(5人程度)駒作成、展示品整理など  
8月12日(火曜日) "
- 9月2日(火曜日)の定例会で一部準備作業を行なう
- (4)搬入=9月10日(水曜日)15時~16時30分2階ロビー(5人程度)搬入準備  
9月11日(木曜日)9時~12時搬入(とりあえず全員とする)  
9月30日(火曜日)14時~16時搬出(とりあえず全員とする)

3) 「八幡稱念寺=山口達画伯収蔵作品一般公開」について

- (1)ポスター=掲示のお願い。知人呼びかけ多数参加を  
急法事の対応?(最終確認は前日?=小出)
- (2)展示方法=作品を本堂に並べる。特別な資料や表題、説明文は作らない。  
山口画伯と作品については9月の定例会で説明=当日、その範囲で説明
- (3)当日の当番=準備、片付け、展示番、説明(弁当、飲み物など自弁)  
21日午前9時30分厳守~12時30分=3人(小出、 ) } 次は  
" 午後12時30分~16時=3人(鷺津、 )  
23日午前=3人(佐倉、 )  
" 午後=3人(山岸、 )  
展示中に収蔵作品リスト作成(担当= )、写真(担当= )

(4)子孫宅=山口さんの協力要請

4) 「八幡新名所百景」の選定について

- (1)選定目的(確認)=公民館活動を通じた町起こし、活性化
- (2)八幡の範囲確認(確認)=旧市原町
- (3)新名所(確認)=史跡、建造物、遺跡、名勝、伝承、文学、天然自然など
- (4)百選の地区配分=第1次指定(ノミネート)  
八幡=40項目、五所=20項目、菊間=20項目、市原=15項目  
山木=15項目、辰巳=10項目、大厩=10項目  
100ぴったり?=現時点では結論をださない  
必要なら地区に詳しいメンバーを増員
- (5)8月、9月は八幡40項目をノミネート(以降順次地区を広げる)
- (6)たたき台=駅ギャラリー「八幡公民館とやわたむかし展=八幡の歴史散歩」
- (7)選定後の広報、普及活動などについては今後の打ち合わせで決定する。

以上

「八幡公民館とむかしかやわた展示=八幡歴史散歩写真コーナー」

- ① 八幡町大観(70×55cm1枚)
- ② 飯香岡八幡宮組写真(100×70cm1枚)
- ③ 小写真(B5サイズ)18枚+予備1枚  
(1)伝八幡公方・足利義明の墓(満徳寺御墓堂墓地)  
(2)胴マン塚と伝千葉康胤の墓(無量寺、胴埋塚)  
(3)稱念寺の中世五輪塔群  
(4)石塚伝説の地、庚申塚跡(石塚公園)  
(5)伝江戸中期大名居所=八幡陣屋跡(鈴木さん宅)  
(6)村田川と渡し場跡(村田川公園)  
(7)江戸時代の八幡浦跡(八幡運河)  
(8)昭和の浜本みお跡  
(9)潮干狩りや海水浴で賑わった八幡海岸跡(八幡運河)  
(10)船乗りの守り神・水神様  
(11)大名行列も通った宿通り(旧房総往還)  
(12)浜本(はもと)の町並み(倉町通り)  
(13)観音町の道標  
(14)江戸後期に醤油製造した市川本店  
(15)江戸、明治の店造りを伝える大村さん  
(16)八幡海岸とともに100年、元料亭の魚惣  
(17)ふるさとの学舎・元八幡小学校(JR駅と駅前ロータリー)  
(18)南総中学校跡と創設者川上南洞像(教育会館)  
予備=五大力船も通ったみお筋跡(八幡運河)



「八幡公民館60周年」協賛企画

「八幡地区名所百景」の選定について（企画構想）

八幡史学館

「八幡公民館60周年」に協賛し、主催事業「八幡史学館」講座の中で「八幡地区名所百選」を選定いたしたく、予め貴意お伺い致したくよろしくお願い申し上げます。

記

1) 「八幡公民館（または八幡史学館）選定＝八幡地区名所百景」の定義

- ① 八幡地区（旧市原町）の「景観または古蹟」などから「名所100」を選出する。
  - ② 地区別の名所数を例えば下記のように割り振り、段階的にすすめる。  
八幡名所三十八景 平成20年度に選出する  
五所名所、菊間名所、市原・山木名所二十景 平成21年度に選出する
- \* 「百景」に順位はつけない。合計がぴったり100でなくともよい

2) 選出方法とスケジュール

- ① 「八幡公民館60周年」協賛、選定は主催事業「八幡史学館」が行なう。
- ② 選定実務を担当する「選考小委員会」を講座参加者有志で編成する。
- ③ 初年度は「八幡名所三十八景」を選出、2年度で「百景」とする。
- ④ 予め、講座参加者および公民館利用者による「一般投票」を行なう。  
「選考小委員会」が結果を参考に「名所100景」を選定する。
- ⑤ 「一般投票」は候補地50点ほどの「ノミネート」に複数の○印を付ける方法とそれ以外の推薦箇所を書き込む方法を合わせた「投票用紙」で行なう。
- ⑥ 初年度の「八幡名所三十八景」選出スケジュール  
(1)第1回講座（6月） 講座参加者へ趣旨説明、投票用紙配付  
(2) （7月） 八幡公民館にポスターおよび一般用投票箱設置  
(3)第2回講座（8月） 選考小委員募集、第1回小委員会  
(4)第3回講座（9月） 講座参加者へ途中経過報告、第2回小委員会  
(5)第4回講座（10月） 第3回小委員会、講座参加者への結果発表  
(6) （11月） 1階ロビーに「八幡名所三十八景」を掲出

⑦ 一般投票「投票用紙」

- (1)予めノミネートしたおよそ50景から10か所に○印を付ける  
このほかに勧めたい所を記載してもらう
- (3)無記名、何回でも応募できる

⑧ 館内ポスターによるPR活動

⑨ 「ノミネート」はたとえば（飯香岡八幡宮境内の例）

飯香岡八幡宮社殿、秋の大祭と柳橋神事、夫婦いちょう、逆さいちょう、宝物殿、放生池、正面鳥居と参道、境内の石造物、旧市原出途道標、土墨水濠跡と石橋残欠、富士山、飯香岡碑、石尊様、三山講行屋など

3) 結果の活用など

- ① 地区ごとに「名所めぐりコース」を作り「ちらし」を駅や八幡公民館におく。
- ② 「八幡名所めぐり」の開催
- ③ 恒久化、定着＝案内表示、作成などの検討
- ④ パブリシティ活動＝千葉日報、東京新聞などへの情報提供
- ⑤ 主催事業での参加型「町起こし」、新しいスタイルができないか。 以上